

現行罰則法典

2528

32  
7  
684

館書圖京東

函七三門新

架五部一

號類



035996-001-0

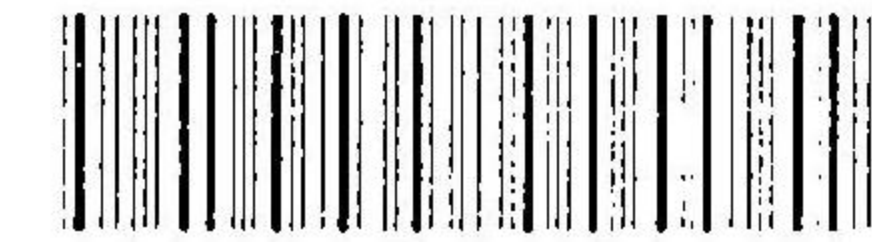
CZ-711-0218

現行罰則法典

小笠原 美治

M14

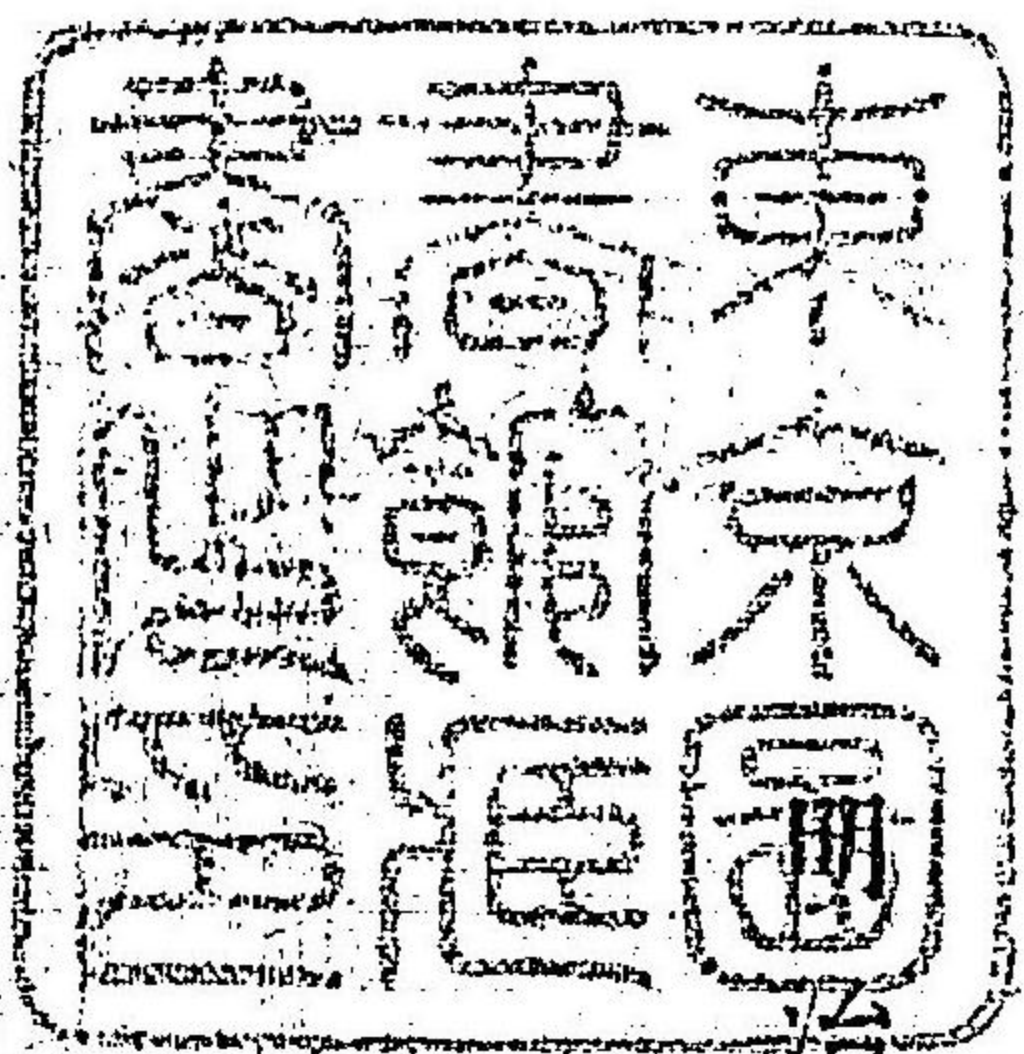
BBP-0612





小笠原美治編纂

現行罰則法典 完



十四年二月印行



C2  
5  
0240

特15  
437

成權  
有

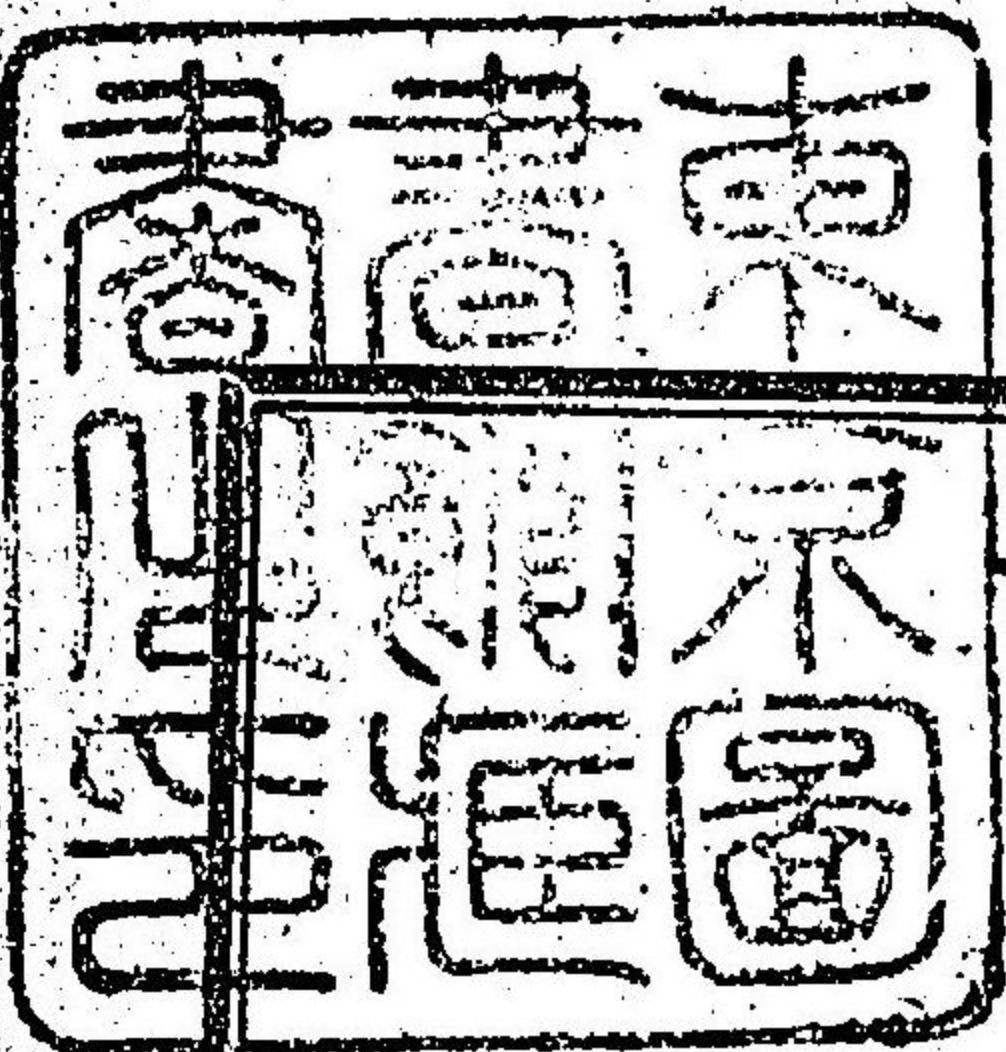
筆原  
美治  
編纂

現行罰則法典  
完

明治十四年二月印行

成權  
有





凡例

凡例

- 一 本書ハ明治初年以來全十三年十二月ニ至ル迄逐年布告  
布達セル現今施行ノ諸規則中ノ罰則等ヲ順次普及シ編  
輯シタル者ナリ
- 一 本書諸罰則中之ニ關涉必要ナル公布公達暨伺指令等ノ  
如キハ之ヲ鼈頭ニ掲載シ以テ參照ノ便ニ供ス
- 一 諸罰規中改正増補等ニ係ルモノハ其年月日ヲ付記シ直  
ニ其位置ニ挿入シ對考ノ煩ヲ略ク

明治十三年十二月

編者 識



現行罰則法典目錄

○第一章	船舶取締規則ニ關スル罰則	丁數
第一節	不開港場取締方規則ノ罰則	一
第二節	商船規則ノ罰則	一
第三節	不開港場取締心得方規則ノ罰則	二
第四節	船稅規則中第三則改正	三
第五節	解漁船並海川小廻船等船稅規則ノ罰則	四
第六節	海上衝突豫防罰則	五
第七節	西洋形商船々長運轉手機關手試驗免狀規則ノ罰則	六
第八節	西洋形商船々長運轉手機關手試驗免狀規則中ニ追加	八
第九節	西洋形船水先免狀規則ノ罰則	十一
第十節	西洋形商船海員雇入雇止規則ノ罰則	十二
第十一節	海上衝突豫防規則ノ罰則	十五
○第二章	銃砲取締規則ニ關スル罰則	十七
第一節	銃砲取締規則ノ罰則	十八
第二節	全上罰則増補	十八

目錄



○第三章	牛馬賣買取締規則ニ關スル罰則	二十二
第一節	牛馬賣買免許稅則ノ罰則	二十二
第二節	全上罰則中ニ追加ノ事	二十三
○第四章	鐵道規則ニ關スル罰則	二十八
第一節	鐵道犯罪罰例	二十八
第二節	全上罰則中改正	三十一
○第五章	鑛山規則ニ關スル罰則	三十二
○第六章	清國在留日本人ニ關スル罰則	三十五
○第七章	証券印稅規則ニ關スル罰則	三十八
第一節	証券印稅規則罰則	三十八
第二節	全上罰則中改正增加ノ事	四十三
○第八章	電信條例ニ關スル罰則	五十
○第九章	廻漕取締規則ニ關スル罰則	五十五
第一節	危害品積込規則ノ罰則	五十六
第二節	貢米運漕船旋ノ事	五十七
第三節	外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻漕規則ノ罰則	五十九
第四節	西洋形日本船各開港場出入規則ノ罰則	六十五
第五節	北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則ノ罰則	六十六

○第六節	關開拓使管內日本形商船貨物積載規則改正	六十八
○第七章	北海道各港津ニ於テ貨物積卸檢査手續罰則	六十九
○第十章	車稅規則ニ關スル罰則	六十九
○第十一章	公債証券發行條例ニ關スル罰則	七十三
第一節	金札引替公債証券發行條例罰則	七十三
第二節	新舊公債証券發行條例罰則	七十四
第三節	家祿引換公債証券發行條例廢止ノ事	七十六
第四節	金祿公債証券發行條例罰則	七十七
第五節	起業公債証券發行條例罰則	七十八
○第十二章	地券規則ニ關スル罰則	八十一
第一節	地券申受ケサル節ハ地所々有ノ權ナキ事	八十一
第二節	家督相續等ニ由テ地所讓受ケノ節地券書換手續ノ事	八十二
第三節	隱田切開切添地等處分方ノ事	八十七
○第十三章	新聞紙條例ニ關スル罰則	八十七
第一節	新聞紙條例罰則	八十七
第二節	新聞紙雜誌報國安ヲ妨害スルト認ムルハ禁止又ハ停止スヘノ事	九十六
○第十四章	讒謗律ノ事	九十六
○第十五章	出版條例ニ關スル罰則	百二

目錄



○第十六章 烟草稅則ニ關スル罰則	百六
第一節 全上罰則	百六
第二節 全上罰則中ニ追加ノ事	百十
○第十七章 訴訟用野紙規則ニ關スル罰則	百十二
○第十八章 賣淫罰則ノ事	百十三
○第十九章 度量衡規則ニ關スル罰則	百十五
○第二十章 航海規則ニ關スル罰則	百十九
第一節 外國船乘込規則ノ罰則	百十九
第二節 違式註違條例中ニ外國船乘込規則ノ罰則ヲ增加ノ事	百二十一
○第二十一章 遺失物取扱規則ニ關スル罰則	百二十一
○第二十二章 鑄造金銀銅貨紙幣取扱規則ニ關スル罰則	百二十三
○第二十三章 帶刀ニ關スル罰則	百二十五
○第二十四章 衛生規則ニ關スル罰則	百二十七
第一節 天然痘豫防規則ノ罰則	百二十七
第二節 檢疫停船規則ノ罰則	百二十九
第三節 傳染病豫防規則ノ罰則	百三十四
○第二十五章 寫真條例ニ關スル罰則	百四十一
○第二十六章 國立銀行條例ニ關スル罰則	百四十二

○第二十七章 米商會所條例ニ關スル罰則	百六十五
第一節 全上罰則	百六十五
第二節 全上罰則改正ノ事	百六十六
第三節 米商會所等ニテ竊ニ賣買取引ヲナスモノノ罰則	百六十八
○第二十八章 藥品取締規則ニ關スル罰則	百六十九
第一節 賣藥規則ノ罰則	百六十九
第二節 藥品取扱規則ノ罰則	百七十二
第三節 石炭酸其他劇藥ヲ消毒藥ニ調製候分ニ限リ販賣差許サンノ事	百七十七
第四節 藥用阿片賣買並製造規則ノ罰則	百七十八
○第二十九章 鳥獸獵規則ニ關スル罰則	百八十二
○第三十章 株式取引所條例ニ關スル罰則	百八十七
○第三十一章 裁判所呼出ニ關スル罰則	百九十二
○第三十二章 府縣廳ノ布令ニ關スル罰則	百九十四
○第三十三章 府縣廳呼出ニ關スル罰則	百九十四
○第三十四章 官吏華族懲戒例ノ事	百九十五
第一節 華族懲戒例ノ事	百九十五
第二節 官吏懲戒例ノ事	百九十七



第三節 巡查懲罰例ノ事

○第三十五章 郵便規則ニ關スル罰則

第一節 郵便犯罪罰則

第二節 郵便はがき紙並封蓋發行ノ事

第三節 亞米利加合衆國郵便交換條約中ノ罰則

○第三十六章 集會條例ニ關スル罰則

○第三十七章 代人規則ニ關スル罰則

○第三十八章 酒造稅則ニ關スル罰則

○第三十九章 營業稅則ニ關スル罰則

○第四十章 罰金處分ニ關スル規則

第一節 諸罰則中違犯者ヲ見届ケ告訴スル者褒賞ノ事

第二節 諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、モノ處分法ノ事

第三節 裁判所設置ノ府縣ハ其裁判所ニ於テ罰金追徵ノ事

第四節 公文中總テ計算上一倍ノ稱呼ヲ止メ二倍ト改定ノ事

第五節 賣淫取締ニ關スル罰金ヲ警察費等ニ遣拂不苦事

目錄終

二百

二百一

二百二

二百十二

二百十三

二百十四

二百廿三

二百廿六

二百卅一

二百卅二

二百卅四

二百卅四

二百卅五

二百卅五

二百卅五

二百卅五

摘諸規則並伺指令

○船舶

○布告

(明治四年八月五日布告)

商船ノ儀布告書並ニ規則

書トモ去庚午正月中相違

候處今般船稅ノ儀別紙規

則書相定候條各管内共區

々ノ所爲無之樣可取扱候

事

船稅規則

第一則 各管轄所ニ於テ

其管下船持共取調每一

艘篤ト見分ノ上積石數

相改鑑札相渡石數噸數

ニ應ニ在來日本船ハ百

石ニ付金一兩蒸氣船ハ

百噸ニ付金十五兩風帆

ハ全斷金十兩ツ、稅金

現罰則法典

○第一章 船舶取締規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 不開港場取締方規則罰則ノ事

(明治二年六月晦日布告ノ内)

不開港場取締方規則

以來開港場ノ外諸方ノ地ハ外國船ヲ以運輸

等相願候モ一切御許容不相成候就テハ華族

ノ向ハ勿論農商ニ至ルマテ開港場ヨリ開港

場ハ運輸ノ趣願立密ニ他港ハ差廻シ候儀相

聞ヘニ於テハ吟味ノ上夫々相當ノ御處置被

仰付且積荷有之候ハ、其品取上ケ過料トシ

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則



年々取立へキ事

但新規合船或ハ讓受

ク船鑑札願出候節モ

本文全様篤ト見分ノ

上積石相改メ鑑札可

相渡事

○布告

(明治九年二月九日第十  
一號布告)

明治七年(一月)第五号ヲ  
以海上衝突豫防規則布告  
候處于今點燈不致往々衝  
突ノ患害ヲ生シ候趣ニ付  
海上衝突豫防規則左ノ通  
相定候條此旨布告候事

第一條 海上衝突豫防規則

第一條 來明治十年一月  
一日ヨリ西洋形回漕船  
ハ勿論日本形ト雖モ積  
百石以上ニシテ全部若  
クハ一部分甲板ヲ具シ

テ千兩御取立可相成候條此旨屹度可相心得  
事

○第二節 商船規則罰則ノ事

(明治三年正月廿七日布告ノ内)

郵船商船規則別冊ノ通御定ニ相成候條此段  
相違候事

商船規則

免許ナク外國へ通船ノ儀不相成候萬一相犯  
スニ於テハ船並ニ荷物共取上ケ屹度御咎可  
有之事(第十七項)外國人ト申合セ近海ニ於  
テ密商致候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背候  
儀取計候節ハ其船取揚ケ屹度御咎可有之事

(廿一項)

○第三節 不開港場取締心得方規則ノ罰  
則ノ事

(明治三年二月十九日布告ノ内)

不開港場取締心得方規則ノ事

一難船ニ無之食料關乏等ニ托シ密商仕向候節  
ハ定テ其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速カ  
ニ探索ノ上彌密商致候ニ相違無之候ハ、雙  
方共差押外國人ハ引留置御國人ハ入牢手鎖  
等其土地相當ノ仕置ニ致シ早々申立差圖可  
受尤モ横文字ノ書付類後日ノ証據ニ可相成  
品ハ始末致シ可置事

航洋スヘキ回漕船ハ明  
治七年(一月)第五号海  
上衝突豫防規則ヲ屹度  
遵守シ必ス點燈スヘシ

(九年第百十六号布告  
ニテ十一月一日  
ト改定ニナル十三年七  
月第三十五号布告ヲ以  
テ海上衝突豫防

規則改正ニナル)

第二條 日本形船ハ別紙

圖面ノ通積荷外國ノタ  
メ兩舷ニ設ケタル左右  
柱一舷燈(左右ノ舷ニ  
掲ル紅綠ノ燈籠ヲ云)  
ヲ掲クヘシ

第三條 掲燈ノ裝置點燈

ノ時限其他詳細ノ儀ハ  
海上衝突豫防規則ニ就  
テ領會スヘシ

第四條 (罰則ノ部ニ記

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則



載ス

第五條 (罰則ノ部ニ記

載ス)

第六條 (罰則ノ部ニ記

載ス)

第七條 開拓使及ヒ沿海

府縣ニ於テハ其筋吏員

ヲシテ其管下港灣出入

及ヒ繫泊船ノ此規則ヲ

遵守スルヤ否ヲ時々監

査セシムヘシ

第八條 此規則ヲ違犯セ

シテ訴ヘ出ル者ハ本

犯罰金ノ半額ヲ賞與ス

ヘシ

(明治十三年十一月廿九日

内務省乙第四十五号達

小形旅客漁船往々危害ヲ

生シ不容易次第ニ付別冊

取締心得書ニ照準各地ノ

實況ニ應シ適宜取締取締

但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不

開港場等へ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テシ

ト致候者ハ其犯セル度毎ニ其品取揚ケ過

料トシテ「メキシコドル」ニテ千枚ニ

當リ候程御取立相成候間御國人ニ於テモ

右全様ノ企致候者有之ニ於テハ兼テ御布

告ノ通其品取上ケ過料トシテ金千兩御取

上ケノ事

○第四節 船稅規則中第三則改正ノ事

(明治五年八月八日第二百廿六號布告ノ内)

去辛未八月及布告候船稅規則第三則今般別

冊ノ通被改候條此旨相達候事

船稅規則

第三則 改正

一各港入津ノ船々鑑札爲差出一々相改メ可

申若無鑑札ノ船有之候ハ、常稅五倍ノ罰金

取立可申且他管内ノ船ニ候トモ全様罰金取

立候上其手續詳細ニ其本管廳へ可申送事

但發令前航海致シ未タ本管下へ歸船無之

鑑札所持不致向モ可有之右ハ此限ニ無之

事

○第五節 鯨漁船並海川小廻船等船稅規

則罰則ノ事

(明治七年二月十八日第廿一號布告ノ内)

可相立此旨相達候事

小形旅客漁船取締

心得書

第一條 本船々体及ヒ所

屬品ハ必ス左項ニ掲ク

ル如ク整備スベキモノ

トス

第一 甲板上ニハ其

兩側ニ必ス水吐孔

ヲ設ケ且甲板面ハ

填茹ヲ以充分ニ罅

隙ヲ塞キ水ノ漏泄

ナキモノ

第二 甲板ニ設ケタ

ル出入及ヒ荷積口

ハ其縁材必ス甲板

面ヨリ高キモノニ

テ風波等ノ際船内

ニ水ノ流入ヲ防キ

且之ヲ密閉スベキ

外套ヲ備フ

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則



- 第三 甲板に船舷ナキモノハ必ス周圍ニ欄干ヲ設ケ其高サ二尺ヨリ低カラザルモノ
- 第四 室内空氣流通ノ爲メ窓口ヲ設ケルモノハ堅固ナル戸扉ヲ備フ
- 第五 端舟ヲ釣リ得ヘキ船体ニ於テハ必ス之ヲ備ヘ其付属品全備ニ不時ノ用ニ適スルモノ
- 第六 柁ハ其取付ケ堅牢ニシテ必ス豫備ノ轉柁索ヲ船尾ニ備フ
- 第七 羅盤及ヒ救命浮子各一個以上ヲ

明治四年辛未八月船稅規則中舢舨船等ノ類ハ追テ一般ノ稅規確定可相成旨相達置候處各地方有稅無稅或ハ寬苛輕重有之不公平ニ付今般別冊ノ通相定來ル明治八年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

舢舨船並海川小廻船等船稅規則

第五則 無檢印ノ船及ヒ船稅免除ノ檢印相受ケ置他ノ豫方ニ相充候船モ有之ニ於テハ其船相當稅額船梁ヨリ艦梁マテ長三間マテハフル毎ニ十五錢宛チ増五倍ノ罰金可申付事

第六節 海上衝突豫防副則ノ罰則ノ事

（明治九年二月九日第十一號布告海上衝突豫防副則ノ内）

- 備ヘ其救命浮子ハ人体ヲシテ充分ニ水上ニ浮ミ得セシムベキモノ
- 第八 相當ノ消防器具ヲ備フ
- 第九 船ノ噸數ニ應シ其量目及ヒ大サノ適合セル錨及ヒ錨鎖ヲ備フ
- 第十 掲燈及ヒ信號器ハ總テ其製造規則ニ適合ノモノニテ且ツ舷燈ノ隔板ハ其位置正シク舷燈ヲ裝置ス
- 第十一 汽笛及ヒ號鐘ハ其音響ノ障礙無キ場所ニ裝置シ且ツ號鐘ハ其内徑六寸六分ヨリ小ナ

第四條 來明治十年一月一日以後ニ至リ止ムナキ事故アルニ非ラスシテ點燈セザルモノハ金五圓ノ罰金ヲ科シ燈籠ヲ所持セサルモノハ金十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第五條 右全日以後ニ至リ點燈セスシテ衝突ノ難ニ罹ル時ハ其船主船長及ヒ其船乗組ノ者ハ何様ノ損害ヲ被ルモ他ニ對シテ之カ弁償ヲ要請シ得ヘカラス

第六條 舷燈ハ驛遞寮ノ免許ヲ得タル製造人ノ製造シタルモノニ限ルヘシ若シ之ヲ犯スモノハ金七圓五十錢ノ罰金ヲ科スヘシ

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則



第十二 甲板上下ノ場所ヲ問ハズ漏水ヲ排出スヘキ汚水唧筒一個以上ヲ備フ

第二條 本船ノ漁機及ヒ所屬品ハ必ズ左項ニ掲クル如ク整備スヘキモノトス

第一 機關ハ諸部適合ノモノニテ十分ニ整頓セシモノ

第二 水線以下及ヒ其近傍ニ於テ裝置セシ船外ニ通スル管ハ必ズ嘴子或ハ瓣ヲ備フ

第三 鐵及ヒ機關ニ屬スル相當ノ豫備品及ヒ附屬品ヲ備

但堅牢ニシテ且ツ其規ニ適スル舶來品ハ此限ニアラス

第七節 西洋形商船々長運轉手機關手試驗免狀規則ノ罰則ノ事

(明治九年六月六日第八十二號布告ノ内)

西洋形商船々長運轉手機關手試驗規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

西洋形商船々長運轉手及ヒ機關手試驗免狀規則

第三條(第二項) 前ニ記載セル其適等若クハ

高等ナル免狀ヲ所持セス或ハ所持シ能ハスシテ其職ヲ執リ出港セシ者及此規則ニ

第四 冷瀎器ヲ設クル機關ハ正當ナル驗氣器ヲ備フ

第五 瀎錐ハ豫テ氷ニテ平常用フル瀎力ニ對シ新錐ハ其力ニ倍(十斤ノ瀎力ヲ用フルモノハ二十斤)古錐ハ其一倍半(十斤ノ瀎力ヲ用フルモノハ十五斤)以上ノ力ニ堪フルモノ

第六 安全瓣ハ每鐵火床面積ノ一平方尺毎ニ必ズ二分ノ一平方寸ノモノ二個ヲ備ヘ平常用フル瀎力ニ對スル錘

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則

遵テ要スヘキ免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ否ヲ推究認定セズシテ之ヲ使役スルモノハ何人ヲ論セス二百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第八條(第四項) 若シ船長運轉手等ノ交替アルモ之ヲ掛吏員ニ告知シテ書換證書(即チ檢査證書)ヲ得ルヲ怠リ或ハ稅關官吏ニ此證書ヲ出スヲナクシテ出港スルハ

二十五圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條(第二項) 凡ソ船長運轉手及ヒ機關手ヲ論セス一旦其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラントルハ其免狀ヲ內務



量ヲ定メ内一個ハ  
 外套ヲ備ヘ其外套  
 ハ 驗査員又ハ其鍾  
 量ヲ定ムル方法ヲ  
 明カニスル者ノ立  
 會ヲ得サレハ開閉  
 シ能ハサル設ケテ  
 爲シタルモノ  
 第七 驗流器驗温器  
 驗温器ハ時々試驗  
 ナ爲シ誤謬無キモ  
 第八 驗水器ハ每鐘  
 硝子製ノモノト二  
 個以上ノ試嘴ト兩  
 様ヲ備ヘタルモノ  
 第九 瀝罐二個以上  
 ニシテ塞瀝瓣一個  
 ナ備ヘタルモノハ  
 其塞瀝瓣ヲシテ各

省若クハ其筋ノ官廳ニ取揚ケ且其失錯ニ  
 就テ二百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ  
 全條 (第四項) 又何等ノ人タリモ其免狀ヲ取  
 消シ或ハ一時其使用ヲ停止セラレタル者  
 ナ船長運轉手或ハ機關手トシテ其職業ニ  
 備使スルヲ許サス若シ其情狀ヲ知テ之ヲ  
 使役スル者アラハ二百五十圓以内ノ罰金  
 ナ科スヘシ  
 第十二條 (第二項) 船主若クハ備主タル者其  
 備使スル船長等ニ裁判スヘキ事件ヲ生ス  
 ルキハ其裁判未決ノ間ハ之レニ給料及ヒ  
 其他ノ金額ヲ與フヘカラス若シ其裁決ヲ

鏝ノ瀝路ヲ閉塞セ  
 シムルニ適スルモ  
 第十 蒸氣ヲ噴出セ  
 シムルヲ必ス排  
 瀝管ノ設ケアルモ  
 トスチムズ

第三條 毎年一回以上檢  
 査員ヲシテ船体瀝機ヲ  
 檢査セシメ故障ナキモ  
 ノハ檢査証書ヲ其船主  
 若シハ船長ニ下附ス  
 ベシ但爾後ノ檢査以前  
 ニ運航ニ堪ヘサルモノ  
 ト見認ルキハ其運航ニ  
 堪フヘキ時限ヲ檢査証  
 書ニ記載スヘシ

第四條 檢査証書ハ期限  
 中船内ノ見易キ場所ニ  
 揭示シ旅客等ノ見聞ニ

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則

終ヘサル間ニ故ナク之レニ給料其他ノ金  
 額ヲ與ヘ又ハ命令狀ヲ受取リタル上條理  
 ナクシテ其罰金ヲ拂フコトヲ怠ルキハ其二  
 倍ノ罰金ヲ科スヘシ  
 ○第八節 西洋形商船々長運轉手機關手  
 試驗免狀規則中へ追加ノ事

(明治九年六月二十八日第九十四號布告ノ内)  
 本年(六月)第八十二號布告西洋形商船々長  
 運轉手機關手試驗規則別紙ノ追加候條此  
 旨布告候事

第四條 第一條ニ記載スル月日以後運送瀝  
 船ノ船長及ヒ機關手其適等ノ免狀ヲ所持



供スヘシ

第五條 検査員ハ臨時ニ乗船シ船体漁機ノ整備セルヤ否ヲ検査スルコトアルヘシ

第六條 定時臨時ノ検査ヲ問ハズ検査員ニ於テ船体漁機ニ故障アリト看認ルキハ本船ノ運航ヲ停止シ修繕若シクハ改造ヲ命スヘシ

第七條 乗客ノ員數ハ本船製造ノ摸樣ト通航ノ地景ニ因テ制限スヘシ雖モ一坪(六尺四方)八人ヨリ超過セシムヘカラス

○伺  
(明治十年十月廿四日開拓使問合)

セス或ハ所持シ能ハサル免狀ヲ所持シテ

其職ヲ執リ其船ニ乗組ム者及ヒ其免狀ヲ所持スルヤ否又ハ所持シ能フヤ否ヲ推究セスシテ之ヲ使役スル者ハ何人ヲ論セス二百五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第八條 此規則ニ記載スルノ外試験其他ノ諸則及ヒ罰則共總テ本則條款ノ通りタルヘシ

○第九節 西洋形船水先免狀規則ノ罰則

(明治十一年十二月九日第三十七號布告ノ内)  
明治九年(十二月)第百五十四號布告西洋形

船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第十四條 第三條ニ規定セル水先區内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスキハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 各免許水先人へハ其免狀ハ勿論

甲船ヨリ乙船ヲ衝突シ乙船ニ溺死人之レ有ルキ乙船主ヨリ積荷其他物品ノ損失賠償ノ請求ハ民事裁判ヲ仰キ其過失殺テ警察官ニ告訴セシキ民事官各自ニ受理取調可致筋ニ候哉將々衝突曲直ノ裁判ハ民事ニ屬スルモノニ付キ民事裁判ニ於テ甲船曲者ト決スル後コトサレハ警察官ニ於テハ過失殺ノ告訴ヲ受理難致筋ニ可有之哉  
前件衝突曲直ノ審理ハ民法ニテ判決相成ルニ於テハ衝突ノ過失殺ハ刑法ニ問フニ及ハサル儀ニ候哉

○指令  
(明治十年十二月五日司法省回答)

第一條 刑事ノ告訴ヲ受

第一 船舶取締規則ニ關スル罰則



証スル場合ニ於テハ民  
事ノ審判ヲ中止スルモ  
トス

第二條 過失ニ出テタル  
衝突ナレハ刑法過失殺  
傷人條ニ問フヘキモノ  
トス

○伺

(明治十一年二月十六日  
新潟縣伺)

爰ニ輕風微晴ニ乘シ漁船  
ノ客ヲ載セテ河ヲ行クヤ  
上流ニ渡船ノ又客ヲ載セ  
テ行クアリ然ルニ漁船ハ  
急渡船ハ緩ナルヨリ兩船  
相去ルヲ將ニ百間弱ニ至  
ルヲ以テ衝突セシメテ恐  
レ漁船ノ運轉ヲ緩フシ且  
号留ヲ掲ク渡船モ又軋々  
櫓ヲ鼓シテ避クモ逐次風  
波起來シ倉皇ノ際運轉意  
ニ適セス到底支ツル克ハ

此規則ノ寫シテ一通ツ、交付スヘシ故ニ其  
筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要ス  
ルキハ直チニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時  
ハ内務省ニ於テ其執行ヲ停止シ或ハ其免狀  
ヲ取揚クヘシ

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與  
スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スルキハ内  
務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條 内務省ニ於テ免許水先人其本分  
ノ職務ニ堪ヘサルカ若クハ亂醉又ハ不行跡  
アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌  
ヒ若クハ之レヲ怠タリタルコトアリト思惟ス

スシテ兩般相衝突シ終ニ  
渡船覆了爲メニ乗客一名  
溺死ス然ルニ之レヲ治ス  
ル過失殺傷ヲ以テ論スル  
モ其景况タル當初故サテ  
ニ風波ヲ衝テ出テシニ非  
テ逐次風波ノ起ルヨリ  
楫子ノ手術全ク窮マリ看  
々覆了セシ儀ニテ甲乙船  
孰レヘ責ヲ負ハスノ稜ナ  
ク必竟天災ニ罹ルモノナ  
レハ前條ニ依ルモ妥當ナ  
ラサルヲ覺ユ蓋シ如斯モ  
ノト雖モ治罪候儀ト相心  
得可然哉

○指令

(明治十一年三月四日司  
法省指令)  
伺ノ趣意外ノ變ニ起リ人  
力ノ及フ所ニ非ラサレハ  
罪ノ論スヘキナシ

○同

ル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシ  
メ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀  
ヲ取上クヘシ

○第十節 西洋形商船海員雇入雇止規則  
ノ罰則ノ事

(明治十二年二月十九日第九號布告ノ内)

西洋形商船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定  
來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事  
西洋形商船海員雇入雇止規則

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ  
上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スルモ  
ノ(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル



(明治十一年二月二日山口縣伺)

第一條 明治九年五月驛  
遞寮達舷燈製造方法第  
二條ニ舷燈ヲ分テ大小  
形ノ二個トス其大形ハ  
千五百石以上ノ船舶ニ  
用ヒ小形ハ百石以上千  
五百石未滿ノ船舶ニ用  
ユルモノトスト有之百  
石以下ノ分ハ右法方書  
ニ掲載無之候得共免許  
製造人ニ於テ製造スル  
舷燈ニ夫々ノ區別有之  
候就テハ千五百石以上  
ノ船ニシテ千五百石未  
滿ノ船ニ用ユル分ノ燈  
籠ヲ用ヒ百石以上ニシ  
テ百石以下ノ分ヲ用ユ  
ルカ如キハ式ニ違フナ  
以テ其罪ヲ論スヘキヤ  
果シ其罪ヲ論スルモ千

者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀  
鎗或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三  
日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主  
之レヲ收メ且其銃器刀鎗或ハ酒類ヲ取上ク  
ルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫  
スモノ脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル  
者ヲ云)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ  
處ス若シ船艙船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用  
スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ因  
テ其罪ヲ科スヘシ  
第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全

(明治十一年三月五日司  
法省指令)  
伺ノ趣爾條共罪ヲ問フニ  
及ハス

五百石未滿ニシテ千五  
百石以上ノ船ニ用ユル  
分ノ燈籠ヲ用ユルハ不  
問ニ置キ可然哉

第二條 明治七年第五号  
御布告海上衝突豫防規  
則第七條ニ帆船及ヒ蒸  
氣船ノ別ナク碇泊場或  
ハ溝内ノ航路中ニ錨止  
セルキハ白燈ヲ標スヘ  
キ旨掲載有之候處圍ヒ  
船ト唱ヘ苦楚等ヲ以テ  
之ヲ包ミ番人ヲモ付ケ  
ス碇泊場ノ一隅ニ繫キ  
置クモノアリ此等ハ白  
燈ヲ標セサルモ其罪ヲ  
問フノ限ニ無之候哉

第一ノ船舶取締規則ニ關スル罰則

額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ  
百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ  
年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ  
第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條  
ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯スモノハ其事情ニ  
因リ五十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ  
○第十一節 海上衝突豫防規則ノ罰則ノ  
(明治十三年七月十六日第三十七號布告ノ内)  
(明治七年(一月)第五號布告海上衝突豫防規  
則別冊ノ通改正ニ來九月一日ヨリ施行候條  
此旨布告候事



海上衝突豫防規則

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主船長乘組人員各其責ヲ免カル可カラサルモノトス

○第二章 銃砲取締規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 銃砲取締規則ノ罰則ノ事

(明治五年九月廿三日第二百八十二號布告ノ内) 銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊カニ所持シ且取扱致候者有之節ハ各地方ニ於テ其

○銃砲

○伺

(明治十年十二月廿二日大審院伺) 銃砲取締規則第五則ニ相觸レ所持ノ小銃改印不受者自首スレハ過料ハ差免シ其品下渡シ可然哉又ハ

過料ハ差免ストモ其品ハ取揚ケ候儀ニ候哉

○指令

(明治十一年一月八日司法省指令 後半伺ノ通

○伺

(明治七年十月三十一日廣島縣伺) 銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ又ハ取扱フ者ハ明治六年太政官第二百八十二號御布告ニ依リ品物取上ケ料料五十錢申付候ハ勿論ナリト雖モ其竊ニ解捌或ハ鑄潰シテ他用ニ供スル等御規則中罰則相見ヘ不申然ルニ當時右所業ノモノ續々有之此等モ同様料可申付哉又ハ常律違式條ニ依リ情ヲ量リ輕重ヲ分チ可然哉

品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付事

但(褒賞ニカ、ル)

右取上候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎮臺ヘ可差出事

○第二節 銃砲取締規則ノ罰則増補ノ事

(明治七年十二月八日第三百三十二號布告ノ内)

明治五年壬申九月第二百八十九號布告銃砲取締規則違犯ノ者罰例左ノ通増補候條此旨布告候事

一 免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事 但書同斷



○指令  
(明治七年十二月七日司法省指令)  
所持ノ銃砲ヲ鑄敗シテ他用ニ供スルモノハ所罰ニ及ハス 但其鑄敗スル所ノ銃砲元來改刻印ヲ受ケサル者ニ係ラス其竊ニ所持セシ廉規則ニ照シテ之ヲ罰スヘシ

○伺  
(明治九年三月十四日滋賀縣伺)

第一條 昨明治八年太政官第百八十九号ヲ以テ明治五年正月第二十八号ヲ以テ銃砲取締規則布告候處其際所持人ノ内洋行或ハ他縣下ニ寄留ニテ届方等閑ニ致シ云々御布告相成然ルニ洋行或ハ他縣下ニ寄留等ノ者ニアラスノ會テ御布告面承知乍致竊ニ銃砲ヲ所持シ届方等閑ニ致居候モノハ明治五年第二十八号御布告ニ照準シ處罰可仕哉  
第二條 前條他縣下ニ寄留致居候者ト雖モ前二十八号御布告面承知乍致解怠ニシテ本管廳ニ届方ノ手順ヲ盡サス等閑ニ致居候者モ亦明治五年第二十八号御布告ニ照準シ處罰可仕哉

○指令  
(明治九年四月二十日司法省指令)  
第二條共同ノ通

○伺

(明治七年十月九日磐前縣伺)

茲ニ銃砲彈藥賣買免許人アリ右賣買免許相成上ハ自儘ニ火藥製造致シ候テモ不苦儀ト誤解ニ無願ニテ火藥若干ヲ製造シ其製造高及ヒ賣高等ヲ届出ルモノハ違令ノ罪ニ處シ賣拂代金及ヒ殘品取上ケ候テ可然哉  
但右賣上代金已ニ費用致シ之ヲ追徴スルニ及テ資力無之ニ於テハ追徴ニ不及候哉

○指令

(明治七年十二月二十二日司法省指令)

伺ノ趣本年第三百三十二号布告ニ照シ所分スヘシ  
但賣代金既ニ費用シ無力ニシテ追徴シ難キモノハ身代限取上ヘシ若シ取上ヘキ財物ナクハ直ニ放免ス尤罰則ニ限リ其者追テ身代持直シ候共再ヒ取上ルニ及ハス

○伺

(明治七年二月十八日兵庫裁判所伺)

銃砲取締ノ規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且取扱致シ候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付旨壬申九月第二十八号御布告有之候處茲ヨリ某甲ナルモノ明治元年十一月以來所持ノ和製小銃數挺有之右ヲ去ル六年五月中旬乙某ノ周旋ヲ以テ丙某ニ賣却ス丙又之ヲ丁某ニ轉賣シ丙ノ利ヲ得ル若干ナリ今發覺スルニ中リテ現品ハ丁ヨリ追徴シ何レモ過料申付候ハ勿論ニ候處甲ヨリ賣却ノ代金及ヒ賣德トモ差置候テハ獨リ丁ノミノ所失大ニシテ罰ノ權衡其平當ヲ得サルニミナラス丙ハ僅カニ五十錢ノ過料ヲ出シ猶若干ノ賣德アリ恐クハ懲戒スルニ足ラス甚ク不都合ニ存候得共罰則中追徴方法未ク具備無之候ニ付處分方相伺候也

○指令

(明治七年二月十七日司法省指令)

甲某ハ賣拂代金取上ケ更ニ五十錢ノ料可申付候事  
丙某ハ賣拂代金並賣德共取上ケ更ニ五十錢ノ料可申付候事  
丁某ハ現品取上ケ更ニ五十錢ノ料可申付候事  
右小銃ハ其地管轄ノ鎮臺ニ送致スヘシ

○伺

第二 銃砲取締規則ニ關スル罰則



(明治七年六月五日高知縣伺)  
 縣下公商所有スル彈藥被盜取候處右品數十人へ賣却スル内初買者甲情ヲ知ラス買取  
 乙丙丁ニ轉賣ス丁丙ヨリ買取タル品ハ終ニ住所姓名不知者へ賣却シ甲乙丙丁トモ賣  
 却代價ハ悉皆費用ス然ルニ壬申九月第二百八十二号御布告ノ趣モ有之候ニ付甲ヨリ丁  
 ニ至ルマテ公商買ニアラスシテ彈藥取扱ノ廢品現在スレハ取上ケ各料料申付候ハ勿論  
 ノ義ニ候得共右品物尋常ノ品ニ候ハ名例律給沒贓物條ニ依リ無論追徴ノ道モ無之ト  
 存候罰則中追徴方法未タ具備無之ニ付相伺候也

○指令

(明治七年六月廿八日司法省指令)  
 盜贓タルヲ知ラスニテ買取シ已ニ費用スト雖モ其品犯則ニ係ルヲ以テ賣代金賣徳トモ  
 各犯ヨリ追徴シ更ニ五十錢宛ノ科料可申付事  
 但其追徴スル賣代金ノ内初買ノ金額ヲ本主ニ給スヘシ

○牛馬

○布告

(明治五年十一月四日第  
 三百三十号布告ノ内)  
 牛馬賣買渡世ノ者免許稅  
 ノ儀昨辛未十二月中大藏  
 省ヨリ相達候處今般別紙  
 規則書ヲ通相定候條各管

第三章 牛馬賣買取締規則ニ關スル罰則  
 第一節 牛馬賣買免許稅則罰則ノ事

(明治五年十一月四日第三百三十號布告ノ内)

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ

内共區々ノ取計無之様可  
 致候事

第一條 各管轄所ニ於テ其  
 管下牛馬賣買渡世ノ者  
 取調牛馬一鼻綱ニ付免  
 許鑑札一枚相渡可申事  
 但一鼻綱ハ牛馬共七  
 疋ニ限鑑札一枚ヲ所  
 持スル者旅行スルハ  
 ハ七疋以内ニ枚ヲ所  
 持スル者ハ十四疋ニ  
 限ルヘシ其餘准之可  
 申事

○伺  
 (明治六年八月七日廣島  
 縣伺)

第一條 牛馬賣買渡世ノ  
 者一枚ノ鑑札所持罷在  
 一時七疋迄ハ賣買差支  
 無之儀ヲ十七疋賣買致  
 候ハハ則十疋ハ規則  
 外ノ牛ニ相當リ是等如

賣買不相成方一無鑑札ニテ密々賣買候者有  
 之相顯ルハニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅  
 (鑑札一枚ニ付一ケ年金一圓)十倍ノ科料可  
 申付事

第二節 牛馬賣買免許稅則罰則中へ追  
 加ノ事

(明治七年十二月三日第百三十一號布告)

明治五年壬申(十一月)第三百三十號布告牛  
 馬賣買規則第九條左ノ通追加候條此旨布告  
 候事

第九條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事  
 但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條

第三 牛馬賣買取締規則ニ關スル罰則



何處置仕候ヲ可然哉

第二條 鑑札主病氣等

ヲ子弟ノ内へ鑑札相委

テ右様鑑札外ノ數正ヲ

賣買致シ候節ハ是亦如何處置仕候ヲ可然哉

蜜賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡シ候者ハ  
免許稅五倍ノ科料可申付事

○指令

(明治六年九月十四日司法省指令)

第一條 免許アル鑑札一枚分七疋ヲ除去シ其餘免許ナキ鑑札二枚十疋ノ罰ヲ科シ其牛  
取上ケ且鑑札一枚分毎ニ十倍ノ科料可申付事

第二條 鑑札主病氣等ニテ一家子弟ノ者へ鑑札ヲ委ヌルハ罪ヲ科スルニ及ハス鑑札外  
ノ數正ヲ牽クモノハ前條ニ同シ

○伺

(明治七年九月日不分石川縣伺)

第一條 牛馬賣買規則第六條無鑑札ニテ密々賣買スル者トハ右賣買ヲ渡世ニスルモノ  
ノ事ニテ可有之ニ付農家等自宅ニ出產ノ牛馬ヲ免許商人ニ賣渡スニハ素ヨリ差支無  
之然ルニ若シ免許ヲ得サル商人へ賣渡スルハ双方共第六條ニ依リ處分致スヘキ哉

第二條 自家ノ職業用トシテ牛馬ヲ買入ル、ニ免許商人ヨリ買受ルニハ尤モ差支無之  
若シ免許ヲ得サル商人ヨリ買受ルルハ双方共前同條處分可致哉

第三條 右兩條ニ相手ノ者賣買ヲ渡世ニスルモノニアラサレハ双方共犯則ノ限ニアラ  
セル哉假令ハ農家相互ニ申合セ甲ノ馬ヲ乙ニ賣リ乙ノ牛ヲ甲ニ買フ如キ實際商業ニ  
涉ラス不用テ以テ有用ニ換フルモノ或ハ俱ニ商人ニ非ラスシテ甲ニ生産ノ駒ヲ乙ニ  
買受自家ノ職業ニ用ユルモノ

第四條 第一條ハ買受クルモノ第二條ハ賣渡シ候者而已罰スヘキ哉

○指令

(明治七年十月九日司法省指令)

第一條 牛馬賣買鑑札ハ賣買ヲ以テ渡世トスルモノ、所持スヘキ規則ニ付農家自己ノ  
牛馬ヲ賣ルカ如キハ處罰ニ及ハサル事

第二條 第三條ハ第一條ノ通心得ヘキ事

第四條 伺ノ通

○伺

(明治七年四月十日白川縣伺)

牛馬賣買渡世ノ者犯則處置方ニ於テ疑惑在ニ

第一條 規則第一條(前ニ見ユ)此儀一鼻綱トハ牛馬共七疋ニ限ルト本條但書ニ有之其  
七疋ト定限アルハ一時一同七疋ヲ賣買スルモノ一枚ノ鑑札願受ケ八疋以上十四疋以  
下ハ鑑札二枚ヲ願受ケ其餘之ニ準シ若シ一疋手二疋或ハ五疋ト度々ニ賣買シ一ケ年  
合セテ數百ニ至ストモ一時一同ノ賣買ニ非ラサレハ兼テ免許鑑札一枚ヲ所持致シ候  
ヘハ不苦儀ニ可有之哉

第二條 全第六條(全上)此儀假令ハ甲乙兩人アリ何レモ無鑑札ニテ賣買致シ候ハ、各  
自免許稅十倍ノ科料金十圓宛申付牛馬ハ販賣者ヨリ追徴シ若シ牛馬轉輸シテ數人ヲ  
經營時在現スレハ順次之ヲ轉賣セシメ初販賣者ヨリ追徴シ若シ其在所ヲ知ラサル者  
ハ初販賣者ヨリ其代價ヲ追徴致シ可然哉併シテカラ獨リ初販賣者ノミ損失致サセ候  
テハ甚タ不公平ニ有之候間無免許ニテ賣買致シタルモノ共割合損失ニ申付如何哉

第三條 若シ買取甲ナル者ハ免許鑑札願受居販賣者乙ナル者無鑑札ナラハ獨リ乙ノ  
第三 牛馬賣買取締規則ニ關スル罰則



三十倍ノ科料申付牛馬ハ乙ヨリ追徴致シ可然哉  
第四條 若シ販賣者乙ナルモノハ免許鑑札願受居買取者甲ナル者無鑑札ナラハ獨リ甲ノミ十倍ノ科料申付牛馬モ亦甲ヨリ追徴可然哉  
第五條 本文三々條共牛馬死失シテ追徴スルコト能ハサレハ其代價ヲ追徴致シ可然哉

○指令

(明治七年五月十九日司法省指令)

第一條 同ノ通 第二條 無鑑札ニテ同渡世數人轉帳買賣スルモノハ定則ノ通各自

ニ科料申付其牛馬並ニ各犯密賣シテ得ル處ノ代金ヲ取上クヘキ事

第三四條 同ノ通 第五條 牛馬死失スルモノハ其代價ヲ追徴スルニ及ハサレ事

○伺

(明治九年五月二日飾磨縣伺)

牛馬賣買免許鑑札ノ儀ハ貸借使用ヲ許サハル規則ニテ犯スモノハ罰アリ然ルニ持主一時金融ニ差支其免許鑑札ヲ他ニ典賣シ金若干ヲ借り而シテ典賣者ノ使用スルヲ許サス右ハ犯則ヲ以テ論スル限ニ無之哉  
右免許鑑札ヲ典賣スルニ典賣者ノ使用ヲ許シ又ハ初メ使用ヲ許サストモ他日典賣者ノ使用スルヲ知テ之ヲ默許スル本人ハ勿論典賣者トモ鑑札貸借ノ者ヲ以テ處罰可然哉

○指令

(明治九年五月廿二日司法省指令)

兩條トモ伺ノ通

○伺

(明治十年十一月五日廣島縣伺)

茲ニ牛馬賣買商アリ免許鑑札ヲ願受而シテ其子弟若クハ雇人ヲシテ代理營業セシメ或ハ父没後曾テ父ノ願受ケタル鑑札ヲ以テ一時營業候其犯則ノ限ニハ無之哉

○指令

(明治十年十一月廿二日司法省指令)

伺ノ趣代理營業スルモノハ各々及ハス父没後父ノ鑑札ヲ以テ營業スルモノハ該規則第六條ニ依リ處分スル儀ト心得可シ

○伺

(明治八年二月十二日足柄裁判所伺)

昨七年第百三十一号公布後ニ係ル牛馬賣買免許營業ノ者其身疾病ニ罹リ即今自ラ拮据營業致シ難キヨリ牛馬退子ト唱ヘ嘗テ兩三度牽人ニ雇使スルモノハ自己現在所持ノ馬ヲ委子同ク己レノ鑑札ヲ貸與シ賣買セシムルモノ右等ノ如キハ尋常鑑札貸借トモ同視シ難キヤニ相考ラレ殊ニ罰則上適條モ無之素ト疾病ノ故ヨリ己レ所持ノ馬ヲ委子及ヒ鑑札ヲ貸與シ免許ノ權ヲ委嘱シ賣買セシムルモノニ付時々其不足ヲ賣メ鑑札主ト違式ノ重嘱ヲ受ケシ該人ヲ同シ科シ聽贖候テハ如何可有之哉全上ノ如ク賣買セシモノ自然鑑札貸借ノ罰則ニ適スル以上ハ其嘱ヲ受ケ賣買セシモノ、馬ハ即チ鑑札主ノ馬ニテ無鑑札者ノ馬ニ無乏ニ付現馬取上クルニ不及候哉

○指令

(明治八年二月十八日司法省指令)

身疾病ニ罹リ自ラ營業シカタクニヨリ其所持ノ馬ヲ他人ニ委託シ賣買セシムルハ一時自己ノ代人トナスモノニ付鑑札貸借ノ限ニアラス依テ事實取糺相違ナキニ於テハ其罪ヲ問ハス

第三 牛馬賣買取締規則ニ關スル罰則



○鐵道

○伺

（明治六年四月四日司法省伺）

今般鐵道犯罪罰例中懲役ノ儀佛國ノ罰法ニ於テハ施行致兼候趣佛公使申出ニ付万一佛國人犯罪懲役或ハ禁錮ノ處分ニ當ル節ハ禁錮ノ方ニ處シ云々外務省伺出御允可ノ旨御達相成候處右ハ内外一般人民ハ懲役或ハ禁錮ニ處シ獨リ佛國人ニ限リ禁錮ニ處スル儀ニ候哉右ハ神奈川裁判所ヨリ伺出指揮振モ有之候ニ付相伺候也

○指令

（明治六年四月十四日指令）

○伺

○第四章 鐵道規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 鐵道犯罪罰例ノ事

（明治六年三月十三日第百一號布告）

壬申第百四十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ道改正相成候條此旨布告候事

鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛リノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中酔ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二

十五圓以内ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕

忽ヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱ア

ルハ其事情ニ因リ五百圓以内ノ罰金又ハ

三月以内ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

（第二條 該條ハ明治十二年三月第十二號布告

ニテ改正ニナル）

第三條 規則第五條 即列車運轉中ヨリ出入シ又ハ車内

ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條 即痘瘡及ヒ諸傳染病ノ禁ヲ犯

スモノハ拂フタル賃金ヲ沒シ二十五圓以内

ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條 即吸煙ヲ禁セシ場所及ヒ禁セシ

ニ設ケタル車及ヒ部屋ニ入ルノ禁ヲ犯ス者ハ拂フタル賃金

ヲ沒シ十圓以内ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條

即列車乗組中又ハステーション並ニ鐵道構内ニテ酔ニ乘シ無狀ヲ現ハシ又ハ不良ノ行狀ヲナスニ記セ

第四 鐵道規則ニ關スル罰則



ハ三十日以内ノ禁錮ニ處ス

第七條 規則第九條即ステーションヨシ其他鐵道構内ニ標識揭示セル書ヲ剽キ或ハ庫建家塙柵等鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スルニ記スル所ノ不法ヲナスモノハ三十日以内ノ罰金又ハ六週間以内ノ懲役或ハ禁錮ニ處ス

第八條 規則第十條即許シテシテ機關車炭水車等ニ乘リ或ハ荷物車及ヒ旅客ノタメニ設ケサハ車ニ乘リ又ハ乘ラントスルヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

(第九條該條ハ明治十二年三月第十二號布告ニテ改正ニナル)

第十條 規則第十五條即車内鐵道線及ヒ其ノ他構内ニテ發砲スルノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス

(第十一條 該條ハ明治十二年三月第十二號布告ニテ改正)

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムル事アルヘシ

但其償還ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フキハ法官ニ於テ追徴スヘシ

○第二節 鐵道犯罪罰例中改正ノ事

(明治十二年三月二十八日第十二號布告)

明治六年(三月)第一百號布告鐵道犯罪罰例中禁錮ヲ禁獄ニ改メ

第二條第九條第十一條左ノ通改正候條此旨布告候事

第二條 規則第四條即賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行シ或ハ旅行セントシ又ハ賃金高相當ノ車ニ乘ラヌシテ上等ノ車ニ乘リ又ハ下車スヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂ハス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂ヒ方ヲ逃ントスルニ記スル所ノ不法ヲナスモノハ

二十五圓以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第九條 規則第十一條即ステーション又ハ鐵道構内ヘ妄リ立入ルノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓

以内ノ罰金或ハ三十日以内ノ禁獄ニ處ス

第十一條 規則第十七條即運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ受取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及ヒ姓名ヲ



記シテ掛リノ者ニ記スル處ノ諸荷物品其書外ヲ故サラニ出サス或ハ差出スヘキヲハ故サラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三ヶ月以内ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物一噸(千七百斤ヲ云フ)毎ニ二十五圓以内ノ罰金ニ處ス一噸以下八十圓以内尤モ一罰ノ贖金高五百圓ニ過キス

○鑛山

○布告

(明治六年七月廿日第二百五十九号布告ノ内)

日本坑法

第一章 坑物

第一 正理ヲ以テ論スルハ凡無機物タル者ハ(生活ノ機ナキ諸物品)都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸

○第五章 鑛山規則ニ關スル罰則ノ事

(明治六年七月二十日第二百五十九号布告)

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改正候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省エ可申立候事

日本坑法

第一章 坑物

金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ル者ハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽磷酸石灰美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス(本條ニ舉ケル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ之ヲ坑物ト稱ス坑山坑業坑區坑産等皆之ニ倣ヘ)

○同

(明治九年二月廿二日島根縣同)

第一條 許可ヲ得スシテ坑物ノ試掘ヲ爲スモノ第二條 全上試掘ニテ得タル産鑛ヲ恣ニ賣却スルモノ及未ク賣却セサルモノ右犯則ノ者處罰ノ儀日本坑法ニ明文無之如何處分可然哉

第四 日本ノ民籍タル者ニ非ラサレハ試掘ヲ作シ坑區ヲ借り坑物ヲ探製スル事業ノ本主或ハ組合人トナルヲ得ス(坑産ノ割合及ヒ損益ニ關係スル所ノ者ハ都テ組合トス)若シ之ヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ没入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第六第二項 産鑛ハ借區券(第十款ニ出ス)ヲ得ル後ニ非ラサレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收スヘシ

第十六 都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノタメニ存スヘキ所ノ外ハ或ル丈坑利ヲ遺スヲナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ



○指令

(明治九年五月十七日司  
法省指令)

第一條 情ヲ量リ違令輕  
重ニ問フ

第二條 産鑛ハ賣却スル  
代價共官沒ス

○伺

(明治八年十一月十八日  
三重縣伺)

坑法規則ヲ犯スモノ其得  
ル坑物ハ官ニ没入シ而  
テ鑛山寮ニ引渡シ可然乎  
ニ候ヘ共今政府ノ許可ヲ  
得テ石炭ヲ試堀スルモノ  
アリ罰例明文ナキヲ以テ  
止テ其規則ニ違フヲ責メ  
違式ニ問ヒ已ニ堀得タル  
石炭ハ政府ノ所有タルヲ  
以テ官沒ノ旨申渡シ候就  
テ右違式罪ニ係ルモノ  
ノ如キハ前文坑法規則ニ

利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵  
スヘシ

第十八第一項 凡ソ初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ  
別種ノ坑物ヲ見出スモノハ速カニ鑛山寮ニ  
報知スヘシ之レヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價  
ヲ取揚ヘシ

第十九 開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六  
ケ月間ニ産出セシ坑物量其賣出高並ニ代價  
及ヒ行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知  
スヘシ

有鑛質ハ坑産量且製出セシ混淆物二種以上  
ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記

シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ

右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓ト

ス若シ賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書

セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ

第二十七 坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ

口ヲ掩ヒ又ハ柵圍ヒスヘシ鑛山寮ヨリ其堅

坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全

存在スルヤヲ検査スヘシ若シ疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ之ヲ繕治

スヘキ費額ノ一倍ヲ徵收スヘシ

第三十三 凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命

スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハ、國律ヲ以テ論處スヘシ

○第六章 清國在留日本人ニ關スル罰則ノ事

第六 清國在留日本人ニ關スル罰則

照シ罰スルモノト其名義  
ヲ異ニス故ニ沒官ノ石炭  
ハ贓物ト看做シ賣却ノ上  
代價ヲ以テ御省ヘ相納メ  
可然哉

○指令

(明治八年十二月九日司  
法省指令)

伺ノ趣明治七年第四十二  
号公布(贓金處分ニ關ス  
ル)ノ通可相心得事



（明治六年十月八日第三百三十七號布告）

清國在留日本國人心得方規則別紙ノ通相定メ清國ニ於テハ領事ヨリ布達セシメ候得共追々渡航ノ者モ有之儀ニ付爲心得此旨布告候事

清國在留日本國人心得方規則

今般清國在留日本國人ノタメ左ノ通心得方規則被相定候ニ付テハ嚴ニ之ヲ遵奉シ敢テ違背スヘカラス若シ犯スモノ有之ニ於テハ違式註違條例ニ照準シ相當ノ過料取立ヘク此旨布達候事

第一條 海陸軍士官及ヒ官員ヲ除クノ外平常劍銃及ヒ他武器類ヲ攜帶スヘカラサル事

但シ遊獵ノタメ鳥銃ヲ携フルハ此限ニアラス

第二條 路上ニテ車馬ヲ暴驅シ行人ヘ迷惑ヲ掛クヘカラサル事

第三條 亂醉放歌シ又ハ車馬ノ往來ヲ妨碍ナスヘカラサル事

第四條 花園又ハ街頭ノ草木ヲ折取ルヘカラサル事

第五條 溝河下水又ハ往來等ヘ土芥瓦礫ヲ投棄スヘカラサル事

第六條 市中往來筋ニ於テ猥リニ大小便ナスヘカラサル事

第七條 裸躰又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露ハシ醜態ヲナスヘカラサル事

事

第八條 身体ヘ刺繡ヲナスヘカラサル事

第九條 男女相撲並蛇遣ヒ其他醜態ヲ見世物ニ出ス可ラサル事

第十條 婦人ニテ謂レナク斷髮スヘカラサル事

第十一條 戶外ヘ出ルニ斷髮者ハ必ス帽子ヲ冠リ結髮者ハツキユ

ミ髮ニテ出ツ可ラサル事

第十二條 男女トモ戶外ヘ出ルニハ相當ノ衣服ヲ着シ且手拭ヲ以



テ頭或ハ面ヲ覆フ可ラサル事

第十三條 婦女子ハ淫風ニ流レ娼妓ニ紛シキ所業ヲナスヘカラザル事

○証券

○布告

(明治七年七月二十九日第八十一號布告ノ内)

証券印稅規則

第二則 諸証券

第一條 諸証券ヲ分テ三類トス

第一類 諸証券

一賣品並職業ニ管スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高十圓以上總テ壹錢ノ印稅拾圓未満ハ印紙界紙ヲ用フルコト及ハス

一預リ金(証文手形)

○第七章 証券印稅規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 証券印稅規則罰則ノ事

(明治七年七月廿九日第八十一號布告ノ内)

明治六年(二月)第五十六號以下追々及布告

候証券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊ノ通相

定メ本年九月一日ヨリ施行候條右布告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ

施行候儀ト可相心得事

第四則 賞罰例

第一條 証券界紙相用フヘキ證書類ニ証券界

紙ヲ用ヒサル者ハ脫稅高(界紙定價三種平

均五厘)ノ二十倍(則十錢)其証券ヲ受取タル

者ハ脫稅高ノ十倍(則五錢)過料タルヘキ事

第二條 (第一類第二類第三類)ノ証券類ニ証

券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ二十倍其

證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ十倍過料タル

ヘキ事

第三條 (第一類第二類)ノ諸帳簿ニ証券印紙

ヲ貼用セサル者ハ脫稅高二十倍過料タルヘ

キ事

第四條 (第一類第二類)証券印紙貼用ノ帳簿

一耕地小作証文

一遺金証文

右ノ証券類ハ金高十圓以上ハ總テ一錢ノ印稅十圓

未満ハ界紙ヲ用フヘシ

(明治八年八月第百二十六號布告コト左ノ二項ヲ

加フ)

一預リ米(証文手形)

一預リ雜穀(証文手形)

右ノ証券ハ(米高五石雜

穀高十石)以上ハ總テ一

錢ノ印稅(米高五石雜穀

高十石)未満ハ界紙ヲ用

フヘシ

一質物(預リ書小札)

右ノ証券ハ金高十圓以上

ハ一錢ノ印稅十圓未満ハ

印紙界紙ヲ用ルコト及ハス

一諸會社株手形

一荷物送り狀

第七 証券印稅規則ニ關スル罰則



- 一 地所建家讓與証書
- 一 物品讓與証書
- 一 公債証書類讓與証書
- 一 跡式讓狀
- 右ノ証書類ハ金高ニ拘ハラス總テ一錢ノ印稅
- 第二類 諸証書
- 一 借用金証文
- 一 預リ金(証文手形)
- 但使用ヲナサ、ル明
- 文無之分
- (明治八年八月第百二十六號布告ニテ左ノ二項ヲ加フ)
- 一 預リ米(証文手形)
- 但使用ヲナサ、ル明
- 文無之分
- 一 預リ雜穀(証文手形)
- 但使用ヲ爲サ、ルノ明文無之分
- 一 地所並建家賣渡証文
- 一 地所並建家(賣入書入)

見積金高附込相濟餘白ノ紙數之アルトテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ證券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脫稅高ノ十倍過料タルヘキ事

第五條 第三類ノ諸帳簿へ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ股稅高(譬へハ無印紙ニテ一ケ年未滿相用フル者ハ則二十錢ノ脫稅ニケ年未滿相用フル者ハ則四十錢ノ脫稅ニ當ル類ナリ)以上之ニ準シ一ケ年以内二十錢ツ、ノ割合ヲ以テ之ヲ算ス)ノ六倍過料タルヘキ事

第六條 第三類証券印紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之アルトテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脫稅

高(譬書上全斷)ノ四倍過料タルヘキ事

- 証文
- 一 公債證券類賣買証文
- 一 諸品(賣入書入)証文
- 一 諸受負証文
- 一 金錢約定証文
- 一 金錢約定爲取換証文
- 一 米穀並諸品賣買約定証文
- 一 米借用証文
- 一 雜穀借用証文
- 一 賣買用諸品(代價十圓以上)借用証文
- 一 借地証文
- 一 借家証文
- 一金十圓以上記載雇入受
- 狀
- 一 諸賣買証據金預リ手形
- 一 諸金証文
- 右ノ証書類ハ
- 書面
- 金高十圓未滿ハ
- 米高五石未滿ハ
- 雜穀高十石未滿ハ
- 界紙ヲ用フヘシ

(第七條 該條ハ明治八年四月第五十一號布告ニテ改正)

第八條 規則ニ從テ貼用セシ諸証書帳簿ノ証券印紙ニ調印セサル者ハ三十圓以下ノ過料タルヘキ事

第九條 証券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナルカ或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサルカ又ハ界紙ヲ用ヒサル証書ニ証人ニ相立又ハ奧書等致候者ハ二十五圓以下ノ過料タルヘキ事

第十條 官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條

第七 證券印稅規則ニ關スル罰則



全斷

金高十圓以上二十圓未滿ハ  
米高五石以上十石未滿ハ  
雜穀高十石以上二十石未滿ハ

印稅一錢

全斷

金高二十圓以上三十圓未滿ハ  
米高十石以上十五石未滿ハ  
雜穀高二十石以上三十石未滿ハ

印稅二錢

全斷

金高三十圓以上四十圓未滿ハ  
米高十五石以上廿石未滿ハ  
雜穀高三十石以上四十石未滿ハ

全 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルル總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

(明治七年十二月第百三

ニ背キ證券(印紙界紙)ヲ賣捌致シ候者ハ其

品取上ケ既ニ賣捌タル(印紙界紙)代ノ百

倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ

(印紙界紙)代ノ五十倍過料タルヘキ事

第十一條 證券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼

用無之諸帳簿ニ調印イタシ候者ハ其人毎ニ

帳簿主ヨリ取立候過料高百分ノ一ツ、各過

料タルヘキ事

第十二條 一旦相用セ調印セシ證券印紙ヲ再

用セントシテ之ヲ剝キ取り調印ヲ洗滅スル

者或ハ洗滅シタル者ト知テ之ヲ再用スルモ

ノ又ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ過料

タルヘキ事

第十三條 證券(印紙界紙)ヲ價造スル者又ハ

價造セシ品ト知テ是ヲ賣買スル者ハ都テ九

十圓以下ノ過料タルヘキ事

○第二節 證券印稅規則中改正增加

ノ事

(明治八年四月十日第五十一號布告)

明治七年(七月)第八十一號布告證券印稅規

則第四則中左ノ通改正增加候條此旨布告候

事

證券印稅規則

第四則 賞罰例

十六号布告ニテ左ノ一項ヲ加フ)

一諸品賣買仕切書

(明治十二年八月第三十

一号布告ニテ左ノ但書ヲ加フ)

但買仕切トハ荷主ヨリ

輸送シ又ハ輸送セント

スル物品ヲ問屋仲買又

ハ其他ニ於テ仕切リ其

價格等ヲ荷主ヘ証明報

告スル書類ヲ云ヒ賣仕

切リトハ荷主ヨリ他ニ

物品ヲ販賣又ハ輸送ス

ルニ方テ其物品賣却ノ

價格ヲ荷受主ニ向テ証

明報告スル書類ヲ云フ

右ノ仕切書ハ

書面金高十圓未滿ハ

界紙ニ及ハス

全斷金高十圓以上廿圓

未滿ハ 印稅一錢

第七 證券印稅規則ニ關スル罰則



全斷金高二十圓以上卅圓未滿ハ 全 二錢  
 全斷金高三十圓以上四十圓未滿ハ 全 三錢  
 全斷金高四十圓以上五十圓未滿ハ 全 四錢  
 右以上幾許ノ高ニ至ルモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第三類 諸証書

一 諸酒切手  
 右ノ切手ハ  
 升目一升未滿ハ  
 全 一錢  
 一升以上一斗未滿ハ  
 全 二錢

一 食類切手  
 右ノ切手ハ  
 全 一斗以上二斗未滿ハ  
 全 二錢  
 全 二斗以上三斗未滿ハ  
 全 三錢

一 米油醬油其外諸品賣買切手  
 右ノ切手ハ  
 全 一斗以上二斗未滿ハ  
 全 二錢  
 全 二斗以上三斗未滿ハ  
 全 三錢

第七條改正 諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ十倍其証書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第八條但書增加 但其調印セサル証書ヲ受取タル者ハ渡主ニ科スル半高ノ科料タルヘキ事

第十五條增加 証書印紙貼用スヘキヲ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ十倍其証書受取タル者ハ減稅高ノ五倍過料タルヘキ事

代金高二十五錢未滿ハ 界紙ニ及ハス 印稅一錢  
 全廿五錢以上二圓五十錢未滿ハ 全 二錢  
 全三圓五十錢以上五圓未滿ハ 全 三錢  
 全五圓以上十圓未滿ハ 全 三錢  
 右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 荷物受取書  
 右ノ受取書ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附添ノ分ハ界紙ヲ用フルカ又ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一 金高記載無之(約定証書雇人受狀)類  
 右ノ証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

(明治七年十二月第百三十六号布告ニテ左ノ二項ヲ加フ)

一 爲換手形 一 荷爲換手形  
 右ノ手形ハ 界紙ニ及ハス 印稅二錢

書面金高五十圓未滿ハ 界紙ニ及ハス 印稅二錢  
 全斷金高五十圓以上百圓未滿ハ 界紙ニ及ハス 印稅二錢

第七 證券印稅規則ニ關スル罰則



全斷金高百圓以上百五十圓未滿ハ 全二錢  
 全斷金高百五十圓以上二百圓未滿ハ 全三錢  
 全斷金高二百圓以上二百五十圓未滿ハ 全四錢  
 右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之レニ準シ印税増加致スヘシ  
 (明治十二年八月第二十一号布告ニテ左ノ一項ヲ加フ)

一銀行當坐預リ金小切手  
 右ノ小切手ハ金高ニ係ハラス總テ一錢ノ印税ヲ徵收シ大藏省ニ於テ税印ヲ押捺スルキ  
 ノトス

第三則 諸帳簿

第一條 諸帳簿類分テ三類トス

第一類 諸帳簿

一金錢判取帳 一質物通帳 一金錢當坐預リ通帳  
 右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

全斷金高百圓以上二百圓未滿ハ

印稅一錢

全斷金高二百圓以上三百圓未滿ハ

全二錢

全斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ

全三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

第二類 諸帳簿

一質物臺帳 一金錢一時(貸借)通帳 一諸品損料帳  
 一商賣品當坐(貸借)通帳 一金錢預リ通帳 但使用ヲナサ、ル明文無之分  
 右ノ帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿ハ

印紙貼用ニ及ハス

全斷金高二百圓以上三百圓未滿ハ

印稅五錢

全斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ

全十錢

全斷金高四百圓以上五百圓未滿ハ

全十五錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印税増加致スヘシ

第三類 諸帳簿

一荷物判取帳 一諸品判取帳  
 右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラス一ケ年ニ付印稅二十錢

〇伺

(明治九年月日不分明東京上等裁判所檢事局伺)  
 借用金証書調印犯則云々ヲ以テ別紙ノ通中尾七等判事ヨリ告發有之右調印ノ儀ハ離形  
 ナ以テ公布相成タル通り本人ニテ調印スヘキハ勿論ニ有之然ル處本人ノ捺印ナクシテ  
 受人ノ捺印ノ有之ト雖モ素ト印紙再用ノ弊ヲ防クニ止ル者トスレハ受人ノ捺印有之  
 ナ以テ再用ノ弊ヲ防クノ功力ヲ保有スル上ハ之レヲ犯則トシ處罰ノ限ニアラサル者ト  
 見込可然哉將本人ノ捺印スヘキ者ハ既ニ離形ヲ以テ公布有之上ハ犯則ノ罰例ニ比擬ス  
 へキ者ニ候哉

〇指令

(明治九年十一月十一日司法省指令)  
 調印ノ規則ニ違フ者ニ付証券印稅規則第四則第八條第九條ニ依テ處斷スル儀ト心得ヘシ

〇伺

(明治七年八月廿九日神奈川縣伺)  
 第一條 証券印紙御規則第四則第九條証人ノ儀假令ヘハ金子借用証文等ニオイテハ金

第七 証券印稅規則ニ關スル罰則



子貸借致候マテノ証人ニ相立候者モ有之本人等限候節返弁可致旨証文ニ記載致シ其事柄引受候証人モ有之且田畑質入証文等ニハ親類及ヒ隣家ノ者加判致シ証文面ニ右地所ニ付彼是申出候モノ有之候節加判ノモノニテ引受迷惑相掛ケ申問敷或ハ親類ニ引受可申云々トノニニ隣家ノ者等於テハ組合並ニ隣家等ノ因マテニ加判致シ証人ノ名義モ判然不致分モ有之候間右ハ金子貸借ニ限ラス諸証類ニ加判致シ候者裁判上ニ於テ判然証人ノ名義難免者共ノニヨリ前記過料金取立相成儀ニ候哉

第二條 全斷與書等致シ候モノトハ村吏町吏ノ儀ニ候ヤ此與書ノ儀地所及ヒ家作賣買田畑質入書入等ノ類ニハ町方ノ分ハ正副局長並正副區長在方ノ分ハ其村々用掛(以前ノ名主組頭ノ類)小區正副局長(一大區ノ内五ヶ村七ヶ村位ヲ合併小一區トナシ區毎ニ百長副局長ヲ置ク)區長副區長(右五ヶ村七ヶ村位ヲ合併一小區トナシ小區ノ數八ツ乃至十ヲ一併シテ大區ト唱フ)與書致シ或ハ本人ト連印致シ候分モ有之右等ノ者トモ其職務オイトテ証券印稅御規則ノ趣弁知不致候テハ不相成儀ニ付前條ノ通過料金取立相成至當ノ儀トハ存候ニ共與書致シ候モノトモ一人別ニ全額ノ過料取立候儀ニ候ヤ又ハ其主從ヲ論シ二十五圓以下ノ金高ナ一同ヨリ取立相成候儀ニ候ヤ心得居管下ノ人民ニ諭達致シ置申度

○指令

(明治七年十月三日司法省指令)

第一條 其保証スル所ノ輕重ヲ量リ罰金範圍内適宜處分スルコトト心得ヘシ

第三條 罰金ハ主從ヲ分ク各人ヨリ取立テ且其犯狀ヲ量リ二十(五ノ字ヲ脱スルカ)圓以下ニ錢ヲ適宜處分スルコト心得ヘシ

但シ職務上ニ付連印スルモノハ與書ト見做スヘシ

○同

(明治七年十一月九日茨城裁判所例)

本年太政官第八十一号御布告証券印紙規則改正第五則第十二條ニ前條ニ掲ル証書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上ケ裁判可致ト有之右ハ第十一條規則ノ通過料金差出候後ノモノニ限リ候歟又ハ未タ處罰ヲ經スト雖モ証書受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用調印ノ上訴出候節ハ取上ケ及裁判犯則ノ廉ハ斷獄課ニ於テ可處分候哉

○指令

(明治八年一月七日司法省指令)

証券印稅規則第五則第十二條ハ第十一條規則ノ通過料金差出候後ノモノニ限ルヘシ但シ其發覺前証書受取主ニ於テ相當ノ印紙貼用調印ノ上訴出候モノハ證書渡主ノニ斷獄課ニ於テ無印紙ノ罰ヲ科スベシ

○同

(明治八年一月八日大阪裁判所例)

本省日誌七年第九十一号京都府ヨリ証券印紙規則第一則第一二條ヲ引キ後日故障差起リ候節取揚裁判不相成ノニニテ別段構ハ無之ヤ又ハ脱稅犯則ヲ以テ論スヘキ哉ト伺候處罪ノ論スヘキナシト御指令有之就テハ右ヲ援引致スハ勿論ノ儀ニ候ヘ共退テ印紙ヲ貼シ調印ノ上願立ルモノハ取上ケ裁判及ヒ前キニ印紙不貼用ノ廉ヲ犯則ニ照シ處分可致儀ニ候哉將又人民財產受授約定証書ニ不足印紙ヲ貼シ置後日出訴及ヒ候節審明スルニ原被共ニ頑愚ニシテ未タ印稅規則ニ慣熟セサルヨリ誤テ第二類金高ニ應スルノ印紙ヲ貼スヘキニ第一類印紙ヲ貼スル等ノモノモ仍ハ裁判不致訴狀取下ケ前項御指令ニ照準シ罪ノ論スヘキナシト相心得可然哉

○指令

第七 証券印稅規則ニ關スル罰則



(明治八年二月三十一日司法省指令)  
 京都府ノ伺ハ全ク證書ヲ用ヒサルモノニ係ル故ニ罪ノ論スヘキナシ証書アリテ印紙ヲ貼用セサルモノハ取上ケ裁判セスト雖モ其種類ニ依リ罰ヲ科スヘシ  
 追テ其證書ヲ第五則第十二條ノ手續ヲ以テ裁判ヲ乞フモノハ取揚クヘシ  
 印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ無印紙ノ證書ト同視セス故ニ取上ケ裁判スヘシト雖モ其減税ノ罰ハ第四則第七條ニ照シ處分スヘシ

○伺

(明治八年一月十八日石川縣伺)  
 金錢借用證文ノ名下及ヒ消印共摺印ヲ用ヒ候證券ヲ授受致シ候モノ有之即今及出訴候處右ハ實印無之ヲ以テ裁判上證據不相立ハ勿論ニ候ヘ共摺印ヲ以テ印紙ニ消印スルモノ犯則ノ限ニ無之哉

○指令

(明治八年二月七日司法省指令)  
 實印ヲ以テ貼用ノ印紙ヲ消印可致旨規則中ニ明文アルヲ摺印ヲ以テ印紙ヲ消印スルモノハ仍ホ消印セサルモノニ準視シ二十五圓以内ノ罰金ヲ科シ情ヲ量リ輕ニ從テ處スヘキ事

○電信

○伺

(明治十年一月二十九日東京裁判所檢事局伺)  
 電信線路近傍於テ紙鷲ヲ

○第八章 電信條例ニ關スル罰則ノ事  
 (明治七年九月二十二日第九十八號布告ノ内)  
 日本帝國電信條例

第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電線器械

柱木信線若クハ其線ヲ覆フ匣蓋管箇或ハ支  
 凸腕木柳木陶器海底線浮標旗竿號報柱及電  
 機並ニ其附属一切ノ物品ヲ毀傷スル者或ハ  
 此電機ニテ通信ノ傳送携致又ハ届渡シテ如  
 何様ナル仕方ニテモ妨碍スルモノ其他上件  
 ノ柳木支凸腕木ヲ拔取ル者ハ五百圓ヨリ多  
 カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役  
 或ハ禁獄ニ所ス

但シ過誤失錯ニ出ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金ノミヲ出サ

シム

第五條 電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ電

第八 電信條例ニ關スル罰則



信寮ノ事務ニ從事スル際之ヲ攻打シ或ハ粗暴ノ舉動ヲナシ其事業ニ妨害抗抵ヲナスモノハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三ヶ月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第六條 何人ニテモ不法ニ柱木枷木海底線信線旗竿浮標其他電機又ハ其附属一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ舟筏等ヲ繫ク者ハ其所業ニ依テ損害ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第七條 何人ニテモ柱木信線陶器旗竿腕木枷木支凸號報柱浮標其他ノ物品ヘ瓦礫若クハ雜物ヲ投擲シ又矢箭火器ヲ彈射スル者ハ其所業ニ依テ毀傷ノ有無ヲ論セス一百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙鳶ヲ飛シ信線陶器腕木枷木支凸其他電機ニ屬スル物品ヘ紙鳶又ハ其附属ノ線等ヲ引掛ケ電機ノ妨碍ヲ生ゼシムルモノハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第九條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電信寮ヨリ其局々或ハ電線沿道ノ所々ニ取立タル標識揭示等ヲ削剝シ又ハ拔去ル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條 何人ニテモ不法ニ電機用ノ一部分タル柱木旗竿信線支線支柱ヘ攀チ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依テ妨害ノ有無ヲ論ゼス二十五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十一條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附属



ノ物品へ落書圖繪又ハ鐫刻スルモノハ十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十二條 電機掛官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他人へ届渡スヘキ電報ヲ故意ヲ以テ隱匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ届渡スヘキ命令ヲ怠リ或ハ背ンセサル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十三條 電信寮ニ仕官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳送又ハ届渡スヲ忘却遅延スルモノ又ハ同様ノコニ因テ音信ノ傳送届渡ヲ妨碍遷延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳洩スル者又ハ他ノ人民又ハ電信寮ノ官員ト雖モ其場ニ立入ヘキ職務ニ非ラサル者ヲ電信寮ノ器械室ニ立入ヲセ又ハ滯居セシムル者等以上ノ各犯ハ一百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

第十四條 凡此條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ル者ハ五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十五條 凡此條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨碍ヲ生スル者ハ例ニ照シテ處分スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム

但工部省所轄電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處分ス

第十六條 凡犯人ヲ處斷シ罰金並ニ償金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判官ノ權内ニ屬ス

第十七條 凡犯罪ノ形狀ヲ裁判官へ報告シ其處分ヲ乞フ手順ハ工部省ニテ取扱フノ權ヲ有ス

○廻漕

○第九章 廻漕取締規則ニ關スル罰則ノ事



○布告

(明治八年十一月八日第百六十三号布告ノ内)  
明治七年(十一月)第百廿三号布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右全月全日ヨリ施行候條此旨布告候事

西洋形日本船各開港場出入規則

第三條 輸入税未納ノ外國貨物及貨主外國人ニテ輸出税未納ノ内國貨物廻漕ノ儀ハ本年第二十号布告ニ照シ夫々手數致スヘキ事

○伺

(明治十一年一月廿五日新瀉縣伺)  
諸船舶ノ内昨明治十年第

○第一節 危害品積込規則ノ罰則ノ事

(明治六年八月九日第二百九十二號布告ノ内)

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

危害品積込規則

火藥硝石硫酸ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並ニ腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候キハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船

五十六号公布北海道諸產物出港稅則第十一條ニ抵觸スル場合ニ於テ税金料ヲ追徴スルノ外猶該船艦札面ニ超過セシ積石有之キハ全年開拓使甲第一号ニ依リ其品沒收公賣ノ上開拓使ヘ送致スヘキモノト差考ヘ全使ヘ照會候處沒收公賣ノ分ハ於當縣一般ノ科料等ト同様處分スヘキ旨回答有之候ニ付テハ其公賣代價ハ違註贖金ト一般新瀉裁判所ヘ交付シ可然哉又ハ直チニ御省ヘ可上納哉

○指令

(明治十一年二月五日司法省指令)  
直ニ當省ヘ納ムヘシ但使府縣限リ取設タル規則ト雖モ罰科ニ關係

長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事(第一項)  
船長及運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出スト雖トモ官ニ訴ヘ出テサルキハ金二百圓以内ノ罰ニ處スヘキ事(第五項)

○第二節 貢米運漕船掟ノ事

(明治三年七月大藏省布達ノ内)

貢米運漕船掟



スルモノハ明治六年第  
二百八号公布ニ依リ裁  
判官ニ送付シテ處分セ  
シムル儀ト心得ヘシ

○伺

(明治十三年九月日不分  
宮城縣伺)  
茲ニ人アリ甲地ヨリ乙地  
へ移轉スル節荷物莖包ヲ  
海運ニ托シ漁船ニ積ミ乙  
地陸揚ノ際該莖包ヨリ彈  
藥漏出スルヲ運搬者之ヲ  
見認メ管轄廳へ届出明治  
六年第百九十二号公布  
ニ依リ該荷物ヲ解檢スル  
ニ果シテ彈藥(量目八百  
日程)古紙ニ包ミ衣類雜  
品中ニ混入セリ依テ荷主  
ヲ喚問スルニ全シ移轉ノ  
混雜ニ紛レ不計他ノ物品  
ト危害品ヲ混入船積ヲ爲  
シ其旨船主へ不斷旨陳述

難風ニ逢ヒ打米不致シテ不叶時ハ先ツ糶米ヲ  
打捨其上ニテ貢米ヲ勿捨可申候若シ糶米ヲ殘  
置ニ於テハ不殘取上可申事(第六項)  
若シ打米杯ト偽リ聊カニテモ隱置候儀有之ニ  
於テハ其米高ノ倍數外ニ一石ニ付金五兩ツ  
ノ割合ヲ以テ科料差出サセ以後船稼差止可申  
候事(第十項)  
糶米不足ニテ買入候節ハ其所ノ慥成者ヨリ証  
書受取可申若シ糶米ト偽リ商ヒノタメ買入ニ  
於テハ其有米不殘外ニ錢十五貫文科料トシテ  
取上可申候事(第十一項)  
難澁者ニテ科料差出兼候ハ、其者雇主ヨリ取

上可申候事(第十二項)

○第三節 外國形日本船輸出入稅未納内  
外貨物廻漕規則罰則ノ事

(明治八年二月七日第二十號布告ノ内)

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻漕規  
則別册ノ通相定本年四月一日ヨリ施行候條  
此旨布告候事

外國形日本船輸出入稅未納内外貨物廻漕  
規則

第四條 前條ノ船貨物ヲ船積シ或ハ船卸スル  
ハ日出ヨリ日沒迄ニ限ルヘシ若シ夜中竊カニ貨物ヲ積卸スル  
ハ其現品ヲ沒收シ且其品價全額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課

ス右ハ危害物品船積規則  
第一項中尋常ノ荷物ト伴  
リ之ヲ船積或ハ船積セン  
ト謀ルモノハ金五百圓以  
内ノ罰金ニ處スト有之モ  
故造ニアラサル以上ハ問  
罪ノ限コアラサルカ果  
然ラハ取締上願ル管係有  
之候ニ付此段相同候條差  
懸リ候義モ有之候間至急  
何分ノ御指令有之度候也

○指令

(明治十三年九月日不分  
司法省指令)  
伺ノ趣危害物品船積法則  
第一項ヨリ處分スル儀  
ト可心得事

第九 廻漕取締規則ニ關スル罰則



スヘシ

但シ日没ヨリ日出マテハ船中ノ艙口ヲ固封シ置ヘシ若シ勝手ニ開封スル時ハ其船長或ハ其會社ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第五條 甲港ヨリ乙港ニ回漕スル前條ノ船ニ未納稅内外貨物ヲ積入レ乙港ニ輸送セント欲スルキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ差出書(各稅關ニ用フル積送差出書)ニ貨物ノ品種箇數記號番號元價等詳細相認メ積送ノ儀稅關へ願出貨物檢査濟ノ上積送免狀ヲ受ケ積入ルヘシ若シ此手數ヲ經スシテ積入ルキハ其現品ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ必ス右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ積入ルヘシ若シ無免狀ノ貨物ヲ船積セハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長へ其品價全額ノ罰金ヲ課スヘシ

第六條 甲港ニ碇泊スル外國船ヨリ都合ニヨリ直チニ貨物ヲ船移シ乙港ニ積送ラント欲スルキハ其貨主或ハ其引受人ヨリ船移回漕ノ差出書(各稅關ニ用フル船移書式)ニ貨物ノ品種箇數記號番號等詳細相認メ船移ノ儀稅關へ願出右免狀ヲ受ケ船移スヘキ儀ナレハ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之レニ照シテ其品ヲ船移スヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルキハ其現品ヲ沒收シ且其品價全額ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第七條 前條ノ船舶ヨリ輸出稅未納内國貨物ヲ外國船へ積移スルヲ許サス若シ密ニ之ヲ船移シ又ハ船移セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收シ且其會社或ハ其船長ニ其品價全額ノ罰金ヲ課スヘシ



第八條 前條ノ船貨物積入レ甲港ヲ出港セント欲スルキハ其船長或ハ其會社ヨリ第一號ノ如ク積送貨物ノ總目錄二枚(一枚ハ甲港稅關ヘ置キ一枚ハ乙港稅關ヘ送達ス)ヲ認メ稅關ヘ差出シ出港免狀ヲ受ケ出港スヘシ若シ此手數ヲ經スシテ出港スルトキハ總目錄ニ記載スヘキ品價全額ヲ罰金トシテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

但シ汽船ハ出港前二時帆船ハ出港前二十四時ヲ隔タテ、此手數ヲナスヘシ

第九條 前條ノ船甲港ヨリ乙港ニ通航中風順ニヨリ不開港場ヘ入津スルトモ輸入稅未納ノ外國貨物或ハ貨主外國人ニシテ内國品ヲ船卸スルキハ密商スルト否トヲ問ハス其現品ヲ沒收シ且其品價全額及ヒ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會所ニ課スヘシ

第十條 前條ノ船乙港ニ入港セハ其稅關ヘ第二號書式ノ如ク未納稅内外貨物ノ輸入總目錄一通ヲ差出スヘシ尤モ此手數ハ入港下碇後休日ヲ除キ四十八時間ニナスヘシ此時間ヲ過クルキハ一日毎ニ金六十圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十一條 前條ノ輸入貨物總目錄中若シ誤脫アルヲ覺知セハ休日ヲ除キ二十四時間ニ更正スルヲ得ヘシ此期限ヲ過キ更正スルキハ金十五圓ノ罰金ヲ課スヘシ

第十二條 前條ノ輸入貨物總目錄ヲ甲港ヨリ乙ニ回達アリシ積送貨物總目錄ニ照會シ過不足アルキハ其事由ヲ糺明シ條理判然セサレハ不足ノ貨物ハ甲乙兩港間ニ於テ密商セシ者ト看做シ其品物同價ノ金額並ニ金一千圓ノ罰金ヲ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ若シ貨物過ナルトキハ其現品ヲ沒收シ且其品價全額ヲ罰金ト



シテ其船長或ハ其會社ニ課スヘシ

第十三條 前條ノ船入港手數ノ上未納稅内外貨物ヲ陸揚スルトキハ其貨主或ハ引受人ヨリ差出書(各稅關ニ用フル輸入書式)ニ貨物ノ品種簡數記號番號原價等詳細相認陸揚ノ儀稅關ヘ願出貨物檢査濟ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸セハ事ノ成否ヲ問ハス其貨物ヲ沒收ス故ニ其船長或ハ會社タルモノハ右免狀ヲ點視シ之ニ照シテ其品ヲ船卸スヘシ若シ無免狀或ハ免狀外ノ貨物ヲ船卸シ若クハ船卸セント謀ラハ事ノ成否ヲ問ハス其會社或ハ其船長ヘ其品價全額ノ罰金ヲ課スヘシ

但外國貨物ハ輸入稅上納ノ上陸揚免狀ヲ受ケ陸揚スヘシ

第十四條 前條ノ船舶便利ニ因リ此規則ニ關係スル貨物ヲ互ニ船

移スルトキハ稅關ヘ願出免許ヲ受クヘシ若シ無免狀又ハ免狀外ノ貨物ヲ船移スルキハ其現品ヲ沒收シ且其品價全額ヲ罰金トシテ雙方ノ船長或ハ雙方ノ會社ニ課スヘシ

第十六條 此他會社或ハ船長タルモノ貨主又ハ代人ニ與スルト否トヲ問ハス故ラニ稅金ヲ脫セント謀リ若シクハ其他諸般ノ方略ヲ以テ脫稅ヲ謀ル者アレハ金一千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ若シ其事過失ニ出テ犯則ニ涉ル者アレハ此規則ニ照シテ罰スヘシ

第十七條 總テ事犯則ニ涉ル者其二犯俱發スル者ハ重キニ就テ處分スヘシ

○第四節 西洋形日本船各開港場出入規則ノ罰則ノ事

(明治九年三月十日第二十九號布告ノ内)



明治八年(十一月)第百六十三號布告西洋形日本船各開港場出入規則第五條左ノ通改正候條此旨布告候事

西洋形日本船各開港場出入規則

第五條 出入港ノ届ケナ等閑ニスル者ハ左ノ通科料可申付事

蒸氣船三百噸マテ 金五圓

三百噸以上三百噸毎ニ五圓ヲ加フ

風帆船三百噸マテ 金三圓

三百噸以上三百噸毎ニ三圓ヲ加フ

○第五節北海道諸産物出港税則並各港船政所規則ノ罰則ノ事

(明治十年八月十一日第五十六號布告ノ内)

明治八年(二月)第十四號布告北海道諸産物出港税則並各港船政所規則別册ノ通改正本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

北海道諸産物出港税則並各港船政所規則

第十條 諸船舶出港税未納或ハ税納目錄外ノ産物ヲ竊ニ積載各府

縣へ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシ

テ船長ヨリ其物品原價(其發露スル地方賣買ノ價格ヲ以テ之ヲ

定ム)十分ノ二出港税ヲ徴收スヘシ

第十二條 出入港ノ届及ヒ檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許

可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ

船長ヨリ科料ヲ徴收スヘシ

日本形船 五十石マテ 金十五錢

五十一石以上十石コトニ一錢ヲ加フ

外國形漁船 三十噸マテ 金五十錢

三十一噸以上十噸毎ニ十七錢ヲ加フ



全風帆船

三十噸マテ

金三十錢

三十一噸以上十噸毎二十錢ヲ加フ

○第六節開拓使管内日本形商船貨物積載規則改正ノ事

(明治十一年七月四日開拓使甲第六號布達)

當使管内ニ於テ貨物積取ノ日本形商船ハ都テ船稅鑑札ヲ檢査シ鑑札面ニ超過スル荷物ハ一切積載不相成旨昨十年(二月)甲第一號(府縣)乙第一號(管内)ヲ以テ及布達置候處詮議ノ次第有之右制限ノ儀ハ自今相廢シ更ニ鑑札面ニ拘ハラヌ船復外面筋板一板ヲ沈ムルヲ則トシ船材ノ堅硬ト薄弱トニ依リ少差ノ浮沈ヲ斟酌シテ其能力ヲ審査シ航海適當ノ船脚ヲ以テ貨物積載差許候方法ニ相改メ積取場ノ船改所或ハ地方役所又ハ區戶長役場ニ於テ查定致候ニ付右船脚ニ超過スル荷物ハ一切積載不相成尤積取場ニ於テ其筋ノ檢査ヲ經ス

密ニ積載候者ハ都テ其超過ノ荷物ヲ沒收候條此旨布達候事

○第七節 北海道各港津ニ於テ貨物積卸檢査手續罰則ノ事

(明治十一年七月八日開拓使甲第七號布達ノ内)

昨明治十年第五十六號御布告北海道諸產物出港稅則並ニ各港船改所規則第四條第五條第六條ニ據リ回漕ノ諸船舶北海道各港津ニ於テ貨物積卸檢査ノ手續左ノ通相定候條此旨布達候事

第四條 各港津ニ於テ定ノタル波止場ト雖モ總目錄及ヒ檢印帳ニ

記載セサル貨物ヲ積卸スルモノ或ハ許可ヲ得スシテ波止場外ノ

海岸ニ於テ積卸シ及ヒ船移スルモノ等北海道諸產物ハ出港稅則

第十條其他ノ物品ハ全第十二條ニ掲載セル科料ヲ徵收スヘシ

○車稅

○第十章 車稅規則ニ關スル罰則ノ事

(明治八年二月二十日第

二十七号布告ノ内)



車稅規則

- 第一則
  - 一馬車二匹立以上一ケ年稅金三圓
  - 一全一匹立一箇年稅金二圓
  - 一荷積馬車一ケ年稅金一圓
  - 一八力車二人乘一ケ年稅金二圓
  - 一全一人乘一ケ年稅金一圓
  - 一牛車一ケ年稅金一圓
  - 一荷積大七八車一ケ年稅金一圓
  - 一荷積中小車但大六以下一ケ年稅金五十錢
- 第二則
  - 一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ尤モ遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一號布告鯉魚並ニ海川小廻船稅規則ニ照準取稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定全月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則 第六則

諸車類無届ニテ營業スルカ又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

但從來所持ノ分コテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノモノハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半ケ年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ可相納事但前半年分ハ其年七月三十一日限り後半年分ハ翌年一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

第五則

一荷車等ノ内耕作一途ニ相用候ハ免稅タルヘキ事

○布達

(明治十二年六月十一日大藏省乙第二十三号布達)府縣船(商船解漁船等)車へ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ増減ヲ生シタルキハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金徵收候儀ト可相心得此旨相達候事

○伺

(明治八年十二月十四日度會縣伺)本年第二十七号布告車稅規則第六則ニ諸車無届ニテ營業スルカ又ハ使用スルモノ其脫稅高ノ五倍科料云々ト有之目脫稅ト云ハ譬ハ六月以前ニ車ヲ新調シ無届ニテ營業スルハ七月ニ至テ顯ハルレハ半年分ノ稅ヲ脱スルモノトシ若シ翌年一月ニ及ンテ顯ハルレハ一ケ年ノ脫稅トシテ加算スヘキ事又ハ六月中ニ顯ハルレハ半年ノ脫稅トシ七月ニ及フハ一年トシ翌年一月ニ及フハ一年半ノ脫稅トスルカ或ハ又半年ノ區別ナシ犯ス日數ノ多寡ニ拘ハラヌ一年ノ脫稅トシテ科スヘキ事然ルキハ十二月廿日ニ車ヲ新調シ無届營業スルハ翌一月十日ニ顯ハルレハ犯ス日數僅カニ二十有餘日間ニシテ二ケ年ノ

第十 車稅規則ニ關スル罰則



脱税五倍ヲ課スルニ至ル如此ハ其當テ得サルニ似タリ於是其脱税云々トアルハ年税日  
數三百六十五日(閏年ハ一日ヲ加算ス)ニ割リ所犯ノ日數脱税ノ金員ニ五倍ヲ科スヘキ  
儀ニモ可有之乎

○指令

(明治九年一月二十四日司法省指令)六月以前七月以後ノ區別ヲ以テ半年分ノ脱税トナ  
シ六月ヨリ七月ニ至リ十二月ヨリ一月ニ至ルハ一年分ノ脱税トナシ其五倍ヲ科スヘ  
シ

○伺

(明治十年十一月七日千葉縣伺)

第一條 車税規則第六則ニ諸車類無届ニテ營業スルカ又ハ使用スルモノハ其脱税高ノ  
五倍科料云々ト掲載有之然ルニ檢印有之車ヲ他ヨリ買受タルモ届以前ニ使用又ハ營  
業スルモノハ前段ノ處斷相成候哉

第二條 農業一途ノ車ヲ他ヨリ借受外稼業ニ使用スレハ該車相當税額(六月以前七月  
以後ノ區別相立)五倍ヲ科シ即チ使用人ヨリ徵收相成所有主ハ無賃錢ニテ貸渡シタ  
ルモノナレハ不問ノ儀ト相心得可然哉

第三條 無届ニシテ新調ノ車ヲ使用スルハ規則第六則ニ據リ脱税高ノ五倍ヲ科スヘキ  
ハ勿論ノ儀ニ可有之候得共其内全ク農業一途ニ相用ル分ハ固ヨリ免稅クルヘキモノ  
ニ付脱税ノ廉ヲ以難科筋トモ存候ヘ共右ノ相當ノ御處分可相成儀ニ候哉

○指令

(明治十年二月二十一日司法省指令)

第一條 伺ノ通 第三條 伺ノ通使用人ニ五倍ノ税ヲ科シ所有主ハ不問ニ措ク儀ト  
心得ヘシ

第三條 伺面ノ如キ地方ニ於テ別ニ無檢印ノ車ヲ挽クコトヲ禁スルノ令ナケレハ但テ説  
諭ニ止ムヘシ

○伺

(明治十一年二月廿七日宮城縣伺)

明治八年(二月)太政官第廿七号公布車税規則中第六則ニ諸車類無届ニテ營業スルカ又  
ハ使用スルモノハ云々ト有之然ルニ管下ノ者東京其他ノ地ニ出張ノ際新調諸車ヲ購求  
シ其旨該地ヨリ届出ルルハ縦令檢印烙捺以前ト雖モ歸路使用スルモ敢テ犯則ノ限ニハ  
アラサルヤ

全第五則中荷積車ノ内耕作一途ニ相用候分ハ云云ト有之右ハ無届ニテ使用シ發覺スル  
ト雖モ素ヨリ免稅ノモノタルヲ以テ將來ヲ訓戒スルニ止マルヘキヤ又ハ其筋ヘ証告處  
分スヘキヤ

○指令

(明治十一年三月十二日司法省指令)

第一條 車税規則中第六則ニ依テ處分スヘシ

第二條 伺面ノ如キ地方ニ於テ別ニ無檢印ノ車ヲ挽クコトヲ禁スルノ令ナケレハ但テ説  
諭ニ止ムヘシ

○公債

○伺

(明治九年十月十二日新  
潟裁判所伺)

爰ニ地方廳ニ於テ家祿奉

○第十一章

公債証書發行條例ニ關スル罰

則ノ事

○第一節

金札引換公債証書發行條例ノ

第十一 公債証書發行條例ニ關スル罰則



還ノ士族へ下渡スヘキ資  
金及ヒ秩祿公債証書ヲ未  
ク該奉還主へ下渡サ、ル  
以前他人該奉還主ノ委任  
狀ヲ詐爲シ之ヲ以テ受取  
方ヲ申請ス地方廳ノ公債  
掛ニ於テ其詐僞ニ罹リ資  
金及ヒ公債証書ヲ詐僞ノ  
該犯ニ下渡。仍ホ公債証  
書ハ該犯ヨリ他人ニ賣渡  
シ其賣渡ニ付テ公債掛ニ  
於テ名前替及ヒ掛リ官員  
關印等ノ式ヲ終テ現今買  
主ノ所有ニ存ス然ルニ其  
詐僞ノ委任狀ハ明治七年  
十二月第百三十七号布告  
ニ違ヒ規則ノ原紙ニアラ  
サルヲ以テ委任ノ証據ト  
スヘキノ効ナキ者ニ有之  
其他奉還主ヨリ受取方ヲ  
他人ニ托シタルノ憑據ト  
スヘキノ効無之又奉還主

罰則ノ事

(明治十三年十一月廿七日第四十七號布告ノ内)  
明治六年(三月)第百廿一號布告金札引換公  
債証書發行條例并改正追加ノ分共更ニ別冊  
ノ通改定候條此旨布告候事

改定金札引換公債條例

(該罰則ハ明治八年五月第九十五号布告)  
(改正新舊公債証書發行條例ニ準據ス)

○第二節 新舊公債証書發行條例罰則ノ

事

(明治八年五月廿五日第九十五號布告ノ内)

明治六年(三月)第百十五號及ヒ全七年(六月)

第六十六號布告新舊公債証書發行條例別冊

ノ通改定候條此旨布告候事

(改正)新舊公債証書發行條例

第十一條 新舊公債証書贗造等ノ處分

ヲ明ニス

第一節 何人ニ拘ハラス公債証書ヲ故ラニ

剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊

附スル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯スモ

ノアレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金

ヲ命スヘシ

但舊公債証書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去

リ殘餘ノ小札金額ニ依リテ計算シ罰金

ヲ當ルモノトス

ニ於テハ受取方ノ委任ヲ  
與ヘサルノ証據アリテ該  
犯既ニ伏罪ス因テ奉還主  
ハ素ヨリ下渡ヲ受ケサル  
モノニ付盜ニ依テ損害ヲ  
受ルノ理ナク到底官廳ノ  
損害ニ歸スヘク此追徴處  
分ニ際リ秩祿公債証書ノ  
買主ノ手ニ現在スルモ前  
願ノ如ク公債掛ノ式ヲ經  
タルモノニ付直ニ代金ノ  
償ナクシテ之レヲ追々難  
ク又該犯ノ資力限テ追徴  
メルモ儘々ニ公債証書  
代金ノ償ヒニ充ルニ足ラ  
ズ就テハ唯該犯ヨリノ追  
徴金ヲ事主ナル地方廳へ  
相渡シ右ノ公債証書ハ直  
チニ買入ヨリ退シ難キ旨  
ヲ其廳ニ通知シ置クニ止  
メ該公債証書ノ代金ヲ償  
テ買入ヨリ地方廳へ返戻  
ス、否ハ裁判ノ外トシテ

第十一條 公債証書發行條例ニ關スル罰則



閣キ得然哉  
又秩祿公債証書ノ如キハ  
尋常物品ニ異ナルヲ以テ  
到底其官廳ヨリハ家祿奉  
還主ヘ下渡サ、ルヲ得サ  
ル者ナルニ依リ裁判上ニ  
テハ現在スル所ノ買人ヨ  
リ退シテ事主ナル地方廳  
ニ還スヘキモノトシ而シ  
テ前ニ賣渡シ名前替ノ手  
續ト式ヲ其廳ニ於テ誤テ  
ナシ與ヘタルヲ以テ買代  
金ノ償ヒハ又其廳ヲシテ  
買人ヘ償ハシムル迄ノ處  
分ヲ盡スヘキモノニ候哉  
若シ其處分ヲ盡スモノト  
セハ地方廳ヲ裁判ニ加フ  
ル儀ニ付時宜ニ依リ此上  
當該官吏ヲ呼出シ尋問ニ  
及ヒ又ハ追徴ノ處分申渡  
サモナスヘキヲ以テ地方  
裁判所ノ權限ヲ踰越スル

第二節 何人ヲ論セス此公債証書ヲ贋造シ  
又ハ人ヲノ之レヲ模擬セシメ又ハ人ノ贋  
造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用セシ  
メ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲ  
シテ變換セシメ又ハ變換セシ者ト知テ之  
ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雛形等ヲ所  
持スルモノハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ  
○第三節 家祿引換公債証書發行條例廢  
止ノ事  
(明治八年八月二十四日第百三十號布告)  
明治七年三月第三十九號布告家祿引換公債  
証書發行條例自今相廢止候條左ノ二ヶ條ノ

ノ差間ハ有之間敷哉  
○指令  
(明治九年十二月九日司  
法省指令) 官廳ノ保証  
ヲ經テ賣買ノ式ヲナスニ  
依リ官廳其價ヲ償ハサレ  
ハ追徴スルヲ得ス且刑  
事ニ屬スルヲ以テ當該官  
吏ヲ呼出シ尋問ノ上追徴  
等ノ處分ヲ盡スヘキ  
○伺  
(明治八年六月廿九日石  
川縣伺)  
爰ニ甲乙ノ兩人二十五圓  
ツ、ノ公債証書ヲ所有シ  
其証書ニ記名ヲ誤寫シテ  
削去リ改書スルモノアリ  
甲ハ秩祿公債証書ナルヲ  
以テ明治七年第三十九號  
公布家祿引換公債証書發  
行條例第十八條ニ照シ其  
高十倍以上ニ相當乙ハ新

外諸般ノ手續總テ本年(五月)第九十五號布  
告新舊公債証書發行條例ノ通可相心得候事  
家祿引換公債証書發行條例(該罰例ハ總  
テ明治八年五月廿五日第九十五號布告新  
舊公債証書發行條例ニ從テ處分スヘキ事)  
○第四節 金祿公債証書發行條例罰則ノ  
事  
(明治九年八月五日第百八號布告ノ内)  
家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ  
給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ  
別紙條例ノ通公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候  
條此旨布告候事



公債証書ナルヲ以テ本年第九十五号公布改正新舊公債証書發行條例第十一條第一節ニ照シ其高十倍以下ノ罰金ニ相當然レハ乙ハ二百五十圓以下一錢マテ裁判官ノ意見ヲ以テ罰料ス甲ニ於テ御改正無之内ハ二百五十圓以上科セサルヲ得ス右ハ其犯情同ヲシテ罰金ニ至リ雲壤ノ懸隔有之テハ權衡甚ク不妥ニ存候間公債証書ニ秩祿ト新舊ノ區分有之趣意明了御垂示被下度

○指令

(明治九年二月十三日司法省指令)

明治八年第三百三十号布告

○伺

(明治九年二月十五日警

金祿公債証書發行條例

第七條 此公債証書發行ニ付テノ順序其外

トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債証書

發行條例ノ通りタルコト心得ヘシ

(該條例ニ關スル罰例等ハ明治八年五月廿

五日第九十五號布告新舊公債証書發行條

例ニ依テ處分スヘキ事)

○第五節 起業公債証書發行條例罰則ノ

事

(明治十一年五月五日大藏省甲第十三號布達ノ

内)

今般内國債募集ノ儀ニ付本年(四月)太政官

第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債証書發行

條例別冊ノ通相定メ施行セシメ候條此旨布

達候事

起業公債証書發行條例

第七條 証書贗造等ノ處分ヲ示ス

第一節 此公債証書(無記名記名トモ)ヲ私

ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ

糊附ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯

ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰

金ヲ命スヘシ

第二節 此証書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ贗造

セシメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造

視察伺) 乙公債証書ヲ以テ之レテ官ニ納レ抵當トス然ルチ甲(官員ニテ監守人ナリ)之レテ私借シテ乙ニ渡シ甲乙合シテ之ヲ私用ス乙又公商公買ニ依リ之ヲ丙ニ轉賣ス丙其情ヲ知ラスシテ又之ヲ丁ニ轉賣シ正贓現今丁ノ手ニ存在セリ乃チ公債証書ハ丙丁公商公買ニ由リ其讓リヲ受ケルト雖モ甲ノ私借シテ乙ニ渡スヤ已ニ其正ヲ失シ候モノナレハ警察上ニ於テ正贓現在スル所ニ從テ其轉賣ヲ差留メ置キ他日裁判所ノ處分ヲ可待哉又ハ勝手ニ爲買換候共不苦哉

○指令

(明治九年二月十八日司



法省指令)  
相當ノ手續ヲ公ケニ盡シ  
讓受ナスモノハ轉賣ヲ差  
留ムルコト不及事

○伺  
(明治九年一月廿七日廣  
島縣伺)

警ヘハ公債証書讓渡ノ際其証書甲ノ捺印スヘキヲ誤テ乙ノ捺印ス然ルニ其謬  
誤ヲ恐懼シ一時ノ痴情ヨリ猥リニ右捺印ヲ刪除シ其孔ニ類似スル紙ヲ糊付シ而シテ事  
情委曲自首スルモノアリ今之ヲ處斷スルニ公債証書發行條例第十一條云云其金高十倍  
以下ノ罰金ヲ命スルトアルニ依レハ凡ソ酌減スルモ金高九倍ヲ減シ一倍ヲ科スルヲ以  
テ減スルノ極トシ可然ヤ又ハ其一倍ノ十分一若クハ二十分一マテモ酌減シ可然哉右等  
ノ如キハ一時失錯ヲ恐怖セシ痴情ニ出ル迄ニテ聊奸詐難悔ノ情ナク加之事情ヲ首服ス  
ルモノニ付情狀ヲ酌量シ難犯律不應爲ノ輕重ヲ以テ論スルモノニハ無之哉

○指令

(明治九年二月十七日司法省指令)  
例ニ十倍以下トアルハ二倍或ハ二倍ノ十分一二十分一ヲ科スル等裁判官ノ見込ヲ以テ  
酌減シテ不苦事

○地券

○第十二章 地券規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 地券申受ケサル節ハ地所々有  
ノ權ナキ事

(明治八年六月十八日第百六號布告)

明治七年第百四號布告地所賣買代金受取證  
文有之共地券申受無之節ハ所有ノ權無之候  
條此旨布告候事

○第二節 家督相續等ニ由テ地所讓受ノ  
節地券書換手續ノ事

(明治八年十月九日第百五十三號布告)

家督相續或ハ贈遺等ニ由テ地所讓受候節地  
券書換手續左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 生存者ノ家督相續ニ由リ及ヒ總テ

(明治九年三月十五日地  
玉裁判所伺)

第一條 甲所有ノ田地チ

乙ニ沽ル諭ヘハ田五反

ヲ代價百圓ニ定メ甲乙

連印シテ地券書換願出

未タ券帖渡ヲサル内百

五十圓ニ賣與シタル

發覺ス因テ之ヲ審問ス

ルニ其五十圓ハ乙ヨリ

甲ノ窮乏ヲ憫ミ主意金

ト名目シテ贈リタル旨

申立ル斯ノ如キハ無罪

ニ歸スルヤ或ハ各不應

爲輕重ニ問ヒ聽贖シ更

ニ改正シテ地券書換願

ハセ可申哉

第二條 前條如シ不應爲

ニ問フキハ戶長情ヲ知

ラハ違式ニ科シ知ラサ

ル者ハ坐セスシテ可然

哉



○指令

(明治九年五月一日司法

省指令)

第一條 甲ノ窮乏ヲ憫ム

別ニ金ヲ贈ルル明白ナ

ルコト於テハ罪ノ問フハ

キナシ又地券ヲ書換ヘ

ルニ及ハス

第二條 前條指令ニ依テ

心得ヘシ

○同

(明治九年十二月十四日

神奈川縣令)

管下相州足柄下郡箱根驛

平民金澤藤二郎津田治郎

吉儀各養父死亡跡家督(

藤二郎七年二月治郎吉八

年三月)相續ニヨリ讓受

候地所地券書換ノ儀本年

十月ニ至リ出頭候ニ付事

實取糾候處右兩人儀ハ元

來赤貧ノモノニシテ出稼

ナ以テ活路ヲ經營スルニ

ヨリ相續後出稼ノカメ管

内外ニ漂往シ數月ヲ閱シ

本年ニ至リ歸郷セシ處死

亡跡地券書換ノ儀ニ付テ

ハ御布告相成居候趣初テ

確知シ驚愕ノ餘リ速カニ

出頭候旨申立右ハ昨八年

太政官第五百五十三号公布

ノ通期限内ニ出頭候ハ、

科金追徴ヲ要セサル處出

驛中公布ヲ弁知不致逆遷

延候旨申立候ヘ共設令管

外ニ漂留中ト雖モ熟知ス

ヘキ筈ノ處具陳ノ如ク貧

窶者ニシテ賤業ヲ以テ口

糊ヲ計候ヨリ不知法矩ニ

悖違シ必竟本人共ノ等開

ヨリ遷延ニ出ルト雖モ右

等ノ情狀實際無餘儀場合

ニ相聞全ク故造ノ所以ニ

ノ贈遺(親屬他人ニ拘ハラス生存及ヒ遺

囑ノ贈遺ヲ云フ)ニ由テ讓受ケタル地所

ハ其地券書換不申受者ハ本年六月第百六

號布告ニ據リ處分可致事

第二條 死亡者ノ跡家督相續ニ由テ讓受ケ

タル地所ハ其讓受ケタル日ヨリ滿六ヶ月

ヲ過キ地券書換ヲ不申受者ハ其地券一通

ニ付證印稅(地券書換證印稅)五倍ノ科金

取立地券書換可相渡事

○第三節 隱田切開切添地等處分方ノ舉

(明治九年五月十二日第六十七號布告)

隱田切開切添地等ノ儀ニ付テハ明治五年九

月大藏省第二百二十六号布達地券渡方規則中

第二十一條及ヒ明治六年九月第三百十五號

ヲ以テ及布告候趣モ有之候處更ニ左ノ通被

相定候條此旨布告候事

第一條 隱田切開切添地ノ此布告以前ニ係

ルモノ該府縣地租改正濟迄ニ申出ルルハ

其罪ヲ問ハス其者所有ニ可相定若シ之レ

ヲ申出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スル者

ハ律ニ照シ處分スヘシ

但此布告以後ニ係ルモノハ地租改正濟

ノ前後ヲ論セス渾テ律ニ照シ處分スヘ



無之分ハ科金ノ處分ヲ要  
セズ直ニ券狀書換授與不  
苦筋ニ候哉

○指令

明治九年十二月十日司  
法省指令  
同ノ趣ハ昨明治八年太政  
官第五百五十三号御布告ニ  
依リ科金ノ處分ニ及ツノ  
キ儀ト心得ヘシ但シ科金  
取立方ノ儀ハ裁判所ニ於  
テ處分スル儀ト心得ヘシ

○伺

明治九年十月九日茨城  
縣伺

第一條 死亡者ノ跡家督  
相續ニヨリ讓受タル地  
直ニ地券書換可申受ノ  
處在舊日月ヲ經ルノ間  
ニ於テ本人(死亡者ノ  
跡相續人)犯罪ノコト  
アリ其末懲役ニ處セラレ

第二條 廉落殘歩ハ此布告ノ前後ヲ論セス

該府縣地租改正濟迄ニ申出ルキハ其罪ヲ  
問ハス其者所有ニ相定ヘク若シ之レヲ申  
出スシテ改正濟後ニ至リ發覺スルモノハ  
律ニ照シ處分スヘシ

第三條 官簿ニ記載アル地并記載ナシト雖  
モ從來官山官林用地附屬地等ノ證アル地  
ヲ私ニ田畑宅地等ニ侵墾セシモノ此布告  
以前ニ係ルモノハ該府縣地租改正濟迄ニ  
申出ルキハ其罪ヲ問ハス其民有地トナシ  
差支ナキモノハ其者へ素地相當代價ヲ以  
テ可拂下其民有トナシ難キモノハ直チニ

返地セシメ事情ニヨリテハ更ニ借地差許  
ス儀モコレアルヘシ

第四條 前條侵墾地地租改正後ニ至リ發覺  
スルモノ及此布告以後ニ係ル侵墾地ハ渾  
テ律ニ照シ處分スヘシ

第五條 前條ノ地ハ舊藩縣ヨリ開墾願濟ノ  
分タリモ未タ地代金ヲ納メスシテ未着  
手ノモノハ直チニ返地セシメ其民有地ト  
シテ差支ナキモノハ更ニ相當代價ヲ以テ  
其者へ可拂下其地代金ヲ納メスモ已ニ着  
手スルモノハ直ニ其者ノ所有ト定ムヘシ  
第六條 凡テ民有ニアラサル地ヲ私ニ賣買

墾役中竟ニ滿六ヶ月ヲ  
經過役滿スチテ放免セ  
ラルハ、コ當リ則書換ヲ  
請願スル類有之依テ推  
算スルニ其墾役中ノ日  
月ヲ算入スレハ既ニ過  
シルト雖モ右服役ハ全  
本人ノ等閑ノヨリ出タ  
ルコトモ非ラサレハ該日  
數ハ書換限内ニ算入セ  
サル者ト相心得可然哉  
第二條 代替授與其外地  
券書換証印稅ノ儀ハ明  
治六年太政官第三百九  
十六号公布ノ通券面代  
價ニ拘ハラス券狀一枚  
ニ付五錢ツ、收入ノ筈  
ナレハ五倍科金ハ則ニ  
十五錢取立可然ノ處右  
印稅自今一錢ト相定候  
云々地租改正事務局本  
年甲第一号布達ニ付テ



ハ此達以後科金取立書換可相渡分ハ其地所讓受タル印稅更定ノ以前ニアルモ此節書替授與スルヲナシハ無論一錢ノ印稅五倍五錢ノ科金取立候事ト相心得可然ヤ

第三條 前條科金ハ罰則アルモノト異リタレハ書替ノ毎度地方廳ニテ直ニ取立候事ト相心得可然ヤ

第四條 前條科金地方廳ニテ取立候上ハ其人名等仕譯書及上納証書相添該金ハ爲換手形ヲ以テ月限御省へ相納候事ト相心得可然ヤ

○指令 (明治十年三月七日司法省指令)

第一條 伺ノ趣地券書替ヲ申出ルハ必シモ本人ニ限ルコト非ラス本人懲役ニ處セラレ自ラ申出ルコト能ハサルキハ代人ヲ以テ請願スヘキ儀ニ付服役ノ日數ハ書替限内ニ算入スル儀ト可心得事

第二條 伺之通

第三四條 明治六年太政官第二百八号御達ニ因リ裁判所ニ於テ處斷追徴スル儀ト可心得

○伺 (明治十二年八月日不分愛知縣伺)  
一村共有地券面記名号ノ儀ハ地租改正事務局別報第四十号岐阜縣伺御指令ノ趣モ有之村名ノミヲ記載候處或ハ其村都合ニヨリ總代人記名セシ分モ有之右様ノ分若記名人死亡シ跡總代ヲ撰定シ地券書換ヲ請願スルキ死亡者名前ノ儘在舊書替ヲ怠リ候節ト雖モ數人共有地トモ異リ候ニ付不問ニ差措キ可然ヤ將明治八年第百五十三号公布第三條ニ準據スヘキモノニ候ヤ若シ然ラハ滿六ヶ月ハ尋常家督相續ト一般記名者死亡後五十日翌日ヨリ起算候テ可然ヤ疑事ニ涉候ニ付一應相伺候條伺分ノ御指令有之度候也

○指令 (明治十二年八月日不分地租改正事務局指令)

伺ノ趣一村共有地ニ候上ハ券面記名ノ總代人變換スルモ所有主移轉ノ例ニ無之候條昨年當局乙第三号達離形ニ準シ券狀裏面へ其事由ヲ記シ單ニ其村持ト更正可相渡候事

○新聞 ○第一節 新聞紙條例ニ關スル罰則ノ事

○伺 (明治八年七月七日司法省伺)

新聞條例第十六條ニ許可ト稱スルハ上書建白ヲ受取タル院省使廳ノ許可ヲ

(明治八年六月二十八日第百一十一號布告ノ内)  
明治六年(十月)第三百五十二號ヲ以テ布告

第十三 新聞紙條例ニ關スル罰則



候哉又ハ上書建白ヲ捧ケ  
タハ院省使廳ノ許可ニ候  
ヤ但シ許可ヲ受ケタル新  
聞社ハ縱令ヒ讒謗ノ事ニ  
觸ルハト雖モ其罪ヲ問ハ  
ズ許可セシ官吏即チ其罪  
ニ坐ス儀ト相心得可然哉  
○指令

（明治八年七月十九日指  
令）

新聞條例第十六條院省使  
廳ノ許可ハ捧ケタルト受  
ケタルトチ分ツノ文ナシ  
是レ一般ニ許可ノ權チ有  
スルナリ但官廳ノ公文上  
伸チ除クノ外官吏タリモ  
其職務外ノ上書建白ハ平  
民ノ例ニ同シキヲ以テ必  
ズ之ヲ受ケタルノ官廳ヨ  
リ許可ヲ得ルヲ要スヘシ  
○同

（明治八年七月廿五日司  
法省令）

第五條 新聞紙條例第一  
條ノ註ニ凡ソ條例ニ違  
フ者ハ府縣廳ヨリ地方  
ノ法司ニ付シ罪ヲ論ス  
トアリ府縣廳ノミナ職  
セテ檢官ヲ載セスト雖  
モ檢官タル者ハ素ヨリ  
其處分致シ可然哉

第六條 全條例第七條持  
主若シハ社主情ヲ知ル  
者ハ編輯署名ノ人ト同  
シシ論ストアリ右編輯  
署名ノ人トハ第六條ニ  
之レ有ル編輯人編輯人  
長チ指シ候哉

第七條 全條例第十四條  
成法ヲ誹毀シテ國民法  
ニ違フノ義ヲ亂リ云々  
右ハ成法ヲ誹毀スレモ  
國民法ニ違フノ義ヲ亂  
ラズンハ其罪ヲ問ハズ

候新聞紙條目被廢更ニ別冊ノ通被定候條此  
旨布告候事

新聞紙條例

第一條 凡ソ新聞紙及時々ニ刷出スル雜誌  
雜報ヲ發行セントスル者ハ持主若クハ社  
主ヨリ其府縣廳ヲ經由シテ願書ヲ內務省  
ニ捧ケ允准ヲ得ヘシ允准ヲ得スシテ發行  
スル者ハ法司ニ付シ罪ヲ論シ（凡ソ條例  
ニ違フ者ハ府縣廳ヨリ地方ノ法司ニ付シ  
罪ヲ論ス）發行ヲ禁止シ持主若クハ社主  
及ヒ編輯人印刷人各々罰金百圓ヲ科ス其  
詐テ官准ノ名ヲ冒ス者ハ各々罰金百圓以

上二百圓以下ヲ科シ更ニ印刷器ヲ没入ス

第二條 願書ニ舉クヘキ日左ノ如シ 一紙

若クハ書ノ題號 二刷行ノ定期毎日每週

毎月或ハ無定期（以上或ハ無定期）ノ類 三

持主ノ姓名住所○會社ナレハ差金人ヲ除

クノ外社主一人若クハ數人ノ姓名住所

四編輯人ノ姓名住所 五印刷人ノ姓名住

所○編輯人自ラ印刷ヲ兼ル者ハ其由ヲ着

ス

右ノ五目中詐謬アルモノハ發行ヲ禁止若

クハ停止シ（時日ヲ限り發行ヲ止ムル者

ヲ停止トス）仍ホ願人ニ向テ十圓以上百



シテ可然ヤ又ハ成法ヲ  
 誹毀スレハ自ラ國民法  
 ニ違フノ義ヲ亂ル者ニ  
 付直チニ糾治イダシ可  
 然哉

第八條 全條例第十五條  
 裁判所ノ斷獄下調ニ係  
 リ未タ公判ニ付セサル  
 者ヲ載スルコトヲ得ス云  
 ヲトアリ然レハ警察官  
 等ニテ捕縛後未タ裁判  
 所ニ付セサル前其情狀  
 ナ記載スルコトハ素ヨリ  
 不相成儀ト相心得可然  
 哉

第九條 全條例中總テ上  
 伸ノ難許可ヲ經スシテ  
 載スルコトヲ得サルノ明  
 文無之ニ付不問ニ措キ  
 可然哉又ハ第十六條ニ  
 據リ上書建白ニ全條處  
 分致シ可然哉

圓以下ノ罰金ヲ科ス

第三條 編輯人若クハ編輯人長退任シ若ク  
 ハ死去スルキハ假ニ編輯人若クハ編輯人  
 長ヲ定メ刷行スルコトヲ得但シ遅クトモ十  
 五日内ニ(退任死去ノ翌日ヨリ起算ス)新  
 定モル編輯人若クハ編輯人長ノ姓名住所  
 ナ持主若クハ社主ヨリ其府縣廳ニ届ケ出  
 ヘシ若シ期限内ニ届ケ出サルキハ發行ヲ停  
 止シ持主若クハ社主罰金百圓ヲ科ス其他  
 第三條願書ニ載スヘキノ日ニ於テ一ノ變  
 更アルキハ遅クトモ十五日内ニ持主若ク  
 ハ社主及ヒ編輯人若クハ編輯人長ノ連名

○指令  
 (明治八年九月十三日指  
 令)

第五條第六條 伺ノ通  
 第七條 國民法ニ違フノ  
 義ヲ亂ルノ意ヲ以テ直  
 的ニ成法ヲ誹毀スル者  
 此條ニ當ル

第八條 現行事犯ノ情狀  
 ナ記スルハ固ヨリ妨ケ  
 サレトモ下調ハ秘密ニ屬  
 スルヲ以テ記載スルコ  
 トヲ許サハル事

第九條 公文上申ト上書  
 建白トハ其類ヲ同フセ  
 ス先般讒謗律ニ付伺面  
 へ指令ノ通可相心得事

○伺  
 (明治九年一月十七日東  
 京裁判所伺)  
 刑事處斷既ニ公判ニ附シ  
 タル後ハ新聞紙ニ掲載ス

ナ以テ届ケ出ヘシ若シ期限内ニ届ケ出テサ  
 ルキハ持主若クハ社主及ヒ編輯人若クハ  
 編輯人長各々罰金百圓ヲ科ス

第六條 每紙每卷ノ尾ニ編輯人印刷人名ヲ  
 署シ編輯人數人アルモノハ編輯人長名ヲ  
 署シ編輯人若クハ編輯人長疾病事故アル  
 キハ代理人ヲ定メ其名ヲ署スヘシ若シ名  
 ナ署セサルキハ編輯人若クハ編輯人長若  
 クハ代理人罰金百圓以上五百圓以下ヲ科  
 シ印刷人罰金百圓ヲ科ス

紙中若クハ卷中載スル所ノ事ニ付テハ紙  
 尾署名ノ編輯人若クハ編輯人長一切責ニ

第十三 新聞紙條例ニ關スル罰則



ルヲ管テ准許ニ及ヒタリ  
然レモ罪犯夥黨等遐方ニ  
在テ未ダ捕ニ就カサルモ  
ノアリ同類處刑ヲ受ルチ  
聞キ一時戒心ヲ生シ晦跡  
遁逃捕縛ノ妨コナルモノ  
及ヒ其一時ノ失錯ニ出ル  
モノ等其罪名ヲ天下ニ流  
布スルハ却テ悛改自新ノ  
途ヲ塞クニ相當リ又ハ男  
女ノ間風儀ニ關涉シ西洋  
各國ニテモ裁判傍聽ヲ禁  
スル事件ノ如キ凡ソ世上  
ニ公布シテ事ニ益ナクシ  
テ害アルト見込件々ハ姑  
ク係リ裁判官ノ見込ヲ以  
テ新聞掲載ヲ禁止致度  
○指令  
（明治九年二月二日司法  
省指令）  
同ノ通

○同

（明治十年三月六日東京  
裁判所檢事局伺）  
新聞紙及ヒ雜誌雜報中律  
例抵觸ノ虞有之指名サレ  
タル官民ヨリ該記者ニ向  
テ改正ヲ求ムルニ記者ハ  
則チ新聞條例第十一條ニ  
從ヒ正誤ヲ刷出ス然ル後  
右指名ノモノニ於テ更ニ  
全事件ヲ以テ告訴告發ス  
ルトモ糾治セサル儘ト相  
心得可然ヤ  
○指令  
（明治十年三月十四日司  
法省指令）  
同ノ趣指名セラレタル者ノ  
求ニ應ジ次号ニ正誤ヲ出  
スト雖モ猶被害者ヨリ讒  
謗ノ訴アルトキハ其讒謗  
ノ罪ハ不問ニ置クヘカラ  
サル儘ト心得ヘシ  
○伺

任スヘシ

第七條 紙中若クハ卷中載スル所第十二條  
以下ノ禁ヲ犯シ若クハ讒謗律ヲ犯シタル  
キハ編輯人首ヲ以テ論シ筆者ハ從テ以テ  
論ス持主若クハ社主情ヲ知ル者ハ編輯署  
名ノ人ト同シク論ス

第八條 筆者變名ヲ用ヒタルキハ禁獄三十  
日罰金十圓ヲ科ス他人ノ名ヲ假托スル者  
ハ禁獄七十日罰金二十圓ヲ科ス（二罰併  
セ科シ或ハ偏ヘニ一罰ヲ科ス以下倣ク）

第九條 外國新聞紙及ヒ雜誌雜報ヲ翻譯シ  
テ記入スル者ハ尋常ノ瑣事ヲ除クノ外譯

者名ヲ署シ其事第十二條以下ノ禁ヲ犯シ  
若クハ讒謗律ヲ犯シタルキハ譯者其責ニ  
任スヘキト第七條筆者從テ以テ論スルノ  
例ニ從ル

第十條 事犯編輯人ニ止リ禁獄ヲ命シタル  
キハ特ニ發行ヲ停止シタルキヲ除クノ外  
持主若クハ社主ヨリ假ニ編輯人ヲ定メ若  
クハ新タニ編輯人ヲ定メテ仍ホ發行スル  
コトヲ得其編輯人ヲ定メスシテ發行スル者  
ハ發行ヲ停止スヘシ

第十一條 新聞紙若クハ雜誌雜報ニ指名サ  
レタル官署會社若クハ人民ヨリ弁白書若



(明治十年四月日不分京都裁判所同)

新聞紙條例第八條第二項  
筆者變名ヲ用ヒタルハ  
禁獄三十日云々トアリ右  
ハ其事件假令第十二條以  
下ノ禁ニ觸レズ事ニ害ナ  
シト雖也變名ヲ用フルハ  
直ニ此項ニ依リ處罰スル  
儀ニ候ヤ將ク其害ナキモ  
ノハ不問ニ措キ可然ヤ若  
シ害ノ有無ニ論ナク處罰  
スル儀ニ候ハ、止ク其一  
罰ヲ科スルモ情輕クシテ  
仍ホ酌過ヲ覺ユルモノハ  
一罰ノ内ヨリ輕減ノ處分  
ニ及ヒ不苦候ヤ

○指令

(明治十年五月十二日司  
法省指令)

變名ヲ用ヒタルハ害ノ  
有無ニ論ナク新聞紙條例

第八條第二項ニ依テ處罰  
ス酌量輕減ハ裁判官ノ意  
見ニ任スル儀ト心得ヘシ

○伺

(明治八年十二月廿八日  
東京裁判所伺)

讒謗律及ヒ新聞條例犯觸  
ノ者推問ノ上罰金或ハ禁  
獄罰金ヲ並セ科スルニ無  
力ニシテ右金額徴スル能  
ハサルハ如何處分シ可  
然ヤ

○指令

(明治九年四月十五日司  
法省指令)

無力ニシテ罰金ヲ徴スル  
一能ハサル者ハ身代限處  
分ニ及フヘシ

判ニ付セサル者ヲ載スルコトヲ得ス及ヒ裁判官審判ノ議事ヲ載

スルコトヲ得ス犯スモノハ禁獄一月以上一年以下罰金百圓以上

第十三條 新聞紙條例ニ關スル罰則

クハ改正ヲ求ムルノ書ヲ寄スル中ハ其書  
ヲ受取リシヨリ直チニ其次號ニ刷出スヘ  
シ違フ者ハ編輯人罰金十圓以上百圓以下  
ヲ科ス

第十二條 新聞紙若クハ雜誌雜報ニ於テ人  
ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者ハ犯ス者  
ト全罪其教唆ニ止マルモノハ禁獄五日以  
上三年以下罰金十圓以上五百圓以下ヲ科  
ス

其教唆シテ兇衆ヲ煽起シ或ハ官ニ強逼セ  
シメタル者ハ犯ス者ハ首ト同シテ論ス其  
教唆ニ止マルモノハ罪前ニ同シ

第十三條 政府ヲ變壞シ國家ヲ顛覆スルノ  
論ヲ載セ騷亂ヲ煽起セントスルハ禁獄一  
年以上三年ニ至ル迄ヲ科ス

其實犯ニ至ルモノハ首犯ト同シク論ス  
第十四條 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ違フノ

義ヲ亂リ及ヒ顯ハニ刑律ニ觸レタルノ罪  
犯ヲ曲庇スルノ論ヲナスモノハ禁獄一月  
以上一年以下罰金五圓以上百圓以下ヲ科  
ス

第十五條 裁判所ノ斷獄下調ニ係リ未タ公



五百圓以下ヲ科ス

第十五條 院省使廳ノ許可ヲ經スシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得  
ス犯スモノハ罰前條ニ同シ

○第二節 新聞紙雜誌雜報ノ國安ヲ妨害スルト認ムルハ  
禁止スヘキ事

(明治十三年十月十二日第四十五號布告)

明治九年七月第九十八號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

己ニ許可ヲ得タル新聞紙雜誌雜報國安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂  
スルト認メタルトキハ内務卿ニ於テ其發行ヲ禁止シ又ハ停止ス  
ヘシ

○讒謗

(明治十年九月十二日山梨縣伺)

○第十四章 讒謗律ノ事

(明治八年六月二十八日第百十號布告)

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽

ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ  
讒毀トス人ノ行事ヲ舉クルニアラスシテ  
惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗  
トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀  
シ若クハ發賣シ若クハ貼示シテ人ヲ讒毀  
シ若クハ誹謗スルモノハ下ノ條例ニ從テ  
罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ

涉ルモノハ禁獄三月以上三年以下罰金五  
十圓以上千圓以下(二罰併セ科シ或ハ偏  
ヘニ一罰ヲ科ス以下之ニ倣ヘ)

凡ソ人民ヨリ官廳ニ差出  
ス願書若クハ相互ノ私信  
中ニ官吏又ハ官吏ニアラ  
サル者ノ惡事ヲ記載スル  
ニ(其願書ノ本旨ハ別ニ  
在ル所アリテ其餘波ニ言  
及セシ者)其事記載セラ  
レタル者ノ聞ク所トナリ  
記載セシ惡事ハ至ク無實  
ニ屬スルヲ以テ其誣謗ノ  
次第取札シテ受ケ度旨訴  
出ルモノアリ右ハ人ノ惡  
事ヲ摘發公布スルニハ無  
之トモ其事必ス他人ニ傳  
播スルコトナキヲ保シ難ケ  
レハ幾分カ他人ノ榮譽ヲ  
損害スルニ相當リ且甲ノ  
所爲情理ニ於テナスヘカ  
ラサル事ニ付其記載セシ  
事柄誣謗ノ甚クシキニ係  
ル分ハ夫々取調其筋ヲ求  
刑候テ可然哉



○指令  
（明治十年九月廿五日司  
法省指令）  
同ノ趣誣謗ノ甚タシキニ  
係ルモノハ同出ヘキ儀ト  
心得ヘシ

○布達  
（明治十二年五月七日司  
法省丙第六号布達）  
誣謗律疑義ニ付東京裁判  
所詰檢事大塚盛徳ヨリ左  
ノ通同出候ニ付朱書ノ通  
指令候條爲心得此旨相達  
候事

檢事大塚盛徳伺（明治  
十二年四月十七日）  
芝區通新町十四番地東京  
府華族久留島通簡ヨリ愛  
宕下町二丁目二番地柳澤  
堂山外一名ニ係リ五人職  
苦魔物語ト題スル小説ヲ  
著作シ事實相違ノ儀ヲ牽

強漫記シ以テ先代通簡ヲ  
誣毀シ併セテ相續人タル  
通簡ノ榮譽ヲモ貶害セラ  
レタル廉ヲ以テ別紙（略  
之）ノ通告訴致シ候處我  
現行誣謗律中死者ヲ誣謗  
スル者ノ罰條及ヒ其相續  
人死者ノタメニ告訴スル  
ヲ得ルノ明文無之候コ付  
如此告訴ヲ受クルコ方リ  
取捨ノ間疑議ナキ能ハス  
ト雖モ今試ミコ日本刑法  
草案ヲ按スルニ第四百條  
ニ云ク死者ニ對シ誣毀ヲ  
ナシタル者ハ其事故サテ  
コ誣罔ニ出テタルキニ非  
ラサレハ誣毀ノ刑ヲ科セ  
ス其第四百三條コハ此節  
ニ記載シタル誣毀ノ罪ハ  
被害者又ハ死者ノ親屬ノ  
告發ヲ待テ其罪ヲ論スト  
有之又曾テ聞知スル處ニ

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ルモノハ禁獄十五

日以上二年半以下罰金十五圓以上七百圓  
以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ誣毀スルモノハ

禁獄十日以上二年以下罰金十圓以上五百  
圓以下誹謗スルモノハ禁獄五日以上一年  
以下罰金五圓以上三百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論ヒス誣毀

スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五  
圓以上三百圓以下誹謗スルモノハ罰金三  
圓以上百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪

犯ヲ告發シ若クハ證スル者ハ第一條ノ例  
ニアラス其ノ故造誣告シタルモノハ誣告  
律ニ依ル

第七條 若シ誣毀ヲ受クルノ事刑法ニ觸ル

者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒  
毀スルモノヨリ檢官若クハ法官ニ告發シ  
タルキハ讒毀ノ罪ヲ治ムルコヲ中止シ以  
テ事案ノ決ヲ俟テ其ノ被告人罪ニ坐スル  
キハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レヌシテ單ヘニ人ノ榮譽  
ヲ害スルモノハ讒毀スルノ後官ニ告發ス  
ト雖モ仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム



依ルニ佛蘭西國ニ於テモ法律上死者ニ對シ讒謗スル者ヲ罰スルノ明文無之ト雖モ千八百六十七年五月一日大審院總會議ニ因

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ルモノハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

テ死者ニ及フヘキヲ決定シ爾來實際ニ在テハ其相續人ヨリ告訴スルモ其故意ニ出テタルト否トナ問ハス總テ讒謗ノ罪ヲ治スルト以上二箇ノ法律寬嚴稍同シカラスト雖モ其死者ニ對シ讒毀スル者ヲ罰スルニ至テハ則一ナリトス又榮譽上貴重ノ點ト人情ノ如何トニ因テ之レヲ觀ルモ原ト死者ニ及フヘキハ是レ法理ニ適フモノト思考セリ若シ我現行讒謗律ハ獨リ生存者自告ノ榮譽ヲ保護スルニ止マリ死者ノ榮譽ニ及ハス又其相續人死者ノタメニ告訴スルヲ許サ、ルノ法旨ナリトセハ死者自ラ告クヘキナク子孫タメニ其冤ヲ雪クヘキナシトス嗚呼死者何ソ獨リ不幸ナル又彼ノ子孫タル者心情果シテ如何ソヤ如此ハ彼是權衡平ヲ失シ頗ル人情ニ背キ法理ニ違フノ疑ナキヲ得テ因テ熟考スルニ我現行讒謗律中死者ノ榮譽ニ及ボスノ明文ナシト雖モ又死者ニ及ボサ、ルノ明文モ無之上ハ死者ニ對シ讒毀誹謗スルモノ其相續人若クハ親屬ヨリ告訴スルモ亦該律第五條及ヒ第八條ノ法旨ヲ擴充シ生存者ヲ讒謗スル者ト同シク處分スルモ亦敢テ妨クナカル可シトス若又刑法草案ノ如ク死者ニ對スルモノハ故サテニ誣罔ニ出タル者ニ限リ其刑ヲ科スルトナスモ本件ノ如キハ事實相違ノ儀ヲ牽強漫記シ篇ヲ逐フテ公布スルニ至テハ決シテ誤聞訛傳ニ係ルニアラス是レ全ク故意ニ出テタルトナスモ敢テ不當ト云フヘカラス以上陳述スル通本件ノ如キモノ到底不問ニ付スヘキ者ニ有之間敷ト思考候ヘ共右ハ全ク法律上解釋ノ如何ニ係ルヲ以テ爲念別紙告訴狀及現今(略之)相添此

段相伺候條至急御指令ヲ仰キ候也

但本文讒謗ノ罪ヲ科スルニ付テハ諸新聞紙等ノ如キ今日發行明日ハ頓ニ反古ニ屬スル者ト事替ハリ荷モ一書籍ニテ永ク人目ニ觸ル、モノニ付其刻版及ヒ現在ノ印本ハ勾狀致スヘキ儀ト相心得可然ヤ

(明治十二年五月五日司法省指令) 伺ノ通

○伺

(明治十年十二月山梨縣伺)

讒謗律第七條ニ若シ讒毀ヲ受クルコト刑法ニ觸ル、モノ云々トアリ若シ官吏其職務上ニ關スル事件ヲ讒毀セラレタルハ以テ其罪ヲ治セシメテ告訴スルニ當リ其事果シテ職務上ノ失錯過誤ニ出懲戒ノ處分ヲ受クルニ至ルハ刑法ニ觸ル、モノト等敷讒毀者ノ罪ヲ論セスシテ可然ヤ

○指令

(明治十二年十二月十三日司法省指令伺)

伺ノ趣懲戒例ハ刑法ト同視スヘカラス讒毀ノ罪ハ相當ノ處分ニ及フ儀ト可心得

○伺

(明治八年十一月十八日京都裁判所伺)

第一條 讒毀誹謗スルモノ若シ一家人ノ共犯ニ係ルト雖モ各自ニ罪ヲ科スヘキヤ將タ共犯ノ例ニ依ルヘキヤ

第二條 讒毀誹謗スルモノハ自首スト雖モ減免ヲ與ヘサル方可然ヤ

第三條 讒謗律中ノ禁獄ハ平民ノ男女ト雖モ閏刑ノ禁獄ト區別無之ヤ果シテ然ラハ改



定例第廿一條凡他地方ニ在リ(中略)保人ニ責付テ郷里歸到ノ日ヨリ日數ヲ起算  
ス云々ヲ援引致シ可然ヤ

第四條 區裁判所ニテハ讒謗ノ罰金ヲ科スルハ一百圓以上ト雖直ニ處分シ其禁獄  
一年以上ニ處スヘキモノハ斷決スルヲ得サル儀ト相心得可然ヤ

○指令

(明治九年二月三日司法省指令)

第一條 一家共犯例ニ依リ處分スヘシ

第二條 第三條 同之通

第四條 當分ノ内其裁判所ニテ處分致スヘシ

○出版

○伺

(明治九年七月六日東京府伺)

都テ活版印刷ヲ以テ渡世トナスモノハ人ノ依頼ニ應スル者ニ付其圖書若シ條例ニ抵觸等ノアルモ其責依頼スルモノニ止リ印刷人ニハ關係無之ヤ

(明治九年七月十日内務省指令)

○第十五章

出版條例ニ關スル罰則ノ事

(明治八年九月三日第百三十五號布告ノ内)

明治五年(正月)文部省布達出版條例相廢シ

更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

出版條例罰則

第一條 内務省ヘ届ケヌシテ圖書ヲ出版シ

省指令

活版營業ノモノ他人ノ依頼ニ應ジ印刷シ若シ出版條例ニ抵觸スルモ印刷人犯情ヲ知ラサルモノハ其責出版人ニ止ル尤モ犯情ヲ知ルモノハ罰則第七條第二款ノ通可相心得事

○伺

(明治十年十二月二十八日横濱裁判所伺)

爰ニ圖書ヲ著作シ會テ出版免許ヲ受ケタル後之レヲ他人ニ販賣セシテ詐テ己レノ所有トシ尙ホ版權免許ヲ得タルモノ出版條例罰則中正條無之已ニ正條無之上ハ其情狀惡ムヘキモ不問ニ置テ可ナラシカ其例規ノ不備不足ナルヲ以テ定例ニヨリ處斷スルハ允當ナラザル様思

及ヒ版權免許ヲ得ヌシテ免許ノ名ヲ冒ス

モノ若クハ納本セス及ヒ免許料ヲ出サス

シテ發賣スル者ハ其刻版印本及ヒ賣得金ヲ沒收ス

第二條 凡偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ

繪圖ノ模様ヲ少變シ若クハ少加シテ其表

題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ侵シテ出

版スルモノハ罰金二十圓以上三百圓以下

ヲ科シ其刻版印本及ヒ賣得金ハ沒收シテ

第三條 第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タ

ルヲ知テ之ヲ發賣スルモノハ罰金五圓



考致シ候條相伺申候

○指令

(明治十一年二月七日司  
法省指令)  
伺ノ趣出版條例罰則中明  
條ナシト雖モ其情狀惡ム  
ハシテ不問ニ措クヘカ  
ラサルモノト見込ムトキ  
ハ刑律ニ問擬スルモ妨ケ  
ナキ儀ト心得ヘシ

○伺

(明治九年五月十七日東  
京裁判所檢事局伺)  
當府下第五大區一小區瓦  
町一番地菅谷藤次郎販賣  
候手拭曆出版條例ニ抵觸  
スルモノニ付相當ノ處分  
可致旨本月十三日御達有  
之候處手拭へ略曆染入候  
儀ハ出版條例ヲ以テ論ス  
ヘキ品ニ無之様相考スレ

以上百圓以下ヲ科ス其二條ヲ犯スノ圖書

タルヲ知テ發賣スルモノハ現存ノ圖書

及ヒ賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス

第四條 無名若クハ版主ノ住所ヲ記サ、ル

ヲ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スルモノ并ニ

變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出

版シ若クハ情ヲ知テ發賣スルモノハ禁獄

十日以上六月以下ヲ科ス

但シ沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條 凡ソ著譯ノ圖書讒謗律及ヒ新聞紙

條例第十二條以下ヲ犯スモノハ著譯者其

罪ニ坐ス

但シ著譯者ハ首ヲ以テ論シ出版者ハ從

ヲ以テ論ス

第六條 淫褻俗ヲ亂ルノ圖書(小説歌謠彫畫ノ

ル者ハ)著譯シテ出版スルモノハ禁獄三

十日以上一年以下罰金三圓以上百圓以下

ヲ科ス

第七條 法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻

版及ヒ現存ノ印本ヲ勾取セシメ論決スル

ニ至テ官ニ沒ス

活版ヲ用フルモノニシテ出版人自ラ印刷

ヲ管スル者若クハ付スル處ノ印刷人犯情

ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

(明治十年八月十日島根  
縣伺)  
爰ニ明治十丁丑歲諸作時  
附時早覺日誌ト題シタル  
小冊子ヲ賣ルモノアリ開  
テ之ヲ閱スルニ純乎タル

○伺

第十五 出版條例ニ關スル罰則

然レハ弘曆ノ藤ヲ以テ論  
スヘキモノ乎ト考ラレ候  
得共手拭ノ用タルヤ元來  
弘曆ノ效ヲナスモノニア  
ラス依テ未刑スヘキモノ  
ニ無之ト相見込候ヘ共御  
達ノ末ニ付一應相伺候也  
○指令  
(明治九年五月廿九日司  
法省指令)  
伺ノ趣手拭曆ハ曆書ト性  
質ヲ異ニスト雖モ曆ノ效  
用ヲ兼有シ版權ヲ侵害ス  
ルモノニ付仍ホ糺治可致



陰陽對比曆ニシテ徒ニ標  
題ヲ異ニスルノミ如此モ  
ノハ曆ヲ賣ルモノヲ以テ  
論シ印紙貼附ナキハ違則  
トナシ處分可致ヤ及ハ標  
目ニ據リ曆トナサスシテ  
可然ヤ

○指令  
（明治十年九月三日司法  
省指令）

情ヲ知テ偽版ノ曆ヲ發賣  
スルモノハ出版條例罰則  
第三條ニ依リ處分スル儀  
ト心得ヘシ

○烟草

（明治九年二月二十二日  
節磨縣伺）

第一條 明治八年第二百  
五号御布告烟草印紙貼  
用規則第二則第四條改  
正烟草印紙貼用方云々  
全面ノ中心ヨリ端ニカ

第八條 既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ  
上犯則ニ涉ルモノハ仍ホ本條ニ依リ罪ヲ  
科ス

條例第四條 草稿又ハ納本ヲ檢査シテ世  
治ニ害アルモノト認ムル中ハ其出版又ハ  
販賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルヲアル  
ヘシ

○第十六章 烟草稅則ニ關スル罰則ノ事  
○第一節 烟草稅則罰則ノ事  
（明治八年十月四日第百五十號布告ノ内）  
烟草課稅ノ儀本年（二月）第二十八號ヲ以テ  
布告ニ及ヒ置候處右稅則別紙ノ通相定來ル

明治九年一月一日ヨリ施行候事

第三則 賞罰例

第一條 卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候モ  
ノハ一ケ年營業稅ノ七倍科料可申付事

第二條 卸賣營業鑑札ヲ借受ケ營業致候モ  
ノ前條全様ノ科料申付ヘシ貸渡シ候モノ  
ハ其鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ五倍科料  
可申付事

第三條 小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者  
ハ一ケ年營業稅ノ五倍科料可申付事

第四條 小賣營業鑑札ヲ借受營業致候モノ  
ハ前條全様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其

ケ實印或ハ仕切印ヲ押  
スヘシト有之即剝取再  
用ヲ警ムルニ似タリト  
雖モ其賞罰例中式ノ如  
ク押印セサル者罰則無  
之縱令實印仕切印ヲ以  
テ押捺セサルモ處罰ニ  
及ハス可然ヤ

第二條 賞罰例第七條烟  
草印紙ヲ用ユヘキ製造  
烟草ニ印紙ヲ貼用セス  
自用ノ人ヘ賣出スモノ  
云々トアリ買取者ノ罰  
則見ヘス自用ノモノ無  
印紙製造烟草ヲ買取ス  
ルモ罪無之候ヤ

第三條 爰ニ卸賣營業鑑  
札ヲ受ケス又規則ノ印  
紙ヲ貼用セス製造烟草  
若干右鑑札所持ノモノ  
ヘ賣買スルニ他人ノヲ  
知見シ告訴セント欲シ

第十六 烟草稅則ニ關スル罰則



即チ賣買者ヲ詰問スルニ果シ然リ其犯則八云フ已ニ規則ヲ犯スト雖モ現物尙ホ存ス今直ニ取歸シ更ニ鑑札ヲ受ケ印紙ヲ貼附シ然後賣買ヲナスヘシト是ニ於テ先キノ賣買ヲ解キタルニ他人ハ則チ之ヲ告訴ス官之ヲ審問スルニ果シ前顯ノ通りダラハ賣買者ニ於テ一旦犯則チナシ他ノ告發ヲ經ルト雖モ已ニ其非ヲ覺リ規則ニ循フヲ以テ無罪トナシ告訴人へ賞罰例第十二條ノ賞金ヲ給與シ難キ乎又ハ他ノ耳目ニ觸レ詰問ニ係ル上ハ仍ホ犯則チ以テ論シ告訴人へハ例ニ依リ賞金給與シ可然哉

鑑札取上ケ一ケ年營業稅ノ三倍科料可申付事

第五條 仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草買受候カ又ハ右所持致サ、ルモノ

へ無印紙製造煙草ヲ賣渡スモノハ各脫稅

高ノ二十倍ツ、科料可申付事

第六條 仕入鑑札借受候者并貸渡シ候者ハ

其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍ツ

、科料可申付事

第七條 煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印

紙ヲ貼用セス自用ノ人へ賣出ス者ハ脫稅

高ノ二十倍科料可申付事

第八條 煙草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ

減稅高ノ十倍科料可申付事

第九條 官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ煙草印

紙賣捌致スモノハ其品取上ケ既ニ賣捌タ

ル印紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ

者ハ其品取上ケ印紙代ノ五十倍科料可申

付事

第十條 一旦相用ヒタル煙草印紙ヲ剝取り

再用スルモノ或ハ之ヲ賣買スル者ハ六十

圓以下ノ科料可申付事

第十一條 煙草印紙ヲ贋造スルモノ又贋造

セシ品ト知テ之ヲ賣買スルモノハ都テ九

○指令  
 (明治九年三月九日法司省指令)  
 第一條 布令ニ違フヲ以テ情ヲ量リ違令輕重ニ問ヒ贖ヲ聽ス  
 第二條 伺ノ通  
 第三條 未タ官ニ發セスト雖モ一旦詰問ヲ受ル上ハ罰例ニ照シ處分スヘシ  
 ○伺  
 (明治十一年二月十五日金澤裁判所伺)  
 煙草稅則第一則但書(並ニ葉煙草ノ儘取扱ヒ候者)ノ十二字明治八年第百六十五号ヲ以テ刪除相成候以後ハ葉煙草ト雖モ耕作人ニアラスノ無鑑札營業(仕入卸賣又ハ小賣)スル者ハ製造煙草之犯則者ト



同様罰則ニ照シ處分スル儀ト心得可然ヤ  
 爰ニ烟草稅則ヲ犯スモノアリ某甲ハ出賣鑑札乙某ヨリ借受烟草店頭ニ陳列シ專ラ小賣又出賣ス丙某モ又出賣鑑札乙某ヨリ借受烟草店頭ニ陳列セテ出賣ノミヲ專トシ偶他人ノ需要ニ應ジ二三包ヲ行李又ハ荷擔スル箱ヨリ出シ宅内ニ於テ賣渡ス然レニ此甲丙テ一概ニ小賣營業ナシタル者トシ罰例ニ照ストキハ科金二十六圓ノ多ニ及ヘリ前陳甲丙ノ如キ情狀懸絶之ヲ同一ノ處分ニ及フハ甚タ穩當ヲ得サルニ似タリ依テ右丙ノ如キハ單ニ罰科ノ定規アルモノト雖モ裁判官ノ見込ヲ以テ酌量輕減可然ヤ

十圓以下ノ科料可申付事

○第二節 烟草稅則罰則中へ追加ノ事

(明治九年四月廿六日第五十九號布告)

明治八年(十月)第百五十號布告烟草稅則第一則并ニ第三則へ左ノ通追加候條此旨布告候事

第三則 賞罰例

第十三條 出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受并貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣ヲナスモノハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

○指令

(明治十一年三月一日司法省指令)

總テ伺ノ通

○伺

(明治十年十月五日宮城縣伺)

自用入ノ購求ニ宛候製造煙草ハ前以印紙貼用可致置旨本年二月太政官第十四号ヲ以テ公布相成候處明治八年第百五号公布ニ貼用印紙全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印或ハ仕切印ヲ押ヘキ云々有之有ハ該商店頭ニ據置候自用購求ニ充ツル煙草へ印紙貼用候上ハ必ス押印可致置成規ニ候マ果シテ然ラハ印紙貼用スルモ押印無之煙草見當候ハ、印紙不貼用ト一般ニ犯則ト見做シ其筋ニ同証告カ抑押印ノ趣意タル印紙再用ヲ豫防スルニ似タリ已ニ印紙貼用ノ上印稅規避ノ念慮無之ハ明瞭ニ付賣渡ノ際可消印旨相警シメ犯則者ト見做サスジテ可然ヤ

○指令

(明治十年十月廿七日司法省指令)

同ノ趣印紙貼用シテ押印セサルモノハ押印セシムルノミヨテ罰スルニ及ハサル儀ト心得可シ

○伺

(明治十年二月十五日神奈川縣伺)

明治十年第十四号官令ニ煙草自用入ノ購求ニ宛候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ置ヘキ云々然ルニ臨時官員派出調査ノ際印紙不貼ノ物品アルキハ必ス警察官ニ付スヘキ者ニ有之而シテ該犯ノ如キハ明治八年第百五十号ノ官令煙草稅則第三則ノ何條ニ依リテ



處分スヘキ者ニ有之乎又ハ官令違犯ナルヲ以テ雜犯律違令條ニ照シ處分スヘキ乎

○指令

(明治十年二月二十六日司法省指令)

伺ノ趣印紙ヲ貼用セズ賣出ヌタメ店頭ニ展示スルモノハ未ダ賣渡サスト雖モ煙草稅則第三則第七條ニ依リ處分スル儀ト心得可シ

○伺

(明治十年十月十一日三重縣伺)

本年二月中神奈川縣ヨリ司法省ヘ伺ニ煙草自用入ノ購求ニ宛候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ置クヘキ御指令(第廿一号第二百七十八)ニ印紙ヲ貼用セズ賣出ヌタメ店頭ニ展示スルモノハ未ダ賣渡サスト雖モ煙草稅則第三則第七條ニ依リ處分スル儀ト有之然レハ假令其傍戸棚ニ入レ置クモノト雖モ常ニ扉ヲ開キ衆人ニ展示ヲ要スルモノハ店頭ト同視スヘキヤ尤モ右玉作箱詰紙束作疊紙等ニ裝成セルモノニテ御賣商人ノ小賣ヲ兼ヌルモノコシテ煙草商人ヘ賣却センカダメ堆ク店頭ニ積置分ハ此限ニアラス候ヤ

○指令

(明治十年十二月五日司法省指令)

伺ノ通

○訴訟用野紙

○布告

(明治八年十二月第百九十六号布告ノ内)

第十五條 前條ニ掲クル

○第十七章 訴訟用野紙規則ニ關スル罰則

ノ事

(明治八年十二月第百九十六号布告ノ内)

犯則人ヲ見認メ訴出ルモノハ事實取亂シ相違ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ

今般訴訟用野紙規則別冊ノ通相定メ來ル明治九年二月十五日ヨリ施行候條此旨布告候事

訴訟用野紙規則

第十三條 官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用野紙ヲ販賣スルモノハ其

品取上ケ販賣シタル野紙代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フモ

ノハ其品取上ケ買受ケタル野紙代五十倍過料申付ヘキ事

第十四條 野紙ヲ贋造スルモノ又ハ贋造セシ品ト知テ賣買スル

モノハ都テ其品取上ケ九十圓以内ノ過料申付ヘキ事

○賣淫

○布告

(明治九年一月十二日第一号布告)

改定律例第二百六十七條

○第十八章 賣淫罰則ノ事

(明治九年一月二十三日內務省乙第九號布達)

本年第一號ヲ以テ改定律例第二百六十七條

第十七 訴訟用野紙規則ニ關スル罰則 第十八 賣淫罰則



私娼街賣條例相廢シ賣淫取締リ懲罰ノ備警視廳並ヒニ各地方官へ任セラル候條此旨布告候事

○伺  
（明治九年一月二十日滋賀縣伺）

第一條 本年第一号ヲ以テ改定律例第二百六十

七條私娼街賣條例相廢シ賣淫取締懲罰ノ儀ハ警視廳並各地方官へ被任候旨御布告相成候ニ付テハ本月十二日前後ノ犯罪ニ拘ハラス總テ刑法上ニテハ不問ニ置クヘキヤ又ハ賣淫取締懲罰例取設候迄ハ管廳ノ許可シテ無鑑札ニテ娼妓不相成トノ地方官ノ布達ニ違ヒシ麻ヲ以テ違式又ハ違令等ノ律ニ問擬シ處罰スヘキヤ  
第二條 前顯懲罰例ノ儀ハ各地方官へ御委任相成候儀ニ付印稅其他諸罰則ハ異ナリ故ニ右懲罰例各地方ニテ發行セシ上之ヲ犯スモノアルキハ違式註違犯人ト同ク各地方警察掛ニテ處斷スヘキ儀ニ候ヤ

○指令  
（明治九年二月十二日內務省指令）

第一條 私娼街賣ノ罪ハ不問ニ置クト雖モ地方官ノ布令ニ違フノ罪ハ相當ノ處分ニ及  
第二條 伺ノ通

○伺  
（明治九年二月十九日滋賀縣伺）

本年第一号ヲ以改定律例第二百六十七條被廢候ニ付テハ賣淫懲罰例取設候迄ハ管廳ノ許可ナク無鑑札ニテ娼妓不相成トノ地方ノ布達ニ違ヒシ麻ヲ以テ違式又ハ違令等ノ律ニ問擬スヘキヤノ旨去ル一月二十日付テ以テ相伺候處私娼街賣ノ罪ハ不問ニ置クト雖モ地方官ノ布令ニ違フノ罪ハ相當ノ處分ニ及フヘシト本月十三日付テ以テ御指令アリ右ハ懲罰例施行以前ノ處分ニ係ル者ニ限ル行ニテ已ニ懲罰例施行ノ上ハ從前地方官ノ禁令モ亦之カタメ消滅スル理ニ付懲罰例施行前ノ犯罪施行後ニ發スルキハ警察官吏ノ處分ニ任セ刑法上ニテハ總テ不問ニ置クヘキ儀ト相心得可然ヤ

○指令  
（明治九年二月三日內務省指令）  
伺ノ通

○度量衡

（明治九年二月九日不明滋賀縣伺）  
本年第十七号ヲ以テ御布告相成候度量衡改正規則第五條ニ舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事トアリ若シ

第十九 度量衡規則ニ關スル罰則

廢止ノ儀御布告相成候ニ付テハ過料三十圓以內懲戒六ヶ月以內適宜ノ方法ヲ設賣淫取締一層行屆候様處分致スヘク此旨相違候事

但シ取締方法當省へ届ケ出ヘク事

○第十九章 度量衡規則ニ關スル罰則ノ事

（明治九年二月十九日第十七號布告ノ内）

度量衡三器別紙種類表ノ通改正候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

度量衡改正規則



之ニ違犯シ賣捌所ニ不申  
出自儘ニ他人ニ賣拂フハ  
ハ第六條ニ依リ賣捌人ハ  
律ニ照シ處斷スルハ勿論  
之ヲ買取スル者モ亦其品  
取上ケ律ニ照シ處斷スヘ  
キ節ニ候ヤ右規則中明文  
無之如何相心得可然ヤ  
但無檢印ノ器ヲ賣買ス  
ルハ假令秤ノ錘皿辨ノ  
縁鉄弦鉄等ヲ取離サ、  
ルモ商業上ニ用フルコ  
アラサレハ苦シカラサ  
ル儀ト相心得可然ヤ  
○指令  
（明治九年十月十三日司  
法省指令）  
度量衡改正規則第五條但  
書秤ノ錘皿云々取離シ古  
鉄トシテ賣買スルハ苦  
シカラス之レアリ全形  
ノ儘賣買スルハ固ヨリ禁

第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前  
所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月二  
十五日マテ右改所へ差出シ檢査ヲ受クヘ  
シ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用  
フル事ヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官員商家ニ  
入り用器ヲ視察スヘキ事  
但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル  
分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ  
總テ所持人ニ下戻スヘシ  
第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣  
捌一切不相成事  
但尺ハ尺杖等一時使用ノタメ目盛致シ

止ノ儀付同面ノ如キハ  
買者モ其品取上ケ律ニ照  
シテ處斷スル儀ト心得ヘ  
シ  
但書規則第三條本文ノ  
通心得ヘシ  
○伺  
（明治九年五月廿八日山  
形縣伺）  
度量衡三器改定ノ儀明治  
九年（二月）第十七号ヲ以  
テ御布告相或タル處尺杖  
等一時使用ノタメ目盛致  
シタルモノニ無之舊製ノ  
物指（竹製ニテ尺及ヒ二  
尺指ト唱フルモノ）檢査  
檢印ヲ不受分賣買スルモ  
ノアリ右ハ御規則中正條  
無之上ハ其罪ヲ問ニ不及  
モノト心得可然ヤ  
○指令  
（明治十年六月十五日司

辨ハ芋烏芋等ヲ量ルタメ箱ヲ製シ又ハ  
賣買スルハ苦シカラス  
第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ辨ノ縁鉄弦  
鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作  
所へ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ  
製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人  
自儘ニ致シ候儀不相成事  
第五條 舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必  
ス賣捌所ニ可申出事  
但秤ノ錘皿又ハ辨ノ縁弦鉄等ヲ取離シ  
古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス  
第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯スモノハ其

第十九 度量衡規則ニ關スル罰則



法省指令

品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

伺之趣官許ヲ得スシテ賣  
捌クモノヤレハ第三條ニ觸ル、ヲ以テ違令又ハ違式ニ問フ義ト可心得事

○伺

(明治九年十二月四日神戶裁判所制)

第一條 詐偽律偽造斛秤尺條ニ斛斗秤尺ヲ偽造スルモノハ流一等トアリ從前量衡ノ

二器ハ定制アリト雖尺ニ至リテハ未ダ定制アルヲ附カス曲尺鯨尺ノ名アレハ官制

ノ名ニアラス故ニ眞偽ヲ分別スルニ由ナシ明治九年第拾七号ヲ以テ三器規則御頒布

以前ニ若シ尺ヲ私造販賣セシモノ即今發露スルモノハ是ヲ直ニ本律ニ問擬スルニ頗

ル苛酷ニ覺ユ如何相心得可然ヤ

第二條 三器改定規則御頒布以後尺度ヲ變換シ(鯨尺ヲ金尺ニ換ヘ金尺ヲ鯨尺ニ換ル

ノ類)或ハ目盛ヲ改描伸縮シテ利チ圖ルモノハ明治六年第二百七十九号凡斛斗邊縁

ヲ増補シ秤量ノ標星懸紐ヲ變換シテ利チ圖ルモノハ懲役一年半情輕キモノハ不應爲

律ニ問ヒ輕重ヲ分ツト云權衡ニ照準シテ處分シ可然ヤ

第三條 三器ノ用タル百物依テ均一ナラス所ニシテ至ク政府ノ權内ニアルモノナレハ

人民ノ輒ク製造スヘカラサルハ云テ待タズ因テ三器規則御頒布後ハ無論本律ニ照シ

處分スヘキハ勿論ニ候ヘ其情狀ノ淺深一定ナラス依テ左ニ掲ル件々發露スルハ

酌量減等又ハ違制以下ニ問擬シ可然ヤ

一三器偽造シ竊カニ販賣シ及ヒ使用スル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

一全偽造シテ未ダ販賣及ヒ使用ヲナササル者

一全情ヲ知テ買フ者

航海

○伺

(明治九年九月二十七日  
神奈川縣伺)

本年三月第三十号公布外

國船乘込規則中犯者處分

ノ儀ニ付全月御省丙第十

三号ヲ以テ御達相成違式

註違條例中違式ノ部ニ増

加シ犯者有之節ハ重キニ

從テ處分致スヘキト有之

第二十章 航海規則ニ關スル罰則ノ事

第一節 外國船乘込規則ノ罰則ノ事

(明治九年三月十八日第三十號布告ノ内)

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ

左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第二十一、航海規則ニ關スル罰則



然ルニ同年五月第六十九号公布各地方違式註違條  
御改正追加相成候ニ付丙  
第十三号御達ノ儀モ即チ  
該公布ニ依リ犯狀ノ輕重  
ヲ酌量處分致シ可然ヤ相  
伺候也

○指令

(明治九年十月五日内務  
省指令)

書面ノ趣本年丙第十三号  
違罪目ノ儀ハ併セテ其處  
分方チモ指示候通ニ付追  
加第六條ノ旨ニ據リ輕重  
ヲ酌量スルニ不及候ト可  
心得事

○伺

(明治九年三月廿四日神  
奈川縣伺)

第七條 一該則第七條第  
九條中違式ニ照シテ處分  
スヘシト有之右違式ハ改

第七條

乘船証書ヲ所持セスシテ乘船シタ  
ルモノハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘ  
シ

第九條

右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ  
警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入  
港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ内國人ノ乘船  
又ハ上陸スルモノ、証書チ一々檢閲シ若  
シ証書ヲ所持セサルカ又ハ其証書最前ノ  
出船ニ受取リタルチ其儘再用シタルカナ  
視認メタルキハ詳カニ其所由チ取糾シ証  
書所持セサルモノハ乘船証書ヲ受取ル手  
續チナサシメ或ハ其乘込ミチ止ム証書チ

チ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

○第二節

違式註違條例中へ外國船乘込  
規則ノ罰則チ增加ノ事

(明治九年三月三十日内務省丙第十三號布達)

大坂府

神奈川縣

兵庫縣

長崎縣

新潟縣

其府縣違式註違條例中違式ノ部へ左ノ二條チ增加シ犯者有之節

ハ重キニ從テ處分可致此旨相違候事

一乘船証書ヲ所持セスシテ外國船へ乘込ミシ者

一乘船証書チ再用スル者

○遺失物

○布告

(明治九年四月十九日第  
五十六号布告)

遺失物取扱規則

○第廿一章

遺失物取扱規則ニ關スル罰則

(明治九年四月十九日第五十六号布告ノ内)

第廿一 遺失物取扱規則ニ關スル罰則



第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサル者ヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ証明スルニ於テハ直チニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス

○伺

(明治九年五月十七日枋木裁判所伺)

遺失物律改正第二項若シ官私地内云云ト之アリ私地トハ總テ民有地ニ属スルモノ皆同様に儀ニテ自他ノ所有ニ論ナシ假令地主所持地内ヨリ自ラ埋藏物ヲ掘得ルモ隱匿シテ官ニ送ラサレハ全檢處分可致儀ト相心得可然哉

但凡ソ人ノ邸宅内ニ於テ遺失物ヲ竊取スルモ例二百八十六條刪除相成ル上ハ遺失物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サ、ルモノト同様準竊盜ニ等テ減スル心得ニテ其情ヲ知テ其品ヲ受クル等ハ從トナシ亦一等ヲ減シ處分致シ可然ヤ

○指令

(明治九年五月廿七日司法省指令)

伺ノ通 但書隱匿ノ情ヲ知テ受クルモノハ坐贓ヲ以テ論ス可シ

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候專

遺失物取扱規則

第十四條 凡遺失物及ヒ逸走畜類若シクハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ

物主ノ其主タル事ヲ証明スルニ冒認シテ

返還セサル者ハ并ニ律ニ照シテ處分ス

○伺

(明治十年二月八日千葉縣伺)

爰ニ海中沈没物(價凡金二圓)ニテ沈没年時並ニ遺失主等不相分)ヲ得テ官ニ送ラサルモノアリ右ハ得遺失物律御改正以前ニ在テハ勿論例第二百八十二條ニ擬スヘキモノニ可有之候共同條御刪除ノ上ハ不問ニ置カルヘキカ如シト雖モ明治八年六十六号公布漂流物取扱規則中漂着物ヲ見附其物品ヲ私ニ使用スル者等律ニ照シ處分スト有之彼是參考スルニ沈没漂着各趣ヲ異ニスト雖モ取締上關係不尠ニ付其官ニ送ラサルニ至リテハ無罪ニ歸スヘキ筈ニ有之間敷ヤ被存候右ハ埋藏物ヲ掘得テ官ニ送ラサルニ比準シ求刑可然ヤ

○指令

(明治十年二月二十六日司法省指令)

伺ノ通

○伺

(明治八年五月廿五日滋賀縣伺)

第五條 漂着物ヲ拾得官ニ送ラサルモノハ得遺失物律ニ依リ處分シ若シ天災ニ罹ル漂着物タルヲ知テ官ニ送ラサルモノハ違令輕重ニ擬シ重キニ從ヒ處斷シテ可然ヤ

○指令

(明治九年二月三日司法省指令)

漂着品ヲ拾得ルモノハ其天災ニ罹ルト否トヲ問ハス都テ漂流物取扱規則ニ依リ處分スヘシ其官ニ送ラサルモノハ違令輕重ニ問擬ス

○贖造金銀紙幣

○第廿二章 贖造金銀銅貨紙幣取扱規則ニ

第廿二 贖造金銀銅貨紙幣取扱規則ニ關スル罰則



(明治十年七月廿六日岡山縣伺)

今爰ニ某甲アリ花小判天正壽永京目甲州小判等ノ五種ヲ贋造シ固ヨリ其情ヲ明サス乙某ヘ一種一箇ニ付若干金ニ買渡乙某全ク真正ノモノト信認シ尙又丙某ヘ若干金ニ轉賣ス丙買得ノ後不圖贋造ナラシ手ト疑團ヲ起シ試ミノクメ右判金ノ内一箇截斷セシニ果ソ眞物コアラヌ因テ乙某ヲ喚ヒ右截斷スル金ヲ相示候處乙驚愕初メテ贋造タルヲ知リ夫レヨリ直チニ某甲ヘ金員悉皆返還セント欲セシニ甲ヘノ路程二三十里モ有之彼是斷斷スル内途ニ甲某捕ニ就キ密糾スルニ果シテ贋造セシ旨逐一白狀スル處右判金ノ如キ渾テ價格比較表外ニ係ルモノニ付明治七年八月大藏省布達ニ依レハ全ク地金ト見做スヘキモノナシ其贋造シタル罪ハ法律ニ問ハサルヲ得サル儀ニ候哉又ハ止メ地金ヲ賣買セシモノト見做シ不問ニ於テ可ナルヲ果ソ問フヘキモノトスレハ乙丙ノ者モ當初眞物ト信認スルモ後ニ至リ贋金ナルヲ知リツ、尙官ヘ申報セサルコトヨリ是亦律ニ問フヘキハ無論ニ候ヤ

關スル罰則ノ事  
(明治九年四月十九日第五十七號布告ノ内)  
銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此條布告候事  
贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則  
第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスルモノハ相當ノ處罰ヲナスヘシ

○指令

(明治十年八月二十日司法省指令)

舊金銀貨幣價格比較表ニ係ラサル判金ハ地金ト見做スニ付之ヲ贋造シテ人ヲ欺クモノハ詐欺取財律ニ依リ其買受ルモノハ官ヘ申報セサルモ不問ニ置ク儀ト心得ヘシ

○伺

(明治十年八月一日岩手縣伺)

明治七年(九月五日)第九十三号ヲ以テ舊貨幣ハ租稅其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今令廢止旨御布告相成候處今日ニ至テ舊貨ヲ以テ相對取引候モノハ違令違式等ノ處分ニ及フヘキヤ

○指令

(明治十年八月二十二日司法省指令)

○帶刀

○伺

(明治九年四月十日埼玉縣伺)

本年第三十八号御布告帶刀被禁候ニ付テハ左ノ件々相伺候

第一條 帶刀スル者ハ違

○第廿三章 帶刀ニ關スル罰則ノ事

(明治九年三月廿八日第三十八號布告)

自今大禮服用并ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

第廿三 帶刀ニ關スル罰則



令ヲ以テ論シ法司ニ交  
附シ法司ニ於テ其罪ヲ

但違反ノモノハ其刀可取上事

科シ刀ヲ取上ケル儀ト可相心得ヤ將タ警察官吏ニ於テ其刀ヲ取上ケルマテ本人ハ直ニ放還スル儀ト可相心得ヤ

第二條 刀ヲ袋ニ入レ又ハ風呂敷等ニ包ミ帶シ或ハ携行スルモノハ不問ニ置キ可然ヤ  
第三條 柄並鑢等無之刀刃ヲ鞘ニ入レ帶シ或ハ携行スルモノハ帶刀スル者ヲ以テ論シ可然ヤ

第四條 往來旅人ノ帶刀スル者ハ當分ノ内御布告ノ趣相示シ脱刀セシメ袋ニ入ルハカ又ハ風呂敷等ニ包ミ候上携行爲致可然ヤ將タ御布告管内へ配達スレハ其當日ヨリ管内外ノ者差別ナク處分可然ヤ

○指令  
(明治九年四月廿九日内務省指令)

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事  
第一條 違反ノモノハ警察官吏ニテ其刀ヲ取上候迄ニテ別段處分ニ不及儀ト可相心得事

第二條 刀ヲ袋ニ入レ或ハ風呂敷等ニ包ミ携行候儀ハ不苦候事  
付シ別段風呂敷等ニテ爲  
包候儀ニ不及候事ト改達  
(該指令ハ佩帶スルヲ除クノ外不問ニ)

第三條 柄並鑢等無之刀刃ヲ帶シ候モノハ帶刀スル者ヲ以テ論シ尤モ携行スルモノハ風呂敷等ニテ爲包候儀ト可相心得事  
(該指令ハ佩帶スルヲ除クノ外別段風呂敷等ニテ爲包候儀ニ不及候事ト改達)

第四條 明治七年第四十八号御達ニ照準シ其縣期限ヲ經過スレハ管内外ノモノ差別ナク處分可然儀ト可相心得事

○伺

(明治九年十一月十日岡山縣伺)

本年太政官第三十八号公布ヲ以テ大禮服着用並軍人及ヒ警察官吏制規ノ服用用ノ外帶刀禁止ノ趣刀劔ヲ杖ニ仕込提携スルモノ有之右ハ帶刀ト異ナリト雖モ其實ハ帶刀全様ニ付其刀取揚可然ヤ相伺候也

○指令

(明治九年十一月二十九日内務省指令)

書面ノ趣刀劔ヲ杖ニ仕込携ソルハ取揚ニ不及候事

○第廿四章 衛生規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 天然痘豫防規則ノ罰則ノ事

(明治九年五月十八日内務省甲第十六號布達ノ内)

天然痘豫防規則別紙ノ通相定候條其方法細目并ニ右ニ關スル資用收集支給等ノ儀ハ各地方ノ便宜ニ從ヒ精々普及候様可取計此旨布達候事

第廿四 衛生規則ニ關スル罰則



天然痘豫防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此期ニ後ルモノハ其次第ヲ醫務取締若シクハ區戸長ニ届クヘシ

但初種ノ後五年或ハ七年毎ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條 種痘シタルモノハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ証書受取置クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ証書受取置クヘシ

第八條 第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セズ或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ種痘ヲ拒ミ若シクハ他人ヲ蠱惑スル等ノモノハ違式註違ヲ以テ論シ罰金ヲ科スヘシ

◎第二節 檢疫停船規則ノ罰則ノ事

(明治十二年七月二十一日第二十九號布告ノ内)

明治十二年(七月)第二十八號布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨布告候事

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンタメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少クハ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問



ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ヲ出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應ジ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但艙ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルキハ其検査ヲ受クヘシ  
檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ查閱シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得ヘシ

第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタルモノ無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫

局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルモ差支ナキヲ認ムルトキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒシ上速カニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速カニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫



官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以内艦内ノモノ有病ノ港ニ上陸セシメナク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中艦内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシメ無キ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サハルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ

第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ  
船舶來港前病毒滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セルキハ地方檢疫局ニ於テ至當トスヘキ程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ

消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル消毒法ヲ再ヒ施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙ホ三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ  
第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タルキハ該船ハ再ヒ消毒法ヲ施スニ止リ其在船ノ人ノミ地方檢疫局ノ必要ト考斷セル處置ニ從ハシムヘシ  
第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡



ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ヲクシテ往クヲ許サス  
 第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ムモノハ犯ス毎トニ  
 二百圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用  
 達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノため此規則ニ背キ  
 或ハ從フヲ拒ムキハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコ  
 アルヘシ  
 此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ弁償セサルモノアルトキハ民事  
 ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ 但罰金ハ科セサルヘシ  
 此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且  
 即時停留場ニ返ラシムヘシ

○第三節 傳染病豫防規則ノ罰則ノ事

(明治十三年七月九日第三十四號布告ノ内)

明治十三年(八月)第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病  
 豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢實布  
 埵利亞發疹室扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官  
 ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遅クモ二十四時間ニ之  
 ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ  
 之レヲ郡區長及最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之レヲ地  
 方廳(東京府下ハ府廳及警視本署)ニ届出ヘシ



但土地ノ便宜ニヨリ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ但流行ノ勢盛ナルキハ每週ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第四條 虎列刺發疹室扶私ノ病者アルトキハ地方廳ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他ノ四病ハ其流行ノ勢盛ナルニ及ヒ之ヲ施行スヘシ

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長該地方官協議シ此規則ニ從

ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第七條 醫師并ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムルモノハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ  
虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシ



ムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等

ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十三條 虎列刺流行スル中ハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨ

リ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アル中ハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナル中ハ地方長官ハ内務卿ニ具

狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適

當ノ人員ヲ撰ミ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群衆集ヲ差止ルヲ得

腸窒扶私病

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條

ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適

用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰

唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病



第十九條 發疹室扶私病流行ノ際ハ第十條第十一條第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ每回消毒法ヲ行フニアラザレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病流行ノ際ハ第十條第十一條第十二條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第廿四條 人民此規則ニ違背シタルハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

寫眞

○同

○第廿五章 寫眞條例ニ關スル罰則ノ專  
(明治九年六月十七日第九十號布告ノ内)

寫眞條例

第三條 版權ヲ得タルモノハ寫眞一版ニ付三

葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付十二葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第六條 第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スルモノハ其現存ノ寫眞ヲ沒收シ一圓ヨリ少カラス十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ仍ホ

(明治九年十二月廿三日  
長崎裁判所同)  
當縣肥前國杵島郡永野村  
平民田代多市儀先般海軍  
入隊中東京府下ニ於テ住  
所不覺寫眞屋ヨリ 主上  
御寫眞一枚買求メ所持罷  
在歸郷ノ後盜難ニ遭ヒ候  
節右御寫眞外品一同被持  
去犯人捕獲ノ上外品ハ事  
主多市ヘ下渡シ右御寫眞  
ハ其原由賣買ニ係ルヲ以  
テ取上置候處右品ハ本省  
ヘ差出シ候儀ト相心得可  
然哉  
退テ 主上御寫眞ハ賣買  
スヘガラサルモノニ付本  
文ノ如キ其原由賣買ニ係

第廿五 寫眞條例ニ關スル罰則



ルハ勿論取上候トモ方今  
文明進歩ノ際ニ當リ上下  
隔絶ノ弊ヲ除カレ先般各  
府縣ニ於テ下民一般至尊  
ノ御寫眞拜謁差許サレ候  
ハ率土ノ濱寒郷ノ小民ニ  
至ルマテ 尊影ヲ熟知可  
罷在御主意ニ可有之然ル  
ルハ御寫眞ヲ他ヨリ贋ヒ  
受ケ所藏尊敬致居ルモノ  
、如キハ小民ト雖モ所藏  
爲致置キ不苦儀ト相考テ  
レ付テハ萬一本文ノ如キ  
次第有之節、其儘事主へ  
相渡シ可然哉

○指令

(明治十年一月廿六日司法省指令)  
伺ノ通 追書他ヨリ賞受ケ所藏スル者モ御寫眞ハ取上ル儀ト心得ルベシ

○國立銀行

○布告

(明治九年八月一日第百

版權ヲ追奪スヘシ

第七條 他人ノ版權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ  
免許ノ名ヲ冒認シ及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情  
ヲ知テ轉賣スルモノハ現存ノ寫眞ヲ沒收シ  
二圓ヨリ少ナカラス二十圓ヨリ多カラサル  
ノ罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム  
但原主ヨリ訴へ出ルニアラサレハ受理セ  
ス

○第廿六章 國立銀行條例ニ關スル罰則ノ

事

六號布告ノ内)

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發  
行スル公債証書ヲ抵當  
トシテ之ヲ大藏省ヨリ預  
ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣  
ヲ受取り引替ノ準備金  
ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ  
其業ヲ營ムモノナリ今  
之ヲ創立スルニ付大日  
本政府ニ於テ制定シタ  
ル條々左ノ如シ  
第一章 銀行創立ノ方法  
創立証書銀行定款ノ差  
出方及ヒ開業免狀ノ下  
附並ニ諸役員撰任方法  
等ノ事ヲ明カニス  
第一條 此條例ヲ遵奉シ  
國立銀行ヲ創立セント  
欲スルモノハ何人ヲ論  
セズ(外國人ヲ除クノ  
外)五人以上結合シタ  
ル人々成規第一條ニ揭

(明治九年八月一日第百六號布告ノ内)

明治五年(十一月)第三百四十九號布告國立

銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正  
致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行  
創立セントスルモノハ勿論從來舊條例ヲ遵  
奉シテ創立シタルモノト雖モ右改定條例ニ  
準據シ大藏省へ出願ノ上其免許ヲ受ケ候様  
可致此旨布告候事

國立銀行條例

(第一章)

第十一條 創立証書銀行定款ノ寫又ハ版本  
等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリ

第廿五 國立銀行條例ニ關スル罰則



シル所ノ手續ヲ以テ其  
創立願書ヲ大藏省ノ紙  
幣察ヘ差出スヘシ紙幣  
頭之ヲ檢按シ相當ト思  
慮スルニ於テハ之ヲ大  
藏卿ニ稟議シテ其銀行  
創立証書及ヒ銀行定款  
ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ  
受ケタル人々ハ各其姓  
名ヲ創立証書ニ記入シ  
諸般ノ手續ヲ經テ其創  
立証書ニ紙幣頭ノ承認  
許可ヲ受クルニ於テハ  
此條例ニ規定セル箇條  
ヲ遵奉シ以テ國立銀行  
ヲ創立スルヲ得ベシ而  
シテ其創立証書ニ掲載  
スヘキ件々ハ左ノ如シ  
第一 銀行ノ名号

但シ此名号ハ紙幣  
頭ノ承認許可ヲ得

第二 銀行ノ本店及ヒ  
支店(若シテアラハ)

第三 銀行ノ資本金額  
及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限  
第五 株主ノ姓名住所  
屬族職業(若シテア  
ラハ)及ヒ其引受ケ

第六 此創立証書ハ此  
條例ヲ遵奉シ銀行ノ  
事業ヲ營ナシ株主一  
同ノ利益ヲ謀ルタメ  
取極メタル旨

第十條 此條例ニ從ヒ紙  
幣頭ノ記名調印シタル  
開業免狀創立証書銀行  
定款ハ何レノ裁判所何  
レノ官廳ニ於テモ之ヲ  
正確ナル証據トシテ採

ノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所  
ノ代價ヲ以テ之ヲ附與スヘシ若シ銀行右  
付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠  
慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納  
ムヘシ

(第二章)

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主  
等株金ノ月賦入金ヲ怠タルハ頭取取締  
役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續  
ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シ其入  
用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ  
返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取

リタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有  
スヘシ

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フモノ  
アラサルトキハ是迄テ入金シタル金高ハ  
銀行ニ沒入シテ其株ヲ消スヘシ尤モ此消  
株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定  
スル所ノ制限ヨリ減少スルハ頭取取締  
役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿  
タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルハ  
紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡  
引受人ヲ命スヘシ  
第三十六條 右株主帳ハ銀行其開業免狀ヲ



用セラルハナ得ヘシ  
 第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ額店其他ノ事故アルコトヲサレハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ヶ年ノ間其營業ヲ取續クコトヲ得ヘシ右期限ヲ過キ尙營業セント欲スルコト於テハ其趣ヲ紙幣頭ヘ申請シテ更ニ免許ヲ受クヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方官ノ面前ニ於テ誓詞ヲナシ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ

領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閲スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閲ヲ拒ミタルハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ但銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一ヶ年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閲ヲ停止スルコト得ヘシ

差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

第二章 銀行資本金  
 ノ制限公債証券銀行紙幣交収ノ割合並ニ其手續及引換準備金等ノ事ヲ明ニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資金額ハ十萬圓ヨリ下ルヘカラス尤人口十萬人以上ノ地ニ於テハ二十萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テルニ於テハ五萬圓以上十萬圓以下ノ資本金ニテモ創立ヲ許ス事アルヘシ

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカタメ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條第四十三條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第廿五 國立銀行條例ニ關スル罰則



若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戾シ資本金減少ノ報告  
又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアル中ハ紙  
幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

(第四章)

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通  
用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナスモノ  
アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル  
所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸付  
金預リ金爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ  
目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セシテ唯公債証書ノ賣買  
ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所  
ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職  
工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許  
サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ  
賣買シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スルノ事ハ此條例ニ於テ  
之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從  
フヘシ

- 第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキタメ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取  
リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ
- 第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引  
取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ
- 第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシ



テ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂  
フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳  
ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタル  
モノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸  
金ニ返濟スルタメニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り  
之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質  
物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ紙幣ヲ抵當ニ取りテ  
貸附金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナリ  
又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損  
失トナルコトヲ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコト

ヲ得ヘシ尤其株ハ遅クモ六ヶ月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノタメ銀行紙幣ヲ發  
行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過  
スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルキハ紙幣頭ハ之ヲ  
督促シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ  
旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過  
キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ  
取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲  
ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金  
ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲナサ  
シメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右全額ノ罰金ヲ納



ムヘン若シ又銀行ノ頭取々締役支配人其他人ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用井シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約束手形切手証書注文書受取証書受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用井ルモノ前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルキハ拾圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形約束手形切手注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サハルキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主へ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形約束手形ヲ振出し又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノノ如

キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノタメニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產（動產不動產）ノ別ナク一ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委托其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉アル毎トニ其事由并ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受托人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取々締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取々締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サテニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五十圓ヲ踰エサル罰金



ヲ納ムヘシ

但右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル證據トシテ何  
レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラル、ヲ得ヘシ

(第七章)

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ  
記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十  
五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭へ差出シテ其承  
認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ  
怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日ヨリ)ハ怠慢時間一  
日ニ付十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取々締役等故サラ  
ニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右全額ノ罰金  
ヲ納ムヘシ

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條  
例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ  
正シク記載シタル寫シヲ各株主へ分賦スヘシ○若シ銀行此箇  
條ヲ遵守セズシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於  
テハ右寫一通ニ付五圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取々締  
役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右  
全額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タルモノハ其銀行ノ  
營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊  
及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セ  
ズシテ株主ノ點檢ヲ拒ムキハ五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ  
且頭取々締役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃



セシ中ハ右全額ノ罰金ヲ納ムヘシ

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル  
タメ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ(定例臨時ノ別ナク)官員  
ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ検査セシムヘシ

但紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地  
方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別ナク)検査  
セシムルコトアルヘシ尤モ右検査ニ從事シタル地方官ハ其檢  
査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコ  
トアルハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘ  
シ○若シ銀行ノ頭取々締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ  
怠ル紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ

差出サシムルキハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十  
圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

(第十章)

第八十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役タルモノハ自  
ラ此條例ノ箇條ニ悖ルヘカラス或ハ銀行ノ役員其他ノ者ヲシ  
テ之ニ悖ラシムヘカラス若シ背戾ノコトアルニ於テハ此條例ニ  
於テ其銀行ヘ附與シタル特殊ノ權利ハ悉ク之ヲ取上クヘシ  
但右頭取々締役此條例ニ背戾スルキハ紙幣頭ハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ヘ通達シテ之ヲ推純シ其罪ノ實  
アルニ於テハ即チ其銀行ヲ鎖店セシムヘシ

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役等若シ此條例  
ニ背戾スルコトアリテ夫レカダメ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受



ケシムルハ其損失ハ頭取々締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任ス  
ヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ  
役員タルモノハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ  
又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取々締役ノ承認ヲ得  
スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換  
手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換  
手形諸証書質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラ  
ス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカ  
ラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ  
著テ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺ガント謀  
テモノハ皆テ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ  
役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借り得ヘキ金額ノ外ハ  
自身及ヒ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行  
ヨリ借財ヲナスモノノタメ其証人又ハ受人トナルヘカラス○  
若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戾シテ借財ヲナシ又ハ証人受人  
トナリ又ハ人ヲシテ之ヲナサシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事ヲ  
爲シハ此等ノ役員ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラザ  
ル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戾セシモノヨ  
リ速カニ銀行ヘ返濟スヘシ

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取々締役支配人其他ノ  
役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總  
テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ



(第十一章)

犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ除クノ外

何人又ハ何會社ヲ論セス總テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フ

ヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣全様ニ通

用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ

發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯スモノアルニ於テハ何人

ヲ論セス皆テ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣

ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造

スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知リテ之ヲ通用スヘ

カラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘ

カラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカ

ラス描改セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用

セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類

似スルモノハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘ

カラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品

ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス

又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數

件ヲ犯スモノアルニ於テハ皆テ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又

ハ爲換手形約束手形其他証書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ

又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニス



ル等ノコチナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカ  
ラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所（又ハ府縣ノ  
聽斷主任官員）ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ  
拂ハシムヘシ

（第十二章）

第九十四條 右地方官ノ報知ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ速カニ檢  
査ノ官員ヲ命遣シ其事實ヲ推糾シ其背戻ノ事實相違アラサル  
ハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取々締  
役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸證書類又ハ抵當物地所等ヲ他  
人ニ讓渡シ又賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件  
ヲ預ル格カラス若シ頭取々締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ

背キ或ハ讓渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ヲ引受テナス  
コアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元  
ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣  
シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セ  
シムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀  
行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ没入スヘキ旨ヲ（右  
報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ）申渡シ其公債証書ヲ取上  
クヘシ

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知  
ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人  
ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ニ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金立



替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官)ニ謀  
 リテ滯リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其  
 銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シ  
 テ之ヲ株主ヘ割戻シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物  
 ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

第百三條 此條例第九十二條ニ掲載スル如ク銀行紙幣ノ引換或  
 ハ預リ金ノ返濟ヲ拒ミ之カダメ生スル處ノ費用即チ紙幣持主  
 或ハ預ケ金アル者ノ出願入費及ヒ諸檢査推糺ノ入費跡引受人  
 ノ入費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以テ紙幣頭之ヲ取極メ其銀行ヨ  
 リ之ヲ辨償セシムヘシ

(第十四章)

第百十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罰科ニ

付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官)之ヲ裁判處分スヘシ但  
 シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スルハ其時ニ  
 當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官)ニ於テ相當ト思考スル  
 罰金(三圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラザル額數)ヲ右犯  
 罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

○第廿七章 米商會所條例ニ關スル罰則ノ事

○第一節 米商會所條例罰則ノコト

(明治九年八月一日第百五號布告ノ内)

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣  
 買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年(十二月)  
 第百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相  
 定候條營業致度モノハ右ニ照準可願出此旨布告候事



米商會所條例

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員

タルモノ株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背

犯セシメタル實証アルトキハ役員并ニ本人トモ其事ノ輕重ニ

ヨリ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ科スベシ(三百圓以下ヲ千圓以下ニ改正)

第二節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答

弁ヲナサハルモノアルトキハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下

ノ罰金ヲ科スヘシ(此第二節ヲ第三節ト改正)

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付クルハ除名或ハ

株金身元金約定證據金ノ高ニ超ユカラス(此第三節ヲ第四節ト改正)

○第二節時米商會所條例罰則改正ノ事

(明治十三年四月十五日第十九號布告ノ内)

明治九年(八月)第百五號布告米商會所條例中左ノ通改正加除候

條此旨布告候事

米商會所條例第十九條

第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員

タルモノ株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背

犯セシメタル實証アルトキハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ

三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 前節ヲ犯シタルモノヲ告發シタル者ニハ其告發ニ依テ

科シタル罰金ノ半額ヲ給ス

第三節 從前ノ第二節

第四節 從前ノ第三節

第廿七 米商會所條例ニ關スル罰則



○第三節 米商會所等ニテ竊ニ賣買取引ヲナス者罰則ノ事  
(明治十三年四月十五日第二十一號布告)

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内々前田竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場(定期ヨリ起リタル現場ヲ云フ)賣買其他之ニ類似シタル取引ヲナシタルモノ及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタルモノ若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者八十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効トナスヘシ

但本條ヲ犯シタルモノヲ告發シタルモノニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタルモノノ事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル中ハ其罪ヲ問ハス(明治十三年九月十三日大藏省甲第二號布告達ヲ以テ)  
橫濱株式取引所  
上改稱

右布告候事

○藥品

○布告

(明治十年一月廿日第七号布告ノ内)  
賣藥規則

第一章 第一節 此規則ニ稱スル

所ノ賣藥ハ丸藥膏藥煉藥水藥散藥煎藥等家方ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用功効ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ内務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ  
第三條 内務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘

○第廿八章 藥品取締規則ニ關スル罰則ノ事

○第一節 賣藥規則罰則ノ事

(明治十年一月二十日第七号布告ノ内)

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

賣藥規則

第一章

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有毒品ナルヲ更ニ發見スルトキハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノフアル中ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スル



ハラス販扱上失誤ヲ生  
シ易キモノ及ヒ毒藥取  
締ニ關係スルモノハ之  
ヲ許ササルヘシ

第四條 第八條ニ記シテ

ル期限中藥味分量用法  
服量能書ヲ改正セント  
欲スルモノ其由ヲ届出  
舊鑑札ヲ返納シテ更ニ  
新鑑札ヲ願受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ  
受賣者共必ス免許ノ看  
板ヲ掲グヘシ

第十五條 賣藥營業者廢  
業シ若クハ禁止セラレ  
タルトキハ營業者ハ勿  
論其受賣者ニ於テモ給  
テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者及  
ヒ受賣者ハ左ノ通税金  
并ニ鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅 藥劑一方  
金二圓

付一枚 金二十錢

賣藥受賣鑑札料 藥劑  
ノ方數ニ拘ハラズ一枚  
金二十錢

賣藥行商鑑札料 藥劑  
ノ方數ニ拘ハラズ一人  
一枚 金二十錢

第十七條 水火盜難ニヨ  
リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新  
鑑札ヲ願受クルトキハ  
其鑑札料ノ半高ヲ納ム  
ベシ

〇布告

(明治十三年一月十七日  
第一号布告ノ内)

藥品取扱規則

第一條 凡ソ藥品中最注  
意シテ精選スヘキモノ

アルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラ  
ルハトキハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ  
許サス

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行  
商シ又ハ行商セシムルモノ及ヒ之ヲ貸ス  
モノ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ自ラ行  
商シ又ハ行商セシムルモノハ其鑑札ヲ取  
上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第三章

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ  
期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スルモノ及ヒ

無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ  
貸スモノハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ  
藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ請ケスシテ私ニ藥味分  
量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經  
スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ眩惑ス  
ルモノハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥  
劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金  
ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スルモノハ其  
製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付二  
十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第廿八 藥品取扱規則ニ關スル罰則



第一類(注意藥)トシ  
其性效峻烈ニシテ僅少  
ノ分量ト雖モ直チニ生  
命ヲ傷害スルニ足ルヘ  
キモノヲ第二類(毒藥)  
トシ其性効第二類ノ如  
ク峻烈ナラサルモ用量  
ニ因テ容易ニ危害ヲ來  
スヘキモノヲ第三類(劇  
藥)トス其類目別表  
ノ如シ

但新タニ發見及ヒ舶  
來シタル藥品ハ先ツ  
最寄司藥場ニ出シテ  
試験ヲ受ケ其告示ス  
ル所ニ從フヘシ

第一類(注意藥)表  
印度大麻葉及其製劑、莨  
菪葉並根及其製劑、麥奴  
及其製劑、番木鱈子及其  
製劑、乳酸鉄、ベロシチ  
吐根、吐酒石、礆砂精(

アンモニア水)、ヂキタ  
豆及其製劑、肝油、  
ヤウム、沃土加里、沃土  
銻舍里別、第一沃土永(黃  
色沃土)、第一コロ  
ル永(甘永)、第二コロ  
ル永(鼻永)、猛永、  
ロール永(ソベルマイト)  
炭酸アンモニヤ(礬砂)、  
老利爾結兒私氷並苦扁挑  
水、葛陀羅華及其製劑、  
葯刺巴脂並球根及其製劑  
莞菁(班猫)、コロ、フ  
オラム、コロラルヒドラ  
イト、格魯失屈謨質及其  
製劑、格魯蕪質及其製劑  
劑、アトロヒ子鹽類、阿  
片製劑、サントニイチ、  
醋酸アンモニア水(ミン  
アレ)、精、薩爾撒根、サ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣

藥ヲ贗造シテ發賣スルモノハ其製藥及ヒ  
其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五十圓以  
上ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スルモノハ  
其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入  
シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰  
金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル  
者アルホハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テ  
ハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○第二節 藥品取扱規則ノ罰則ノ專

(明治十三年一月十七日第二号布告ノ内)

藥品取扱規則左ノ通相定來ル二月十五日ヨ  
リ施行シ明治十年(二月)第二十号布告毒藥  
劇藥取扱規則ハ右同日限リ相廢候條此旨布  
告候事

藥品取扱規則

第二條 第一類藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハ  
ラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的  
ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製  
品(故意ニ他物ヲ混シタルニアラス全ク  
化學製造上或ハ採收ノ際其法疎漏ニシテ  
純精ナラサルモノ、類チ云フ)ハ之ヲ藥



リシール酸及鹽類、機肌皮、規尼涅鹽類、綿馬及其製劑、硝酸銀、失鳩答草及其製劑、蔞酸セリウ臭素加里(ブロームカリ私)、エーテル(アエーテル)、鹽基性硝酸蒼鉛、ヒヨス藥及其製劑、蓖麻子油、莫爾比涅鹽類、水素還元鉄、

第二類(毒藥)表  
 磷、カソタリヂ、チ、クラーレン(矢毒)、亞砒酸(異名 白砒石 礬石)其製劑及砒抱合物(雞冠、雄黃、雌黃)、揮發苦扁挑油、有毒性アルカロイド並其鹽類

ニコチチ、チキタリチ、ナルヒイチ、ウエラトリチ、フルシチ、ココロイチ、コアイチ、アトロヒチ、アココチチ、エノチチ、ヒヨシアミチ、モルヒチ、ストリキニイチ、等

猛烈毒劑  
 白降汞、第一沃汞、第二沃汞、昇汞、赤降汞、硝酸亞酸化汞、青酸汞、生々乳

青酸及其製劑

第三類(劇藥)表  
 印度大麻葉及其製劑、莨菪葉並根及其製劑、番木鱧及其製劑、巴豆及巴豆油、麥奴及其製劑、ポドヒリオン、ヘルホル根及其製劑、吐根及其製劑、吐酒石其他安質莫尼製

用下シテ販賣スヘカラス

但藥舖ニ於テ自ラ其良否ヲ鑑別シ能ハサルトキハ最寄司藥場ニ請ヒ無費ニテ其試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 第一類中ノ粗製品ト雖モ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其ノ器ニ明記シ之ヲ販賣スルヲ得

第四條 第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ目的年月日及ヒ住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニアラサレハ決シテ販賣或ハ授與スヘカラス

但證書處方書ハ之ヲ保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ且本條ノ手續ニ依ルモノト雖モ幼稚ノ者其他不安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラス

第五條 第二類第三類ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙ヘ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ且第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇ノ字ヲ明書スヘシ

但醫師ノ處方書ニ據ラスシテ封緘ヲ開キタル第二類第三類ノ藥品ヲ小賣若ク







○伺  
 (明治十年八月十八日神奈川縣伺)  
 本年第七號公布賣藥規則第六條ニ乖戾ニ免許ノ看板ヲ掲ケサルモノ第七條行商鑑札ヲ願受ケ所持スルモノ行商ノ際鑑札ヲ携帶セサルモノ第十二條其仔細ヲ届出云々ノ手數ヲ盡サス依然營業ヲナスモノ處分方該規則第三章罰則中正條無之ニ付第一項第二項ハ違令ヲ以テ第三項ハ無鑑札ヲ以テ罰則ニ照シ處分可致哉他ノ條目違犯者處分方ハ罰則ニ照依シ特リ第一項第二項ニ限リ違令ヲ以テ論スルハ權衡當チ得サル標相考候ニ付此段相伺候也  
 ○指令

石炭酸其他劇藥ハ本年(一月)第一号布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ミノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事  
 ○第四節 藥用阿片賣買并製造規則ノ罰則ノ事  
 (明治十一年八月九日第二十一号布告ノ内)  
 明治三年(八月)布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買并製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事  
 但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事

藥用阿片賣買并製造規則

(明治十年九月六日司法省指令)  
 伺ノ趣三項其後來ヲ戒諭スルニ止リ處罰ニ及ハス

第三條 各司藥場ヨリ拂下クル所ノ阿片ハ

量目一匁ヲ以テ一器トシ每器司藥場ノ印紙ヲ貼付スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受ケタル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條 特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度最寄司藥場(司藥場ナキ地方ハ該地方廳)ニ申立テ其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケヲ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルトキハ其量目并ニ其住所姓名及年月日(病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名)ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目



一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ証書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ時許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受并ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名并ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤モ一匁以下ノ分ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ

第十一條 醫師病院一般藥賣ニ於テハ每半年必シモ前條明細表

ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スルモノハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ内務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但司藥場ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十六條 此規則ニ違犯スルモノハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若ク



ハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○鳥獸獵

○布告  
(明治十年一月廿三日第十一号布告ノ内)

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノタメニスルヲ遊獵トス

第十二條 凡テ出獵スルモノハ必ス其免狀ヲ携帶スヘシ出獵中警察官吏區戸長村役人等免狀ヲ看シテ請フモノアル

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスルハ第

○第廿九章 鳥獸獵規則ニ關スル罰則ノ事

(明治十年一月二十三日第十一号布告ノ内)

鳥獸獵規則別紙ノ通改正候條此旨布告候事

鳥獸獵規則

第二條 銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除クガタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第四條 免狀ハ其效一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルヲ禁ス

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵

ヲナスヲ禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ場所

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ノ

下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置ク

ヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等

ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タルモ

八條所示ノ如キ制札ヲ建テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲナシヘシ  
第十八條 開拓使管内ニ入リ鹿獵ヲナスモノハ該使施行ノ規則ニ遵フヘシ(明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ本條ヲ追加ス)

○伺

明治九年四月四日飾磨

縣伺

官廳ノ檢査ヲ申受ケス獵銃ヲ私畜致シ猶也他ノ職獵免許人ノ誘引ニ應シ右

私畜ノ銃砲相携ヘ山谷間ニ奔走スル終日ニシテ一

鳥獸ヲ見得サルヲ以テ一度モ彈發致サス右ハ規則

ニ照シ銃砲取揚ケ更ニ五十錢ノ過料申付シルハ勿

論ナリト雖モ一度モ彈發



セス一物ヲ獲サレハ無免  
許擅獵ノ罰ニ科シ難キ乎  
將タ己ニ驅獵ノ地ニ至リ  
其事ヲナスヲ以テ犯則ノ  
モノト看倣シ處分可然ヤ

○指令

(明治九年四月二十七日  
司法省指令) 伺ノ通

○伺

(明治十年四月十二日福  
島裁判所伺)

爰ニ勳モスレハ人ヲ咬傷  
スル惡犬アリ某甲之ヲ愛  
ヒ所持ノ無鑑札銃ヲ以テ  
人家ヲ距ルニ五十間以内  
ニ於テ銃殺スルコト乙某之  
ヲ官ニ陳告ス甲ノ銃器ヲ  
ルヤ銃砲取締規則ニ照ラ  
シ處分スルハ勿論ナリト  
雖也其惡犬ヲ銃殺スルモ  
ノ之レヲ明治十年一月廿  
三日第十一号御布告鳥獸

ノハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四忽八分以下並ニ

西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃ヲ用フルヲ禁ス

但開拓使管内ニ限り和銃玉目十忽以下

ヲ用ルヲ得ヘシ (明治十年十二月十七日第八  
十五号ヲ以テ此但書ヲ加フ)

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十

五日迄ヲ以テ一期トス是時限ノ外ハ銃獵

ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ己ムヲ得ス此期限

ヲ伸縮スルキハ其理由ヲ内務省ヘ届出

ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出マテノ時間ハ銃獵

ヲ禁ス

第十四條 凡テ一期内再犯以上ノモノハ其

罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスルモノニアラス

シテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵スルモノハ五

十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵

ヲ禁スヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則

ヲ犯スモノハ三圓ヨリ少ナカラス二十圓

ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

○指令  
分可及カ若シ然ラハ乙某告發ノ賞譽ハ給與セスシテ可然哉

(明治十年五月八日司法省指令) 伺ノ趣銃砲ハ銃砲取締規則ニ照シ處分シ鳥獸獵違犯  
ノ廉ハ同規則第二條ニヨリ全第十七條ニ照シ處分スヘシ